

東近江市森の文化資源調査報告書 3

自然調査報告書

令和 8（2026）年 3 月

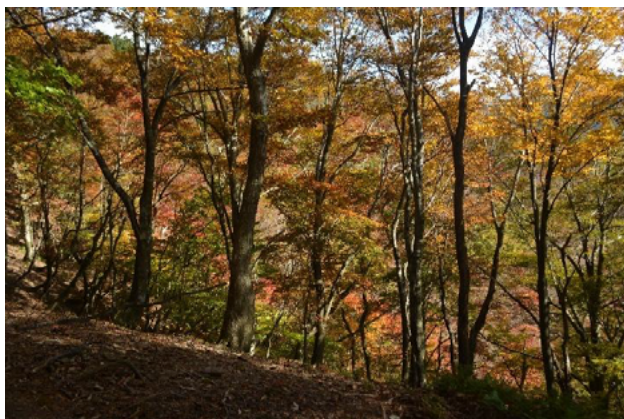
東近江市



湖東流紋岩



チャート



ブナ林



クサギ



ニッポンヒロコバネ



オドリハマキモドキ



ビワマス



イワナ



マホロバサンショウウオ



シマヘビ



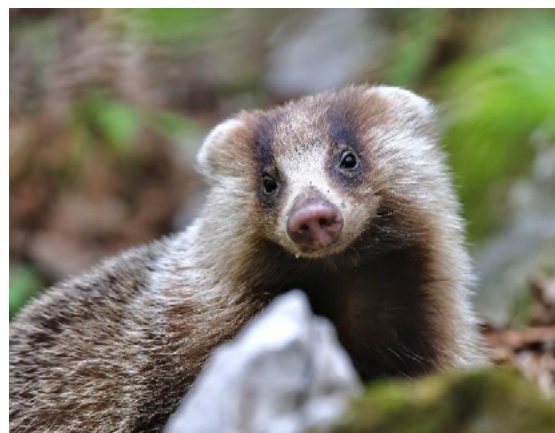
クマタカ



キビタキ



ニホンジカ



アナグマ



炭窯跡（枉葉尾町）



茨川町の廃村風景

例言

1 本書は、東近江市が実施する東近江市森の文化資源調査事業の一環として、動植物や地質、岩石、森林と人との関わりを調査した結果の概要を記す。本事業は、対象範囲である滋賀県東近江市域に位置する鈴鹿山脈の山域を、「鈴鹿の森」と呼称して調査を実施した。

2 本書に記した情報は、原則として2023年度（令和5年度）から2024年度（令和6年度）までの間に実施した調査内容を記している。ただし、追記する必要がある情報に関しては、2025年度（令和7年度）の調査結果を記した場合もある。調査で得られなかった内容に関しては、文献などを参照して補足している。

3 本事業に伴う調査体制は、(1)～(3)のとおりである。

(1) 自然分野調査員

- ・深町 加津枝（京都大学大学院地球環境学堂准教授）
- ・山崎 亨（東近江市参与、アジア猛禽類ネットワーク会長）
- ・寺本 憲之（滋賀県立大学環境科学部客員研究員、滋賀県立琵琶湖博物館研究部特別研究員）
- ・藤岡 康弘（滋賀県立琵琶湖博物館研究部特別研究員）
- ・亀甲 武志（近畿大学農学部水産学科准教授）
- ・磯部 敏雄（東近江市立朝桜中学校常勤講師、鉱物化石研究家）
- ・高柳 敦（京都大学大学院農学研究科准教授）
- ・千々岩 哲（滋賀自然環境研究会）
- ・小西 民人（滋賀県森林インストラクター一会副会長）
- ・水田 有夏志（公益財団法人淡海環境保

全財団 技術マネージャー）

- ・能政 研介（クマタカ生態研究グループ）

(2) 令和5～6年度事務局

東近江市

企画部長 曾羽 道明

企画部次長 中堀 智之

企画部管理監 古川 暁

政策推進課森の文化博物館準備室

室長 西川 寛

参事 明日 一史

主任 西堀 太貴

主任 竹村 祥子

(3) 令和7年度事務局

東近江市

企画部長 中堀 智之

企画部次長 古川 暁

企画部管理監 丸橋 裕一

企画部森の文化推進課

参事 明日 一史

主任 竹村 祥子

主事 西村 篤

文化財専門員 和田 のどか

- 4 本書の執筆者は各章の題名の下に記載し、編集は和田のどかが担当した。

目次

口絵	(イ) 針広混交林	13
例言	(ウ) 落葉広葉樹林 (夏緑広葉樹林)	
1 調査対象範囲 (鈴鹿の森の概要) ...	1	13
2 日本列島と鈴鹿山脈の成り立ち.....		3
(1) はじめに	(エ) モミ・ツガ林	14
(2) 日本列島の形成史	(オ) 常緑広葉樹林	14
(3) 日本列島形成時の鈴鹿山脈.....	(3) 積雪による植物相への影響.....	15
(4) 古琵琶湖の誕生	(4) 日本の地域的な植物相.....	15
(5) 鈴鹿山脈の隆起	(5) 滋賀県の植物区系	16
(6) 参考文献	(6) 鈴鹿の森の植物区	16
3 鈴鹿の森の地質と鉱山.....	(ア) 鈴鹿北部植物区	16
(1) はじめに	(イ) 鈴鹿中・南部植物区	16
(2) 鈴鹿の森の地質	(7) 鈴鹿の森の特筆すべき植生.....	18
(ア) 石灰岩	(8) 参考文献	18
(イ) 緑色岩類	5 鈴鹿の森の昆虫.....	19
(ウ) 碎屑岩類 (砂岩・泥岩)	(1) はじめに	19
(エ) チャート	(2) 昆虫相から見た鈴鹿山脈の特徴..	19
(オ) 湖東流紋岩	(3) 滋賀県と鈴鹿の森の種数の比較..	19
(カ) 花崗岩	(4) 地域・環境ごとの昆虫の特徴と分布	19
(3) 鈴鹿の森の鉱山	(ア) 森林性の昆虫類	20
(ア) ジュルミチ鉱山	(イ) 草地性の昆虫類	21
(イ) 大蔵谷旧鉱	(ウ) 裸地性の昆虫類	21
(ウ) サブクラ谷上流旧鉱	(エ) 水生昆虫類	21
(エ) 御池鉱山	(オ) コケ類を食べる原始的な昆虫類	21
(オ) 杉峠鉱山	21
(カ) 向山鉱山	(5) 参考文献	21
(4) 参考文献	6 鈴鹿の森とその周辺水域の魚類....	22
4 日本と鈴鹿の森の植物.....	(1) はじめに	22
(1) はじめに	(2) 鈴鹿の森とその周辺水域の特徴..	22
(2) 日本の植物相の概要—水平分布・垂	(3) 愛知川上流水域の魚類.....	22
直分布	(ア) 現地調査による結果	22
(ア) 常緑針葉樹林	(イ) 文献による調査記録	23

(4) 愛知川中流水域の魚類.....	24	(ア) 絶滅または激減した種	33
(5) 愛知川下流水域の魚類.....	24	(イ) 増加した種	33
(6) 湖東平野の水田域の魚類相.....	25	(ウ) 侵入してきた外来種	33
(7) 参考文献	25	(7) 参考文献	33
7 鈴鹿の森の爬虫類・両生類.....	27	9 鈴鹿の森の哺乳類.....	35
(1) はじめに	27	(1) はじめに	35
(2) 滋賀県の爬虫類・両生類相.....	27	(2) 調査手法	35
(3) 鈴鹿山脈の爬虫類・両生類相....	27	(ア) 文献調査	35
(4) 現地調査対象地の環境的特徴....	27	(イ) 自動撮影カメラによる調査 ..	35
(5) 現地調査結果	28	(ウ) 現地調査	35
(ア) 爬虫類	28	(3) 文献調査における哺乳類相.....	35
(イ) 両生類	29	(4) 自動撮影カメラにおける哺乳類相	37
(6) 今後の課題	30	(ア) 種ごとのカメラ撮影枚数	37
(7) 参考文献	30	(イ) 各環境における哺乳類相	37
8 鈴鹿の森の鳥類.....	31	(5) 現地調査における哺乳類相.....	39
(1) はじめに	31	(ア) 各環境における哺乳類相	39
(2) 既存文献における鈴鹿山脈の山脈の		(イ) 全地点で共通する特徴	39
種数、希少種	31	(6) 自動撮影カメラで確認された哺乳類	
(3) 鈴鹿山脈の鳥類相	31	の繁殖情報	40
(4) 鈴鹿の森の鳥類相の特徴.....	31	(7) 哺乳類の撮影数の月変化.....	40
(ア) 猛禽類の宝庫	31	(8) 哺乳類相から見た鈴鹿の森の特徴	41
(イ) 夏緑広葉樹林で繁殖する鳥が多		(ア) 夏緑広葉樹林が多い	41
い	32	(イ) 多様な地質が存在	41
(ウ) 渓谷で繁殖する鳥が多い	33	(ウ) 下層植生の衰退による環境変化	
(エ) 渡り鳥の通過場所	33	41
(オ) 本州中部以北で繁殖する鳥が繁		(9) 今後の調査計画	41
殖	33	(10) 参考文献	42
(5) 鈴鹿の森の季節ごとの代表的な鳥類		10 鈴鹿の森における森林と人との関わり	
.....	33	43
(ア) 夏鳥	33	(1) はじめに	43
(イ) 冬鳥	33	(2) 全体を見通した特徴	43
(ウ) 旅鳥	33	(ア) 暮らし	43
(エ) 留鳥	33	(イ) 信仰	43
(6) 鈴鹿の森の鳥類相の変化.....	33		

(ウ) 生業	44
(エ) 交流	44
(オ) 伝説	45
(カ) 土地利用	46
(3) 昭和中期頃の茨川町	46
(ア) 暮らし	46
(イ) 主な生業	47
(4) 参考文献	47
付表 1. 鈴鹿の森で見られる植物.....	48
付表 2. 鈴鹿の森で見られる昆虫.....	62
付表 4. 鈴鹿の森で見られる両生類....	90
付表 5. 鈴鹿の森で見られる爬虫類....	90
付表 6. 鈴鹿の森で見られる鳥類.....	91
付表 7. 鈴鹿の森で見られる哺乳類....	94
付表 8. 鈴鹿の森で見られる森林と人との 関わり一覧.....	95

1 調査対象範囲（鈴鹿の森の概要）

本調査は、東近江市が実施する「森の文化資源調査」の一環として実施したものである。

本調査では、東近江市域に位置する鈴鹿山脈の山城を「鈴鹿の森」と呼称し、その範囲内において、地質、植物、昆虫、魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類、ならびに森林と人との関わりについて、各種調査を実施した（図1）。



図1. 鈴鹿の森の位置図

鈴鹿山脈は、滋賀県、三重県、岐阜県との県境沿いに位置する山脈である。東近江市域における鈴鹿の森は、北は御池岳から南は御在所岳に至るまで、南北約21km、東西約15kmにわたり、標高1,000mを超える山々が連なっている。山と谷が複雑に入り組んだ地形を呈し、街道や集落は主に谷筋に沿って形成されてきた。古くから近江と伊勢を結ぶ複数の峠道が発達しており、山間部においても人の往来が盛んであった。

鈴鹿の森が位置する地域は、日本海側気候と太平洋側気候の双方の影響を受けるとともに（図2）、石灰岩地帯や花崗岩地帯に代表される多様な地質が分布している。鈴鹿の

森の北部は石灰岩質のなだらかな山容を特徴とし、御池岳や藤原岳の山頂付近にはカルスト地形が見られる。一方、中央部の竜ヶ岳から南にかけての地域は花崗岩質で、鋭い山容を有している。

鈴鹿山脈の最高峰である御池岳の標高は1,247mであるのに対し、永源寺ダムの貯水池の最低水位(最低標高)は227mとされる。このことから、鈴鹿の森における標高差は1,000mを超えることがわかる。

このような気候、地質、地形などの自然条件によって、鈴鹿の森は多種多様な動植物が生息する。さらに、積雪の影響を受けたり、年間を通して湿度が高い傾向にあることも、本地域の生態系形成に寄与しているものと考えられる。

鈴鹿の森の植生の面積割合を、東近江市森林クラウドシステムの林相区分図や国土数値情報の国有林野データ等で集計すると、スギ、ヒノキ、アカマツ、モミなどの針葉樹林が約4割、ブナ、アカガシ、コナラなどの広葉樹林が約6割となる。広葉樹林と針葉樹林は、小規模な林分パッチがモザイク状に分布し、相互に入り組んでいる地域も多い（図3）。

一方で、近年はニホンジカによる採食圧の増大に伴い、植生への影響が顕著となっている。

本調査は、これまで包括的に調査される機会が少なかった鈴鹿の森について、特に自然分野の視点から調査を行い、当該地域における生物資源およびその現状を把握することを目的としたものである。

は大陸縁から切り離された島弧の形態をとるようになった(図2)。この結果、日本の中新世における陸上生物群は、約2000万年前から約1500万年前にかけて、明確な地理的隔離を受けたと推察される。

(3) 日本列島形成時の鈴鹿山脈

約2000万年前の新生代新第三紀中新世には、鈴鹿山脈およびその周辺の地域は、まだ大陸の一部であった。鈴鹿山脈の山頂部各所には、当時の河川の川底に堆積した礫層である鈴鹿礫層が分布している。鈴鹿礫層は、政所東部の尾根に最も広く分布し、そのほか政所北方や渋川上流域の尾根筋などにも分布している。

これらのうち、渋川源流域に分布する鈴鹿礫層中には、火山豆石を含む凝灰岩層が挟在している。この凝灰岩の研究から、その形成時期は約1800万年前であることが明らかとなっている。この事実は、鈴鹿礫層の礫を運搬、堆積させた河川(古鈴鹿川)が、日本海が開く直前の時期に、大陸上を流れていた河川であったことを示している。政所町東部の尾根部では、この時代の河床を構成していた花崗岩と、その上に、河川によって上流から運搬された礫が堆積した鈴鹿礫層とが接する露頭を観察することができる。河床を形成していた花崗岩と、その上位に堆積する礫層との間には、おおよそ6000万年の時間的隔たりがあると考えられている。

鈴鹿礫層を堆積させた河川は、現在の奈良県北東部にまで連続していたことが、礫層中に含まれる湖東流紋岩類の礫の分布から明らかとなっている。このことは、当時の鈴鹿山脈が現在ほど高く隆起していなかったことを示唆している。

その後、前述のとおり約1500万年前に日本海が拡大し、日本列島は現在の位置へと移動したと考えられている。日本列島が大陸から分離する直前に、大陸の大洋側の入り江に堆積した地層は、滋賀県では甲賀市(旧甲賀郡土山町)周辺に分布している。

(4) 古琵琶湖の誕生

日本列島が形成後、今から約400万年前になると、現在の瀬戸内海の延びる方向に陥没帯が形成され、その一部が三重県伊賀上野方面に延びていた。この陥没により形成された沈降帯に古琵琶湖が誕生した。

東近江市域に分布する古琵琶湖層群は、約250~180万年前にかけて、蒲生沼沢地と呼ばれる比較的小規模な湖沼が不安定に点在していた時期の堆積物である。これらの地層は、愛知川河床、和南、甲津畑地域および湖東地域に分布している。この時代には水系が大きく変化し、琵琶湖の流出方向は西方の京都方面となった一方、湖へ流入する水系は現在の中部山岳地域を上流域としていたと考えられている(里口2025-a、図3)。

このうち、山上の愛知川河床や甲津畑の和

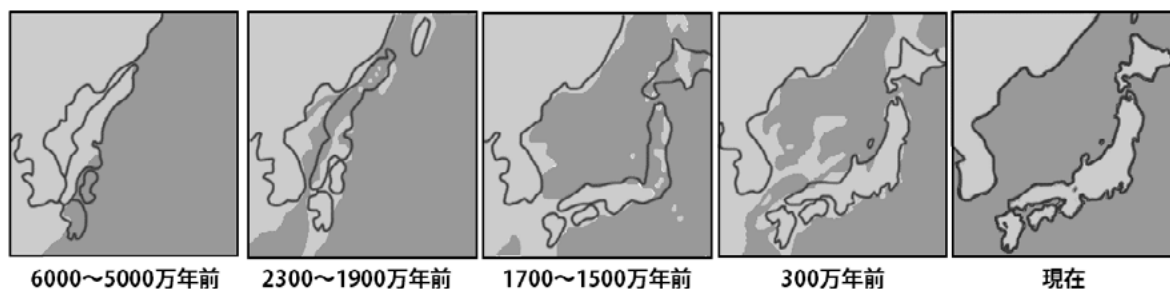


図2. 日本列島の成り立ち(山陰海岸ジオパーク「日本の成り立ち」(<https://geo-umibun.jp/nihon-2/>)を元に作成(最終閲覧2025/11/20))

南川河床の古琵琶湖層からは、ゾウやシカの足跡をはじめ、当時の樹木化石や多くの動植物化石が産出している。これらの化石資料から、当時この地域には、メタセコイア、スイショウ、ヒノキ類などの針葉樹の巨木に混じって、ハンノキ、ヤチダモ、エゴノキなどの広葉樹が林立し、背後の山地にはツガ、モミ、サワグルミ、マンサクなどが生育する森林が広がっていたと推測される。巨木が茂る森林には、時折洪水が発生し、低地には湿地が形成されていたと考えられる。

ゾウやシカが巨木の林を往来していたこの時代は約 200 万年前であり、この頃の鈴鹿山脈は、まだ現在のように高く隆起していなかった。そのため、現在の愛知川で見られるような大きな礫が運搬されることはまれであり、河川の流路も時期ごとに変化していたと考えられる。

(5) 鈴鹿山脈の隆起

鈴鹿山脈の隆起は、約 130 万年前頃に開始されたと考えられている（横山 1995）。その後、滋賀県の基本的な地形構造をなす比良山地および鈴鹿山脈は隆起を続ける一方で、琵琶湖を含む淡海盆地は沈降を継続してきた。

東近江市域の鈴鹿山脈では、このような地殻変動により、甲津畑断層（広義には綿向山断層）の活動が活発化し、甲津畑地域では、鈴鹿山脈の地塊が古琵琶湖層群の上に、上盤側の地塊が下盤側に乗り上げる衝上断層として分布している様子が観察される。

鈴鹿山脈の隆起により、中部山岳地域を上流域としていた水系は分断され、現在のように琵琶湖周辺地域を上流域とする水系が成立した。なお、約 43 万年前には、琵琶湖は現在の北湖中央付近にまで拡大し、その後は大きな位置変化を伴わない、現在につながる安定した湖となった（里口 2025-b、図 3）。

さらに、鈴鹿山脈の隆起に伴い、山地から琵琶湖へ流下する河川の流路勾配が増大した。その結果、河川の侵食力が強まり、愛知川流域では河岸段丘が発達した。このうち最も古い高位段丘は、約 15～20 万年前に形成されたと考えられており、現在の布引丘陵の上面を構成している。この高位段丘を構成する地層中には、一般に「クサリ礫」と呼ばれる、著しく風化して脆弱化した礫や、赤色を呈する「赤色土壌」が発達している。赤色土

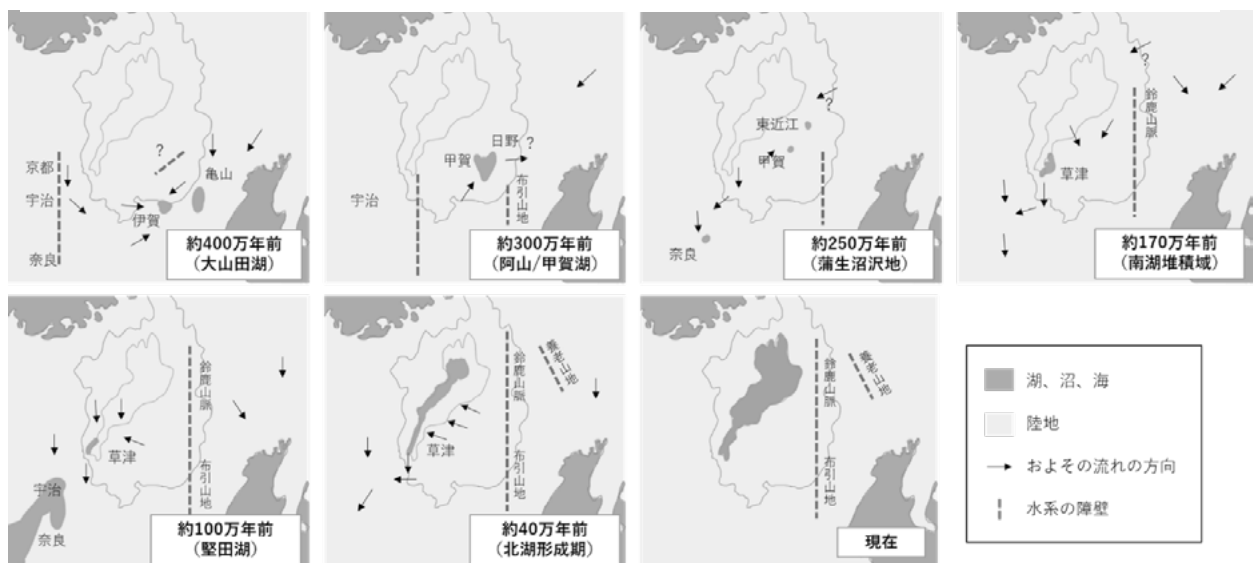


図 3. 琵琶湖の変遷図
琵琶湖の魚類図鑑の内容（里口 2025）を元に作成

壤の存在は、当時の気候が現在よりも温暖な亜熱帯的環境であったことを示唆している。

その後も継続的な隆起運動により、中位段丘および低位段丘が形成された。このうち、甲津畑地域の低位段丘堆積物からは、約3万年前と考えられる地層中からコメツガやチヨウセンゴヨウなど、寒冷な気候条件を示す植物化石が産出している。この低位段丘堆積物中には、2種類の火山灰層が確認されている。そのうちの一つは始良火山灰であり、約2万5千年前に九州の始良カルデラが活動した際に、ほぼ日本全域に降下した広域火山灰である。東近江市域では、厚さ約15cmの層として認められる。もう一つは、約7300年前に九州の鬼界カルデラの噴火によってもたらされたアカホヤ火山灰である。この火山灰層は、低位段丘や崖錘堆積物（がけ崩れによって生じた碎屑物が堆積した地形）の表層近くに含まれており、永源寺地区のほぼ全域に分布している。この時代はすでに縄文時代に相当し、滋賀県内各地において人間活動の痕跡を示す遺跡が確認されている。

発行：滋賀県琵琶湖環境部環境政策課，p126-127，編集：琵琶湖ハンドブック改訂検討チーム，最終閲覧2025/11/20，URL：
<https://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5526720.pdf>

(6) 参考文献

- 池田碩・藤本秀弘（2008）「永源寺町史 通史編」，発行：東近江市，編集：永源寺町史編さん委員会，印刷：株式会社ぎょうせい，第一章第一節「地形と地質の形成史」，p3-38
- 磯崎行雄，丸山茂徳，柳井修一，笠原順三，下司信夫，佐野修（2011）「活動的大陸縁の肥大と縮小の歴史—日本列島形成史アップデート—」地学雑誌，120巻，1号，p65-99
- 磯崎行雄（2019）「日本列島形成史と陸上生物相の系譜：日本海誕生と弧状列島の独立」生物科学，70巻，1号，p7-14
- Isozaki Y, Nakahata H, Zakharov YD, Popov AM, Sakata S, Hirata T (2017) 「Greater South China extended to the Khanka block: Detrital zircon geochronology of middle-upper Paleozoic sandstones in Primorye, Far East Russia」 Journal of Asian Earth Sciences, Volume 145, Part B, p565-575
- 里口保文（2025-a）「琵琶湖の魚類図鑑」，編集：藤岡康弘，川瀬成吾，田畑諒一，第1章，p10-11，発行：サンライズ出版
- 横山卓雄（1995）「移動する湖、琵琶湖—琵琶湖の生い立ちと未来—」法政出版
- 里口保文（2025-b）「琵琶湖ハンドブック四訂版」，

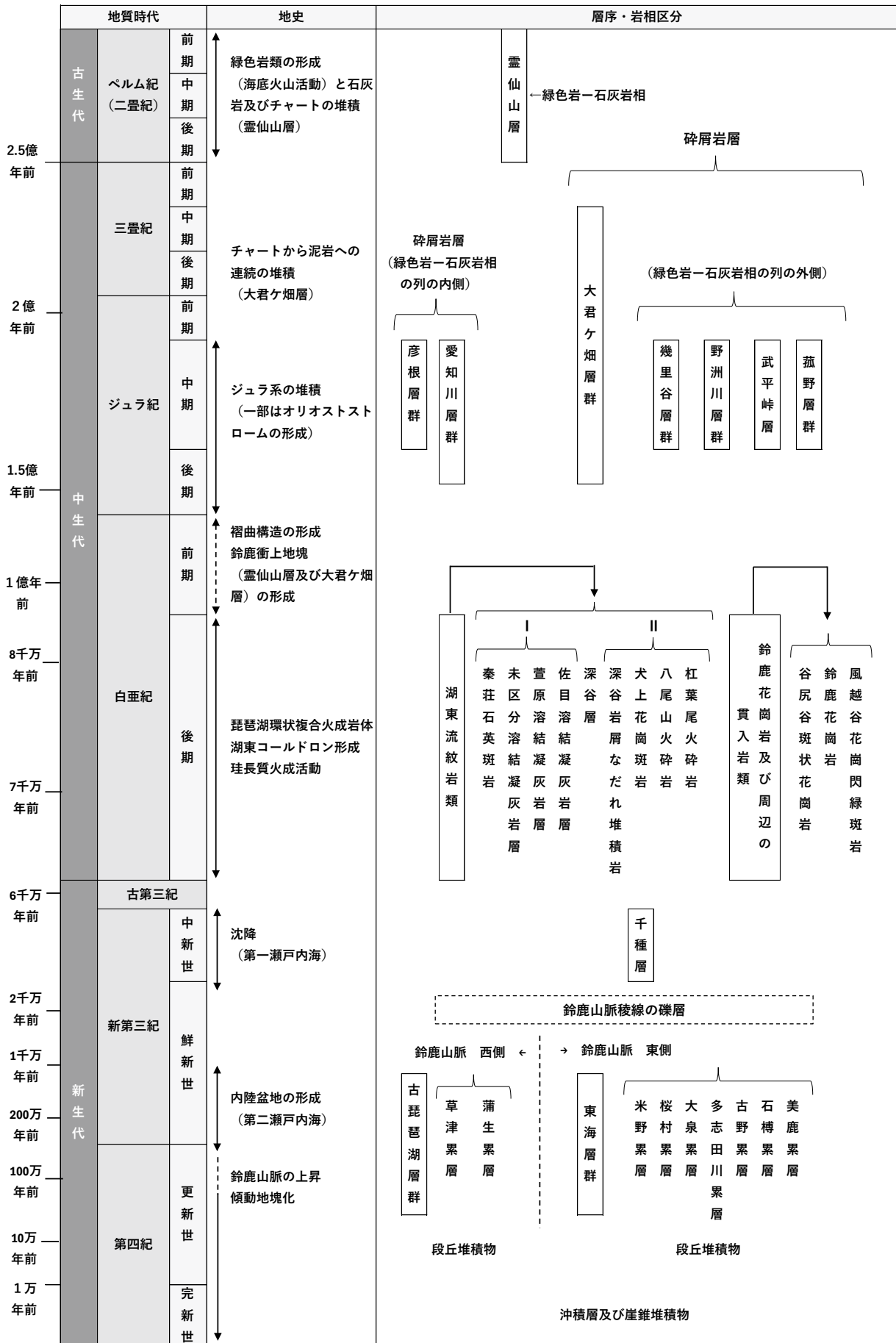


図4. 鈴鹿山脈の地質史概要 (御在所山地域の地質 (地質研究 1989) を元に作成)

(1) はじめに

鈴鹿の森の地質と鉱山については、主に既存文献を元に内容を整理した。

鈴鹿の森における地質や鉱山については、鈴鹿山脈の成り立ちと同様に永源寺町史（東近江市 2006）に詳しい。本章において特に文中に文献の記載がないものは、永源寺町史（通史編）の第一章第一節「地形と地質の形成史（執筆者 池田碩・藤本秀弘）」からの引用として掲載している。また一部の鉱物については実際に現地を調査し、撮影を行った。

(2) 鈴鹿の森の地質

(ア) 石灰岩

鈴鹿の森で最も古い地質時代に形成されたのは、御池岳から藤原岳および竜ヶ岳方面と、藤川谷から雨乞岳方面にかけての広い地域に分布する石灰岩と緑色岩類である。

石灰岩中にはフズリナ（原生動物有孔虫類に属し、石炭紀前期に繁栄した小型有孔虫から進化し、ペルム紀に絶滅した生物）やウミユリの化石が含まれており、ペルム紀の初め（約 2.9～2.8 億年前）に形成されたものであることがわかる。

石灰岩は主に平行六面体の結晶である方解石から成り、炭酸カルシウムを 50%以上含む岩石を指す。石灰岩は海底火山の上にサンゴ礁が発達し、堆積してできた生物起源のものである。炭酸カルシウムは雨水に溶解するため、溶蝕によってドリーネや鍾乳洞を作ることがある。

(イ) 緑色岩類

緑色岩類はマグネシウムと鉄が多くを占める火成岩で、玄武岩を代表とする苦鉄質火成岩を起源とする。元々海底火山活動で形成

された玄武岩などが、地下深くで地表より高い温度と圧力を受けることにより緑色岩類が作られる。海洋プレートが沈み込む過程で、海底の堆積物が大陸側に押し付けられて形成された付加体の中に多く見られる。

玄武岩が緑色岩になる相当の変成作用を受けた時、緑色の鉱物ができるため岩石全体が緑色系統の色になるが、鉄分が多く含む場合には表面が風化して茶色や赤紫などの多様な色に変化する。

緑色岩類の中には、玄武岩の溶岩が海底（海水中）で固まったことを示す枕状溶岩が含まれており、海底火山活動に伴って形成されたものであることがわかっている。

(ウ) 砕屑岩類（砂岩・泥岩）

砂岩と泥岩等の砕屑岩類は、主に中生代ジュラ紀（約 2～1.5 億年前）に形成された岩石であり、当時の海底に堆積した砂や泥が固結してできたもので、付加体を構成する岩石である。

砂岩は、陸域から供給された砂が、流れの強い海底環境で堆積してできた岩石である。大雨や地震、海底斜面の崩壊などをきっかけとして、海底にたまっていた砂や泥が一気に流れ下り、深い海底に広がって堆積する現象があり、これをタービダイト堆積という。砂岩には、このような堆積過程を反映した層理が明瞭に見られることが多い。

一方、泥岩は、より静穏な深海環境において、細粒の泥がゆっくりと沈降・堆積し、圧密・固結して形成された岩石である。粒子が細かいため割れやすく、後の地殻変動による変形を受けやすい性質をもつ。

これらの砂岩と泥岩は互層をなして分布することが多く、プレートの沈み込みに伴う

付加体形成の過程で褶曲や断層などの変形を受けながら、現在の鈴鹿山脈の地質構造を形づくっている。

(エ) チャート

緑色岩が分布する地域に伴ってみられるチャートからは、放散虫（海に生息する微小な浮遊性生物）や、コノドント（カンブリア紀から三畳紀にかけての海成層に含まれる示準化石で、原始的な脊椎動物の歯と考えられている）の微化石が産出している。これらの化石の年代測定により、これらのチャートは古生代後期のペルム紀に形成された地層であることが明らかになっている。

チャートとは、放散虫などの珪質（けいしつ）の殻をもつ微小生物の遺骸が、深海底にきわめて長い時間をかけて堆積し、圧密・固結してできた珪質堆積岩である。堆積速度が非常に遅いため、長い地質年代を連続的に記録する岩石として知られている。

これらのチャートは、日本列島の他地域に分布する同種岩石の研究成果から、もともとは現在の赤道付近に位置する海洋域の深海底で形成されたと考えられている。その後、海洋プレートの移動に伴って大陸縁へと運ばれ、ジュラ紀（約2～1.5億年前）にユーラシア大陸縁辺部へ付加したと推定されている。

一方、石灰岩や緑色岩類以外の鈴鹿の森に分布する砕屑岩類（砂岩・泥岩など）に含まれるチャートからは、中生代三畳紀（約2.5～2億年前）からジュラ紀にかけての放散虫やコノドントの微化石が確認されている。

このことから、鈴鹿の森地域には、大きく分けて①古生代後半のペルム紀の地層、②中生代の三畳紀からジュラ紀にかけての地層、という異なる二つの時代に形成された堆積岩類が分布していることがわかる。

特に枉葉尾町周辺の地域では、中生代の地層中に、古生代の石灰岩や泥岩の礫を含む露

頭が確認されている。これは、古生代と中生代の地層が明瞭に区別されて分布しているのではなく、プレートの沈み込みと付加の過程において、異なる時代の堆積物が混在、攪乱された状態を示すものである。

このように、年代や起源の異なる岩石が無秩序に混在した堆積構造はメランジュと呼ばれ、鈴鹿の森地域の各所で観察することができる。

(オ) 湖東流紋岩

ジュラ紀にプレート運動に伴って大陸縁辺部に付加した地域（広くは美濃・丹波帯）は、白亜紀（約1.5億年前～6,600万年前）になると、再び活発な火山活動の舞台となった。地表では大規模な火砕流噴火を伴う火山活動が繰り返し発生し、その噴出物が広範囲に堆積することで、湖東流紋岩類と総称される厚い火山岩層が形成された。

湖東流紋岩は、主に流紋岩質マグマに由来する溶結凝灰岩を主体とする火山噴出物からなり、激しい爆発的噴火によって放出された火山灰や軽石が高温のまま堆積、圧密されて形成された岩石である。

鈴鹿の森内では、日本コバ付近から南東方向にかけて、この溶結凝灰岩ようけつぎょうかいがんが連続的に分布している。また、火砕流ふんしゅつかこうれつの噴出火口裂（カルデラ形成期の噴火に伴って生じた裂け目）と考えられる火道角礫（火道角礫岩、火山礫凝灰岩とも呼ばれる）が、甲津畑町や枉葉尾町などの地域で観察される。

これらの地質構造から、湖東流紋岩を形成した火山活動は、二重構造をもつ大規模カルデラの形成を伴っていたと推定される。その規模は、現在世界最大級のカルデラである阿蘇カルデラ（東西約18km、南北約24km）に匹敵すると考えられており、白亜紀当時、東近江市域を含む滋賀県一帯が極めて活発な火山活動域であったことを示している。

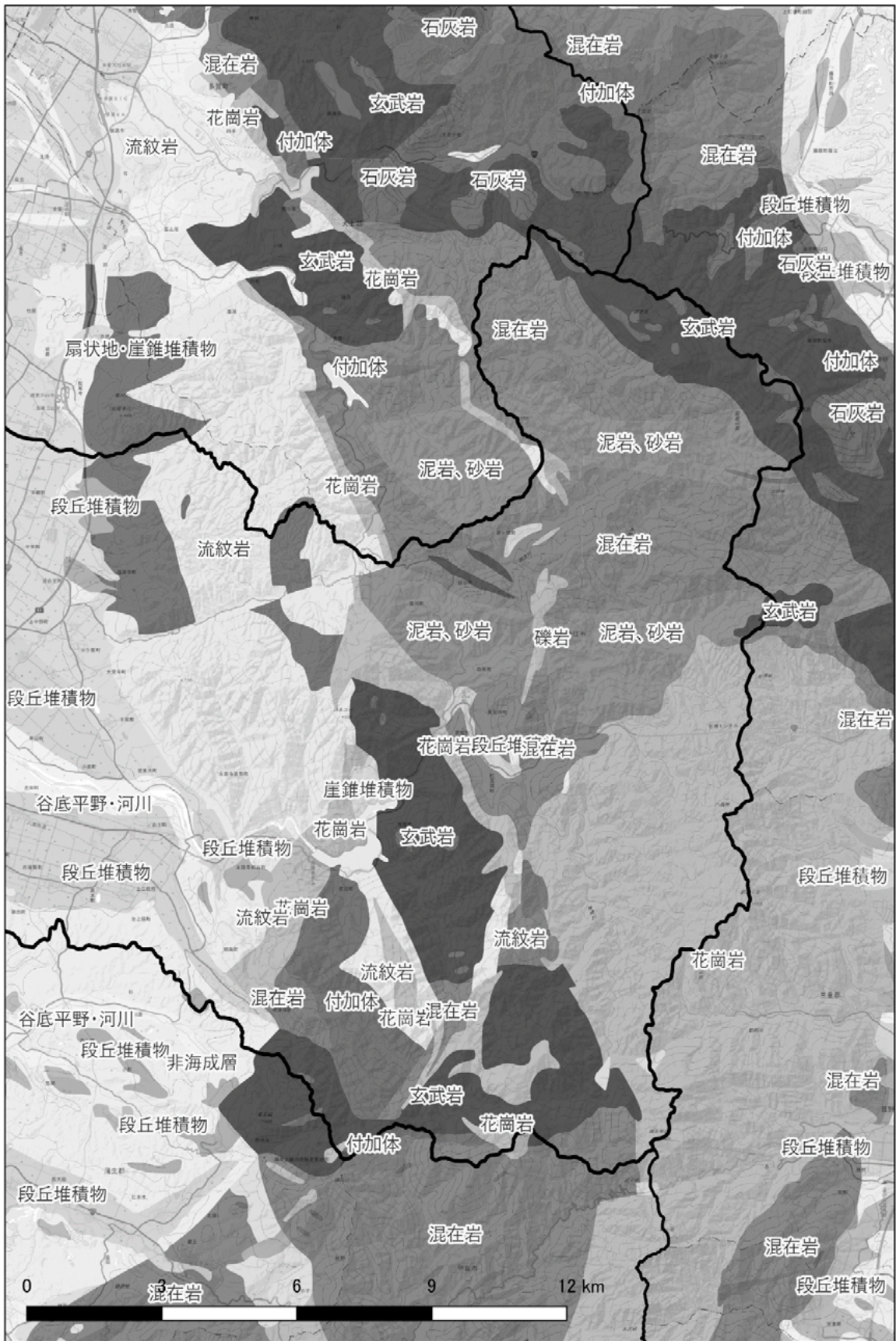


図1. 鈴鹿の森の地質概要

(地質情報は産総研地質調査総合センター, 20万分の1日本シームレス地質図V2 (<https://gbank.gsj.jp/seamless/>)より加工、背景は国土地理院標準地図を使用、黒線は市境界線)

(カ) 花崗岩

白亜紀には、地表での大規模な火山活動に加え、地下深部においても活発な火成活動が進行した。この時期、マグマが地殻深部でゆっくりと冷却、固結することにより、花崗岩類が形成され、すでにジュラ紀に大陸縁辺部へ付加していた地層や岩石中に貫入した。

神崎川流域からその上流域、御在所岳をはじめとする尾根部に広く分布する、いわゆる花崗岩体は、この白亜紀の深成作用によって形成されたものである。これらの花崗岩は、石英、長石、黒雲母などを主成分とし、粗粒で結晶が明瞭な岩石であることが特徴で、地下深部で長い時間をかけて冷却したことを示している。

花崗岩体の貫入は、周囲の地層に熱的影響を与え、接触変成作用を引き起こすとともに、後の隆起・侵食過程を通じて現在の山地地形の形成にも大きく関与している。御在所岳周辺にみられる急峻な岩稜や岩壁は、花崗岩の硬さと節理の発達に起因する地形であり、鈴鹿山脈の景観を特徴づける重要な要素となっている。

なおジュラ紀から白亜紀にかけての地質時代は、世界的にみると恐竜（大型爬虫類）が繁栄した時代として知られており、日本各地からも足跡や骨格などの化石が発見されている。近隣の三重県、福井県、岐阜県においても、恐竜の足跡化石や骨格化石が報告されている。一方、滋賀県では、これまで恐竜の化石は確認されていない。この主な要因としては、恐竜が生息していた中生代の陸成堆積層が県内に広く保存されていないためであり、当時の活発な火山活動やその後の侵食によって、化石の保存に適した地層が失われたことによるものと考えられる。

またこの時代には現在の日本海はまだ形成されておらず、将来の日本列島にあたる地域は、ユーラシア大陸の縁辺部を構成してい

た。

鈴鹿の森地域に見られる多様な岩石と地質構造は、こうした大陸縁辺域における火成活動や堆積作用、プレート運動の歴史を現在に伝える貴重な記録といえる。

(3) 鈴鹿の森の鉱山

かつて鈴鹿の森内には幾つもの鉱山があり、採掘に従事する人々で賑わった時期があった。なかでも近代以降も盛んに稼業する鉱山が密集していたのは、甲津畑町から藤切川沿いに伊勢へ通じる千草街道周辺で、今でも各所で鉱山の建物跡や鉱滓こうさいが見られる。

千草街道周辺の鉱山は主に銅を掘り起こしたものであるが、これは中生代末（約7000～6600万年前頃）に中～古生代の地層の中に貫入した花崗岩類のマグマに含まれていた熱水と周りの岩石とが反応して形成されたものである。

千草街道周辺以外にも鈴鹿の森では、足原谷鉱山（蓼畑町）、蓬谷鉱山（政所町）、東椋とうりょう鉱山（君ヶ畑町）、蛭谷鉱山（蛭谷町）、朝日谷鉱山（蛭谷町）、佐目子谷マンガン試掘坑（佐目町）などの鉱山がみられる。

とくに千草街道周辺の鉱山としては、次のようなものがある。

(ア) ジュルミチ鉱山

黄鉄鉱おうてつこうを主体とし、少量の方鉛鉱ほうえんこう、閃亜鉛鉱せんあえんこう、黄銅鉱おうどうこうを伴う（中村 1962）。

(イ) 大蔵谷旧鉱

花崗岩中の緑色岩捕獲岩中に胚胎はいたい（空間や構造内に地層や岩石があること）する鉱床で、磁硫鉄鉱じりゅうてつこう及び黄銅鉱からなる。

(ウ) サブクラ谷上流旧鉱

緑色岩中に胚胎しており、鉱石は磁硫鉄鉱を主体とし、相当量の方鉛鉱、閃亜鉛鉱と少量の黄鉄鉱、黄銅鉱を伴う。鉱石の品位は亜

鉛が 0.98～14.5%、鉛が 5.1～13.0%のものが確認されている（中村 1962）。

（エ）御池鉱山

鉱床は緑色岩中に発達しており、鉱脈には塊状鉱、板状鉱、縞状鉱、角礫状鉱などさまざまな産状がある。主要鉱石鉱物は黄鉄鉱、りゅうへいてっこう 硫砒鉄鋼、じへいてっこう 磁砒鉄鋼、閃亜鉛鉱、黄銅鉱、方鉛鉱からなる。一般に鉱床上部では磁硫鉄鉱に富み、下部では黄鉄鉱に富む傾向がある。方鉛鉱中には銀分が含まれ、また磁硫鉄鉱に富み、下部では黄鉄鉱に富む傾向にある。方鉛鉱中には銀分が含まれ、また磁硫鉄鉱中には微量のニッケル及びコバルトが含まれている。昭和 28 年（1953 年）には並鉱（銅 3.3%）、上鉱（銅 5.2%）を 125 トン生産している（北 1956）。昭和 30 年の時点での可採鉱量は、磁硫鉄鉱主体のもので 5 万トンとされている。この鉱山周辺には、杉峠鉱山、向山鉱山など類似した産状と鉱石鉱物を産する鉱床がある。

（オ）杉峠鉱山

かこうはんがん 花崗斑岩との境界付近の緑色岩中に胚胎する。貯鉱に見られる鉱石鉱物は黄銅鉱、磁硫鉄鉱、黄鉄鉱で、良質鉱の銅品位は、銅 7～8%である（地質調査所大阪駐在員事務所 1954）。

（カ）向山鉱山

御池、杉峠鉱山と同じく緑色岩中に胚胎する鉱床である。鉱石鉱物は磁硫鉄鉱、黄鉄鉱、黄銅鉱、四面銅鉱からなる。銅品位はあまりよくない（地質調査所大阪支所 1950）。

（4）参考文献

- 東近江市（2008）「永源寺町史 通史編」株式会社ぎょうせい
中村威（1962）「滋賀県御池地区」未利用鉄資源 No. 9, 通商産業省, p458-461
北卓治（1956）「滋賀県御池鉱山磁硫鉄鉱鉱床調査」未利用鉄資源, 通商産業省, 2, p285-301
地質調査所大阪駐在事務所（1954）「金属之部 33 銅. 鉱種別管内調査鉱山一覧表」p23-30
地質調査所大阪駐在事務所（1950）「滋賀県地下資源調査報告（第 1・2 班）」p32

(1) はじめに

世界各地の植物相に関わるものとして、気温や降水量（降雪も含めて）、季節による日照時間・日射角度の変化、基盤の岩石・表層土壌、火山や地震などの地殻変動、氷河期などの歴史、流水の浸食作用、高地・低地・海岸などの地形、風や劇的な気象現象による地形の変化などの物理的な影響や人や他の生物の関わりによる影響などが考えられる。

南北に長い日本列島の中央部に位置する鈴鹿山脈の植物相を考えるのにもこれらの影響を考慮する必要がある。ここでは、既存文献及び令和5年度から実施しているルートセンサスによる植物相調査の結果を元に、日本全体と鈴鹿の森の植物相の概要について述べる。

(2) 日本の植物相の概要—水平分布・垂直分布

地球の北半球の中緯度に位置する日本には四季の変化があり、雪を含めて降水量は豊富で、植物の生育には十分な条件を有しているといえる。そのため、植物相の多様性を左右する主な要因は、気温と考えられる。日本は南北に長い弧状列島を形成しており、緯度の違いにより気温に大きな差がある。そのため、気候帯でいうと、北に亜寒帯、南に亜熱帯、その間が温帯という違いが生じ、植物相が大きく異なっている。また、中部地方の標高3000mを越える山塊を代表として、列島に数本の脊梁山脈が走り、高度差によって気温も異なり、植物相の多様性の要因ともなっている。前者による植物相の差異を水平分布、後者による差異を垂直分布と呼ぶ。その両者を地図上にまとめたものが図1であり、表に

まとめたものが表1である。なお、表1の()は垂直分布での区分である。図1を北から森林タイプ毎に具体的にみていく。

(ア) 常緑針葉樹林

常緑針葉樹は細い葉を持つことによって耐寒性を有する樹木で、寒冷な地方に樹林として発達する。北海道中央部の大雪・日高山系に見られるエゾマツ、アカエゾマツ、トドマツの樹林は特徴的で、水平分布でいう亜寒帯林に当たる。本州中部の高山につながる脊梁部にも見られるが、こちらはシラビソ、オオシラビソ、コメツガ、トウヒなどが構成樹種であり、垂直分布の亜高山帯出現の樹林とすべきである。また、高山帯にはハイマツの群落も見られる。

(イ) 針広混交林

北海道の渡島半島以北には、エゾマツやトドマツの針葉樹とミズナラ、エゾイタヤ、シナノキ、ハルニレなどの落葉広葉樹（夏緑広葉樹）がモザイク的に分布することが知られている。これらは亜寒帯林への遷移を示すエコトーンと考えられている。また、構成種からこの林は冷温帯の一部との見方もある。

実際には鈴鹿の森でも針広混交林が確認される。これらはモミと広葉樹との混交林や、人工林であるスギ、ヒノキ、アカマツと広葉樹との混交林であることが多い。稀に天然スギと広葉樹の針広混交林も見られる。

(ウ) 落葉広葉樹林（夏緑広葉樹林）

いわゆる冷温帯の樹林で、北海道渡島半島から中部地方の山地部まで幅広く、さらに近畿、中国、四国、九州の脊梁部まで見られる。光の弱まる冬季を耐えるため、葉で作った栄養などを本体に戻して糖度をあげ、不要な葉を落とす。葉は薄くて比較的広めである。林

床への光の透過度は高く、特に葉を落とした後の早春には多くの光が林床に届き、春植物の生長を促す。常緑広葉樹林から見ると林床の多様性は高い。構成種は、ブナやミズナラなどの落葉性のブナ科やカエデ属、カバノキ科、サクラ属、マンサク科、クルミ科などがある。林床にはササ類が多く見られる。また、川の近くなどの湿ったところでは、ケヤキ、ハルニレなどのニレ科やクルミ科、フサザクラなどの樹木が優勢になる。特に山奥の谷沿いの斜面では、トチノキ、カツラ、サワグルミなどからなる溪畔林が発達し、日本の冷温帯を特徴づける。

(エ) モミ・ツガ林

冷温帯の落葉広葉樹林（夏緑広葉樹林）の南には暖温帯の常緑広葉樹林が分布し、落葉樹から常緑樹へと変化する。しかし、特に太平洋側を中心にその境界地域にモミ、ツガを主とする針葉樹林帯が見られ、ここを両者のエコトーンとして中間温帯が提唱されている。出現樹種は2種以外にイヌブナ、アカシデ、イヌシデなど。

(オ) 常緑広葉樹林

常緑広葉樹林の分布は、東北の海岸以南の低地を中心に南部日本を幅広く覆っている。温暖な気候故に1年中光合成が可能なため、

葉を厚くし数年の使用に耐えられる樹種が優占している。ヤブツバキ、タブノキ、スダジイ、ウラジロガシなどツバキ科、クスノキ科、ブナ科などの常緑樹がある。

なお、奄美や沖縄などの南西諸島にも常緑広葉樹が分布しているが、こちらはアコウやガジュマル、木性シダのヘゴなどで亜熱帯に属する樹種である。

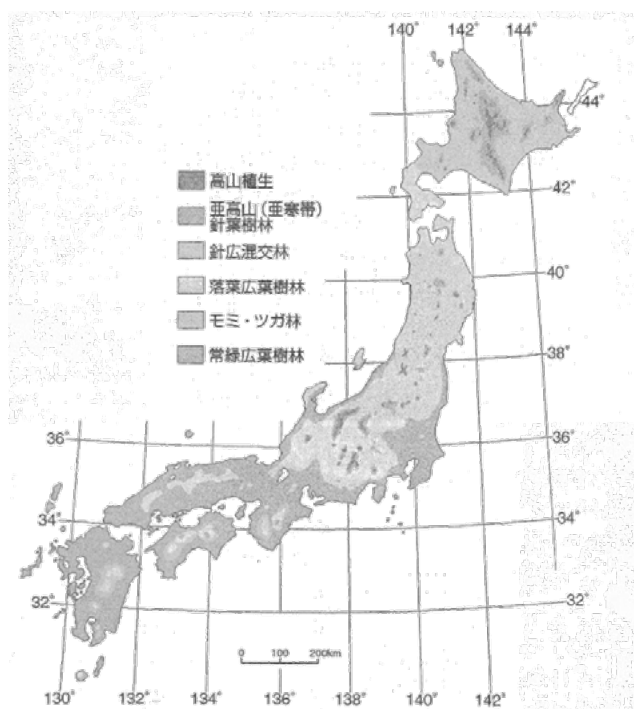


図1. 日本の主な植物相分布

※吉岡 (1973) を一部改変

表1. 日本の植物相の水平分布

※ () 内は対応関係にある垂直分布

気候帯 (垂直区分)	森林タイプ	代表的樹木
亜寒帯 (高山帯) (亜高山帯)	常緑針葉樹林	エゾマツ、トドマツ、アカエゾマツ (ハイマツ) (シラビソ、オオシラビソ、コメツガ)
冷温帯 (山地帯)	針広混交林	エゾマツ、トドマツ、ミズナラ、エゾイタヤ、シナノキ
	落葉広葉樹林	ブナ、ミズナラ
中間温帯 (低山帯)	モミ・ツガ林	モミ、ツガ、イヌブナ、アカシデ、イヌシデ
暖温帯 (丘陵帯) (低地帯)	常緑広葉樹林	スダジイ、タブノキ、ヤブツバキ、ウラジロガシ、アカガシ
亜熱帯	常緑広葉樹林	アコウ、ガジュマル、ヘゴ

(3) 積雪による植物相への影響

日本列島の背骨を走る脊梁山脈の存在が、冬の季節風により日本海側に多量の積雪をもたらし、結果として、元は同種でも形態的に差異が生じたり、すみわけが見られたりしている。例えば、落葉樹の場合、太平洋側のブナは葉が小さくて厚いものに対して、日本海側のブナは葉が広くて薄い。また、太平洋側のクロモジやマンサクは、日本海側ではより葉の大きなオオバクロモジ、マルバマンサクとなる。さらに、常緑樹の場合、積雪による雪下の保温効果や積雪圧に適応した形態などを獲得した例がある。太平洋側のアオキ、ヤブツバキ、ユズリハ、ミヤマシキミ、カヤ、イヌガヤは、日本海側ではそれぞれヒメアオキ、ユキツバキ、エゾユズリハ、ツルシキミ、チャボガヤ、ハイイヌガヤという背の低い樹木となる。ササ類でも太平洋側はミヤコザサ、スズタケが多いのに対して、日本海側ではチシマザサやクマイザサが多く分布するというような進化的影響やすみわけが見られる。

(4) 日本の地域的な植物相

最初に述べたように、植物相に影響を与えるのは気温という物理現象だけでなく、(3)で述べた積雪の影響やその他の条件も影響を及ぼしている。生育地が花崗岩地、石灰岩地、蛇紋岩地など地質的な違いの影響は非常に大きいなど、日本各地で独特な植物相の区分(植物区系)が知られている。図2はその地図上の分布図で全部で9区系、表2は各植物区系の代表的固有植物である。

えぞーむつ地域は亜寒帯の針葉樹林に依存する種で特徴づけられる。関東地域は東北部から関東の太平洋側までである。日本海地域は前出の(3)で、冬季の積雪に適応した種が特徴となる。フォッサマグナ地域は中部山岳から富士火山帯、さらに延長して硫黄島まで達し、火山の影響を強く受けている。

そはやき(襲速紀)地域は西日本の太平洋側に位置し、温暖多雨の気候の影響を受ける。美濃ー三河地域は静岡の一部から愛知・岐阜の一部を指す。

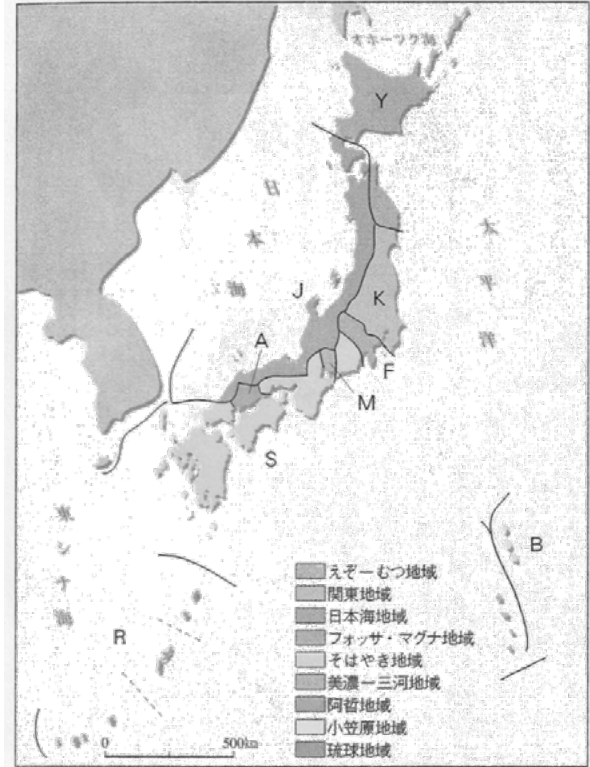


図2. 日本の植物区系
※前川(1974)を転載

表2. 日本の植物区系の各地域における主な固有植物

Y	えぞーむつ地域	トドマツ、アカエゾマツ、ミヤマハンモドキ、他
K	関東地域	シバヤナギ、アブラツツジ、ミミガタテンナンショウ、他
J	日本海地域	トガクシショウマ、サンカヨウ、トキワイカリソウ、他
F	フォッサマグナ地域	ハコネコマツツジ、ハコネウツギ、他
S	そはやき地域	キレンゲショウマ、パイカアマチャ、他
M	美濃ー三河地域	ホソバジャクナゲ、ハナノキ、シデコブシ、他
A	阿哲地域	キビヒトリシズカ、アテツマンサク、ヤマトレンギョウ、他
B	小笠原地域	ワダンノキ、オガサワラツツジ、他
R	琉球地域	リュウキュウマツ、オキナワウラジロカシ、他

阿哲地域は岡山・広島の石灰岩地に生育する種に特徴がある。小笠原地域は小笠原諸島の植物種で固有種が多い。琉球地域は亜熱帯植物が特徴である。

(5) 滋賀県の植物区系

(4) の植物区系から滋賀県は日本海地域とそはやき地域の2地域が接している場所となる。村瀬はその著「滋賀県の植物地理概説」で、滋賀県の植物区系を図3のように10区に分け、日本海植物区系（日本海地域）に a. 湖北植物区、b. 伊吹山植物区、c. 鈴鹿北部植物区、d. 鈴鹿中・南部植物区、e. 三国山・赤坂山植物区、f. 箱館山・生杉植物区、g. 比良山植物区の7区、瀬戸内植物区系（そはやき地域）に h. 比叡山植物区、i. 琵琶湖沿岸植物区、j. 湖東・湖南植物区の3区を当てた。筆者は鈴鹿地域の調査から d. 鈴鹿中・南部植物区については、中間温帯の存在の関係上、そはやき地域に入れるべきと考える。

(6) 鈴鹿の森の植物区

鈴鹿の森の地域には c. 鈴鹿北部植物区と d. 鈴鹿中・南部植物区があり、この両者には緯度の違いがあるが、それは微々たるもので、圧倒的に両者を分けるものは地質にある。北部には主に石灰岩地、中・南部には主に花崗岩地があり、植物相を大きく異なるものになっている。なお、場所によって異なるが、標高600~700mあたりから冷温帯になり、鈴鹿の山中では、冷温帯の植物の出現が多い。

(ア) 鈴鹿北部植物区

東近江市における鈴鹿北部植物区に当たる地域は藤原岳南部の治田峠が境で、そこより北の狭い範囲となる。山でいうと、南から順に藤原岳、御池岳、鈴ヶ岳となり、ドリーネやカレンフェルトなどのカルスト地形が特徴的である。石灰岩は植物の生育には向かない地質で、巨木を確認することは難しい。

以前はササ類が優占していたが、近年ではシカの食害を受け、地面がむき出しになっている場所も多い。御池岳では、21世紀に残った日本の自然100選と環境省によって「特定植物群落」に指定されているオオイタヤメイゲツ林をはじめ、マメグミなどの低木林が山頂部に見られ、斜面ではオニグルミ、谷筋の崩壊地にはサワグルミの大木などが確認できる。また、冷温帯に生育するテツカエデやブナも見られる。草本としては、藤原岳のフクジュソウをはじめとして、ヒロハノアマナ、ミノコバイモ、キクザキイチゲ、アズマイチゲなどの春植物や石灰岩地を好むヒメフウロが多く見られたが、これも減少の傾向にある。シカが好まないガガイモ、イワヒメワラビ、コバノイシカグマなどが目立つようになっている。

(イ) 鈴鹿中・南部植物区

治田峠から南の御在所岳、雨乞岳に至る鈴鹿山脈の広い範囲が鈴鹿中・南部植物区に当たる。

東近江市内では、北から県境に沿って、銚子岳、静ヶ岳、竜ヶ岳、釈迦ヶ岳、羽鳥峰、水晶岳、御在所岳などが連なり、県境から離れたところでは、天狗堂、日本コバ、銚子ヶ口、雨乞岳などの多くの山を有し、複雑多様な自然景観を作り出している。花崗岩の風化による奇異な形の巨岩も多く見られ、谷筋では神崎川の清流などがアウトドアアクティビティの場となっている。

これらの山々のいずれにおいても山頂の近くでは冷温帯に当たり、ブナやミズナラが優占する森林帯を見ることができる。

また、シロヤシオ、ベニドウダン、サラサドウダン、ホンシャクナゲなどのツツジ科低木林が多いのも特徴である。他に、特異的な存在として、御在所岳のアカヤシオ、銚子ヶ口のアカモノなどがあげられる。

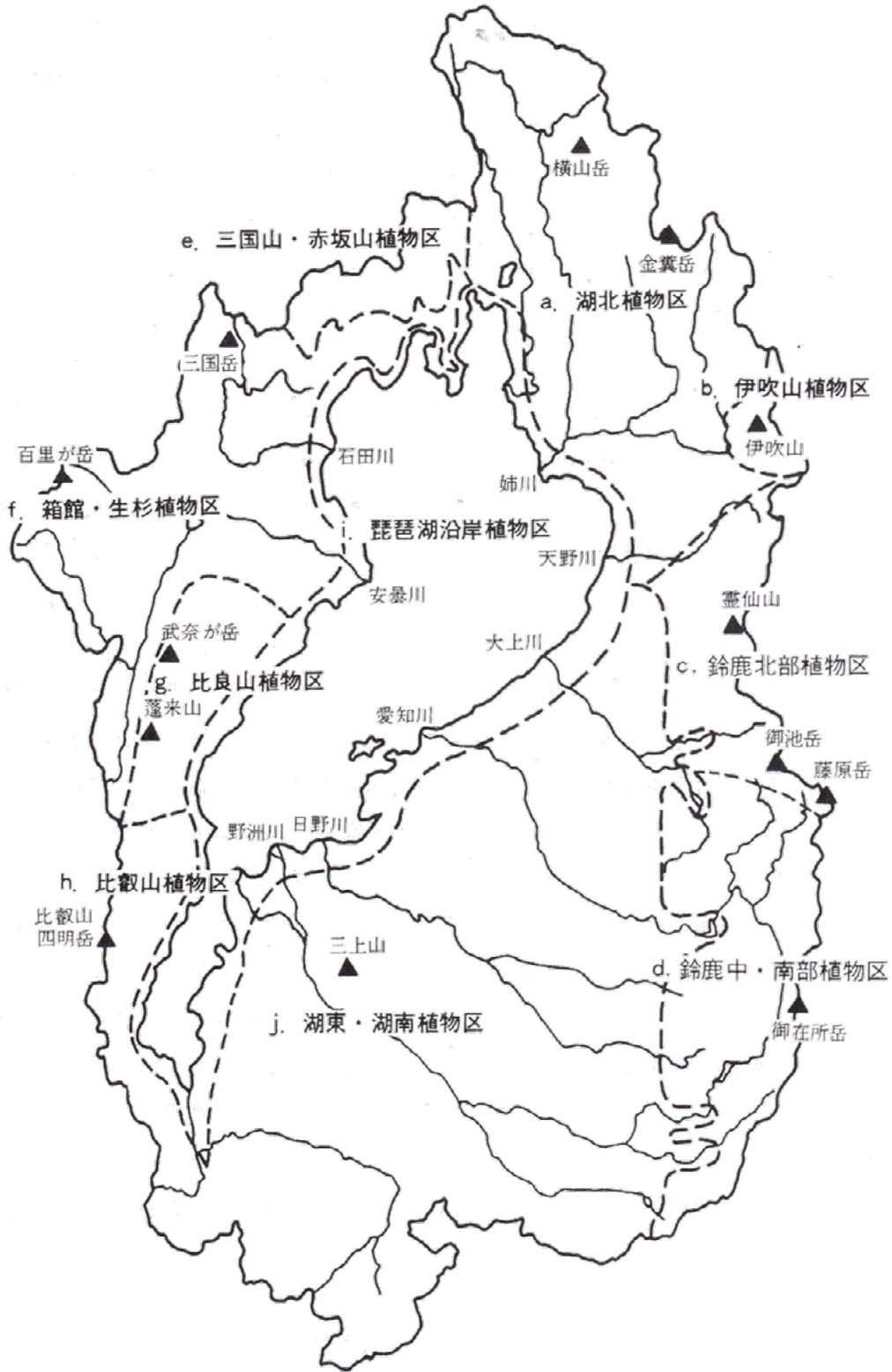


図3. 滋賀県の植物区系
 ※村瀬忠義 1979 のものを転載

(7) 鈴鹿の森の特筆すべき植生

鈴鹿の森の植物区に代表される植物のほかに特筆すべき樹木などの植生として、以下のものが挙げられる。

- ・冷温帯のブナのそばに暖温帯のアカガシがかなりの確率で存在する。
- ・一部の地域で、トチノキ、カツラ、サワグルミなどを構成樹種とする溪畔林が見られる。
- ・アスナロ、ゴヨウマツなどの常緑針葉樹林もあり、特にアスナロ林はかなりの広さに広がっている。
- ・中間温帯を代表するモミが稜線沿いに残され、特に日本コバの衣掛山から政所にかけての登山道に純林状態で確認できる。
- ・甲津畑から杉峠へ向かう千草街道の一部にミズナラやイタヤカエデなどのカエデ属、天然スギ、トチノキ、クマシデ、ブナなどの大木・巨木が生育しているが、現在は枯れているものも多い。
- ・永源寺ダムより上流部の愛知崖付近を中心にユクノキが集中して生育している。
- ・高地にも里地にもホオノキが多く見られる。
- ・古刹永源寺の東側に位置する永源寺ダム沿いにヤマイバラというバラ科のイバラの仲間が何本もぶら下がっている。

他にもミズメ林やオヒョウ、イヌブナ、ヤマナラシ、キハダなども確認している。草本としては、フクオウソウ、イワカガミ、キンコウカ、タテヤマリンドウ、ヒメイチゲ、クガイソウ、ハナゼキショウ、ウスギナツノタムラソウをはじめとして多くのものが四季を彩る。

また、近年はシカの食害の影響が目立つようになってきている。樹木ではクサギやオオバアサガラ、ジャケツイバラ、草本ではマツカゼソウやカリガネソウなどのシカの不嗜好性植物が増え、今後注目してその推移をみる必

要がある。それらに加えて、外来種の動向にも留意すべきである。

(8) 参考文献

- 吉岡邦二 (1973) 「植物地理」 発行：共立出版, p91
前川文夫 (1974) 「日本の植物区系」, 発行：玉川大学出版部, p1-178
村瀬忠義 (1979) 「滋賀県の植物地理概説」, 滋賀県の自然 (滋賀自然環境研究会編), 滋賀県自然保護財団, P899-928

5 鈴鹿の森の昆虫

寺本 憲之

(1) はじめに

鈴鹿山脈の昆虫相をまとめた報告は、三重県側では「鈴鹿山脈の昆虫（三重昆虫談話会 2016）」があるが、滋賀県側では「湖東三山地域学術調査報告書（滋賀県 1975）」と限られた地域であり、かつ簡単な報告しかみられない。そこで、2024～2025年に東近江市の鈴鹿山脈の昆虫相の調査を行った。

現地調査は、スーピング（すくい取り網捕獲）法、ビーティング（たたき網）法、ライトトラップ（夜間採集）法、バージンメストラップ（処女メスをかごに入れてオスを誘引する）法、（幼虫が入っている植物葉・虫瘤などの）シェルター採集・飼育法（幼虫→成虫）などの方法で個体を採集、標本を作製して同定して種リストを作成した。

種リストは、目・科・亜科・種・学名と採集年月日（年・月）、採集方法、寄主植物、採集地などの項目を入れて、それぞれの項目で検索できるようにした。また、既存文献から本地域で記録がある種を抽出して、種リストに追加した。

(2) 昆虫相から見た鈴鹿山脈の特徴

東近江市の鈴鹿の森は多様な樹木や草本、河川、地形（河川敷・裸地・草地など）を有し、多様な昆虫がそれらを活用できる環境が整った生息地（ハビタット）である。

また、鈴鹿の源流の森には、人の生活に利用されたコナラの薪炭林、アカガシ帯、ブナ帯などブナ科植物が広く分布している。ブナ科植物は、多くの昆虫・動物が利用できる樹種であり、例えば、チョウ目では、ブナ科植物は利用する種が最も多い樹種グループである（寺本 2008）。

(3) 滋賀県と鈴鹿の森の種数の比較

滋賀県全域で確認されている昆虫類は 2024 年時点で 27 目、8,767 種である（滋賀県 2025）。

一方、東近江市の鈴鹿の森で 2024 年までに確認された昆虫類は 16 目、805 種であり、滋賀県で確認された昆虫種数の約 9% が確認されている（表 1）。種数が多かった分類群として、チョウ目 390 種（滋賀県の 16%）、コウチュウ目 109 種（同 3%）、ハチ目 63 種（同 9%）、カメムシ目 60 種（同 7%）、ハエ目 54 種（同 8%）、トビケラ目 48 種（同 24%）、バッタ目 37 種（同 29%）、トンボ目 22 種（同 22%）、が挙げられる。

チョウ目は精力的に行った現地調査の成果であり、トビケラ目は詳しく調査された文献の存在が大きい。他方、コウチュウ目、ハチ目、ハエ目、カメムシ目は滋賀県全体の母種数が大きいいため鈴鹿山脈の昆虫種数の割合が小さくなっている。したがって、これらの目は今後の調査による解明が期待される分類群である。

なお、2016 年時点での三重県側の鈴鹿山脈でまとめられた昆虫種数は、16 目、3,501 種（三重昆虫談話会 2016）であり、本調査 805 種の 4 倍以上に上る。種数が多かった分類群として、コウチュウ目 1,573 種、チョウ目 714 種、ハチ目 411 種、ハエ目 323 種、カメムシ目 249 種、バッタ目 91 種、トンボ目 52 種、カゲロウ目 35 種が挙げられる（表 2）。

(4) 地域・環境ごとの昆虫の特徴と分布

確認された昆虫類をみると、鈴鹿の森の特徴である森林面積の広さ、ブナ科植物などの広葉樹の樹種の多様性を反映し、樹林性の昆虫が多く確認されている。ブナ科植物では、

表1. 滋賀県と鈴鹿の森の種数の比較
(2025年3月現在)

目	鈴鹿の森 (2024)	滋賀県 (2024)	①/② (%)
	① 種数(種)	② 種数(種)	
チョウ目	390	2427	16
コウチュウ目	109	3211	3
ハチ目	63	741	9
ハエ目	54	712	8
カメムシ目	60	824	7
トンボ目	22	102	22
バッタ目	37	127	29
カマキリ目	3	9	33
カワゲラ目	5	90	6
シリアゲムシ目	3	17	18
ハサミムシ目	2	8	25
トビケラ目	48	203	24
カゲロウ目	3	77	4
ナナフシ目	1	6	17
アミカゲロウ目	3	59	5
ヘビトンボ目	2	8	25
合計	805	8621	9

表2. 鈴鹿山脈(三重県)の種数

目	鈴鹿山脈(三重県) (2016)
	種数(種)
チョウ目	714
コウチュウ目	1573
ハチ目	411
ハエ目	323
カメムシ目	249
トンボ目	52
バッタ目	91
カマキリ目	4
シリアゲムシ目	5
ハサミムシ目	4
カゲロウ目	35
ナナフシ目	4
アミカゲロウ目	25
ヘビトンボ目	2
ゴキブリ目	2
チャタテムシ目	7
合計	3501

ヤママユ、オドリハマキモドキ、ヒロバスゴモリキバガ、ムラサキシジミなどのシジミチョウ類など多くのチョウ目の幼虫がそれらの葉を利用している。ハムシ類、カミキリムシ類などの植食性のコウチュウ目は、特定の植物のみを利用する種が多いことから、植生の多様性が高いほど昆虫の多様性も高くなると考えられる。チョウ目はその最たる例である。

一方で、鈴鹿の森には愛知川に流入する豊富な溪流環境や、川沿いに広がる河原などの裸地環境、集落周辺の水田や耕作放棄地といった草地環境など、面積は小さいものの森林とは異なる環境が存在し、そこにはそれぞれの環境に適応した昆虫が生息している。

(ア) 森林性の昆虫類

コナラをはじめとする多様な樹種を含む落葉広葉樹の林には多種の昆虫類が生息する。樹液にはルリタテハ、ゴマダラチョウなどタテハチョウ類(チョウ目)、ミヤマクワガタ、カナブン、ミヤマカミキリ(コウチュウ目)やオオスズメバチ(ハチ目)など多くの昆虫類が集まる。

登山道を歩くとハンノキ類にはオオミズアオ(チョウ目)の幼虫が葉を食べ、樹上からニイニイゼミ、ツクツクボウシ、ミンミンゼミやヒグラシ(カメムシ目)の鳴き声が聞こえ、薄暗い林内を歩くとヒグラシが次々に飛び立つ。ヒグラシには蠟物質を体表全体に付けたセミヤドリガ(チョウ目)の白い幼虫が寄生している個体も見かける。

林縁では捕食性のヤマトシリアゲ(シリアゲムシ目)、そしてホソクビツユムシ、ヤマトフキバッタ(バッタ目)、コムスジ、コツバメ(チョウ目)など山地に生息する昆虫が草の上に止まっている様子がみられる。

サクラやマツ類などの古木では、樹幹の穴や割れ目にあるアリ巢中でハリブトシリアゲアリ(ハチ目)と共生するキマダラルリツ

バメ（チョウ目）の幼虫が見られる。このチョウ目の幼虫は、この共生アリによって口移しに動物質の餌を与えられるとともに外敵から守られる。代わりにこの幼虫は背中中の蜜腺から共生アリに蜜を与える。

シカの増加に伴い食糞性のオオセンチコガネなどのコガネムシ類（コウチュウ目）も多くみられる。

（イ）草地性の昆虫類

農地付近や森林内の開けた明るい雑草群落にはベニシジミ、ヤマトシジミ、ウラナミシジミなどのシジミチョウ類やモンキチョウ、スジグロシロチョウなどのシロチョウ類（チョウ目）、シラホシカメムシ、トゲカメムシなど（カメムシ目）やナナホシテントウ、ナミテントウやイタドリハムシなど（コウチュウ目）、ショウリョウバッタなどバッタ類（バッタ目）、ニホンミツバチなどハナバチ類（ハチ目）やキゴシハナアブ、クロハナアブなどハナアブ類（ハエ目）といった訪花性の昆虫がみられる。またイネ科植物の草間ではキリギリス、クツワムシなど（バッタ目）が鳴く。夏には南日本から飛来したウスバキトンボなど（トンボ目）が水田上で多く飛翔する姿がみられる。また枉葉尾町の集落周辺にはススキ群落が繁茂している場所があり、秋にはツユムシやウスイロササキリ、エンマコオロギなど（バッタ目）の鳴き声が聞こえる。

（ウ）裸地性の昆虫類

愛知川沿いには広い砂礫質の河原が広がっており、山道などにも開けた裸地環境に生息する昆虫類がみられる。河原や山道を歩くとハンミョウ（コウチュウ目）が飛び立ち、石の下にはアオゴミムシなどのゴミムシ類（コウチュウ目）が生息している。開けた裸地の空中ではアキアカネ、シオカラトンボなど（トンボ目）が飛び交い、クルマバッタなど草地に生息するバッタ類（バッタ目）もみ

られる。

（エ）水生昆虫類

鈴鹿の森を流れる河川の多くが急峻な谷を流れる溪流であり、特に清流に生息する種が多数確認される。トビケラ目が詳細に調査されているが、河川に生息する水生昆虫は他にもカワゲラ目、カゲロウ目、コウチュウ目、カメムシ目など多数生息している。河原の石の上や近隣の薄暗い林内にはハグロトンボ、アサヒナカワトンボなど（トンボ目）がみられ、河川内の石の下にはヒゲナガカワトビケラなど（トビケラ目）の幼虫が豊富にみられる。これら水生昆虫はイワナなど溪流に生息する魚類の重要な餌となっており、水生昆虫の豊富さは河川の生態系を形成する重要な要素である。

（オ）コケ類を食べる原始的な昆虫類

愛知川の支流にあたる神崎川沿いの針葉樹林帯の暗所では一年中湧水が滴り落ちている場所があり、露出した岩肌などにはジャゴケが一年中生育繁殖している。そこには幼虫がジャゴケを食べるニッポンヒロコバネ（チョウ目）が生息している。本種の成虫は歯を持ち、現存しているチョウ目の中で最も原始的なガ類である。滋賀県では本種は枉葉尾町でしか確認されていなく、本調査で少なくとも 33 年間は同所で生息していることが確認された（寺本 2021）。

（5）参考文献

三重昆虫談話会（2016）「鈴鹿山脈の昆虫」, 401pp.
滋賀県（1975）「湖東三山地域の昆虫相」湖東三山地域学術調査報告書, 55-69+8pls.
滋賀県（2022）滋賀県ニホンザル第二種特定鳥獣管理計画（第5次）.
<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/koho/e-shinbun/oshirase/336852.html>
滋賀県昆虫目録作成グループ（2025）滋賀県昆虫目録2025. <https://sites.google.com/view/shigainsect/>
寺本憲之（2008）「ドングリの木はなぜイモムシ、ケムシだらけなのか?」, 218pp.+4pls. サンライズ出版.
寺本憲之（2021）「びわ湖の森のイモムシ、ケムシたち」, 123pp. サンライズ出版.

6 鈴鹿の森とその周辺水域の魚類

藤岡 康弘、亀甲 武志、花岡 駿一

(1) はじめに

鈴鹿の森が存在する琵琶湖水系は、在来の魚類が70種ほど生息しており（藤岡ら2024）、固有種も多く日本列島の淡水魚の分布の中心となっており、また、現在でも新たな種が発見されるなど極めて重要な水系である。琵琶湖水系は、開発などにより絶滅危惧種なども多くなっているが、一方で個体数の多い種も多く、それらをねらって現在も漁業が盛んである。

琵琶湖と河川は水域としての連続性があるものの、流れの速さ、水深、水温や餌となる生物の存在様式や隠れ家などによって生息する魚類相が湖、内湖や河川などによって大きく異なっている。また、湖と川などを季節的に移動（回遊）する魚類も多い。さらに、河川でも上流と下流では流程に沿って顕著な変化が見られる。

以下では、鈴鹿の森とその周辺水域の特徴を述べるとともに、現地調査及び文献調査を元に愛知川水系を中心に生息する魚類の特徴を述べる。

(2) 鈴鹿の森とその周辺水域の特徴

滋賀県の東部に位置する鈴鹿山脈は、日本列島のほぼ中央部に位置して南北に走っている。鈴鹿山脈の西面の降水は、北から天野川、芹川、犬上川、宇曾川、愛知川、日野川、野洲川として流れ、すべて琵琶湖に注いで琵琶湖水系の主要な水域となっている。

東近江市にはこれらの河川の中で宇曾川、愛知川と日野川の支流の佐久良川が流れ、それぞれが独立した河川として琵琶湖に流入している。また、愛知川を中心として、上記3河川によって形成された広大な扇状地は、湖東平野と呼ばれて稲作が盛んであり、上記

の河川から網目状にひかれた大小の水路には水が流れ、多様な水域が形成されている。さらに、愛知川下流部には、伊庭内湖などの琵琶湖岸の湿地帯が広がり、湧水などと併せて独自の景観を見せている。

(3) 愛知川上流水域の魚類

(ア) 現地調査による結果（亀甲、花岡）

永源寺ダムを境としてその上流の愛知川上流部は、鈴鹿の森の多くを占めている。

愛知川の上流部を構成する御池川、茶屋川、神崎川のうち、御池川の源流から下流末端までの本流7地点では、サケ科のアマゴとコイ科のタカハヤが全地点で確認されており、生息数もかなり多いことが明らかになっている。アマゴの生息密度の高さは、漁協による放流の影響が出ているものと考えられる。さらに、イワナが中間点から上流に出現しており、御池川に流入する支流ではイワナの生息密度がさらに高まることが示されている。下流部では、アカザとカワヨシノボリが、上流部ではカジカ大卵型が限定的に出現している。

茶屋川では、本流の5地点で調査を行った。その結果、イワナ、アマゴ、カワムツ、タカハヤ、アカザ、カジカ（大卵型）、カワヨシノボリの計7種が確認された。下流域では、主にカワムツ、カワヨシノボリが出現した。下流から中流域にかけては、カワムツ、タカハヤの生息密度が高く、中流から上流域にかけては、イワナ、アマゴの生息密度が高くなることが確認された。

神崎川では、本流の上流域3地点で調査を行った。その結果、アマゴ、タカハヤ、アジメドジョウ、カジカの4種が確認された。イワナの生息は確認されなかったが、神崎川に

流入する支流ではイワナの生息が確認された。

さらに、愛知川上流水域では、遺伝子分析の結果から在来イワナ（原種）も見られている。

表 1. 現地調査で確認された愛知川上流水域の魚類一覧

魚種名	調査場所, 年月日		
	御池川	茶屋川	神崎川
	2024 年 11, 12 月	2025 年 11 月	2025 年 9, 10 月
イワナ	○	○	(○)
アマゴ	○	○	○
カワムツ	○	○	
タカハヤ	○	○	○
アジメ ドジョウ			○
アカザ	○		
カジカ (大卵型)	○	○	○
カワヨシ ノボリ	○	○	
合計種数	7	6	4

※○は生息が確認されたことを示す。

※(○)は、各河川の調査時には確認されなかったが、該当河川に流入する支線の調査時に確認されたことを示す。

※愛知川上流で分岐する 3 支流の河川での調査であり、永源寺ダムから愛知川と御池川の分岐点までの間の調査は未実施。

(イ) 文献による調査記録（藤岡）

滋賀県水産試験場が神崎川および神崎川と御池川との合流点付近を 1995、1996 年（滋賀県水試 1997）及び 2002、2003 年（滋賀県水試 2005）に調査した結果によれば、それぞれ 12 種と 8 種が分布すると報告されている（表 2）。これらの中で、ニジマスは外来種であり河川漁業のために放流された魚である。

また、アユとウナギは、本水域の在来種ではあるがいずれも回遊魚である。永源寺ダムにより下流からの遡上ができなくなってい

ることを考えると、人為的に導入された（放流された）ものが捕獲されたものと考えられる。2002 年の調査ではアユおよびウナギの記録は確認されていないが、地元関係者からは当時も放流が行われていたとの証言があり、その頃にも生息していた可能性が高いと推察される。

アマゴは大正期に一度姿を消したとされており（山本 1981）、その後河川漁業のために放流されたものが定着していると思われる。「アマゴ」は大正期以前には生息していたことになるが、この「アマゴ」がビワマスの稚魚や河川残留型であった可能性も残されており、アマゴが在来種として自然分布していた可能性は低いものと考えられる。

生息する魚類の中で最も上流に生息するのはイワナであり、一部重なりながらもその下流にアマゴとタカハヤが、さらにその下流水域にカジカ（大卵型）とアブラハヤ、アカザ、カワムツ、ニジマスが、本流には上記に加えてオイカワ、アジメドジョウ、カワヨシノボリが分布する。

イワナの国内分布は、青森県から滋賀県の鈴鹿の森までの水域には連続的にみられるが、鈴鹿の森より南域では和歌山県や中国山地などに不連続に分布する。鈴鹿の森では、標高 700m 以上の尾根に近い沢にまでイワナが生息しており、安定した水供給に支えられた特徴的な生息環境が形成されている。しかし、同地域の最高標高は約 1200m 程度にとどまるため、地球温暖化に伴う夏季水温の上昇が進行した場合、より低水温の水域へ逃避できず絶滅に至る可能性がある。さらに、降水量の減少等により沢が枯渇すれば、生息環境そのものが失われるリスクも高いと考えられる。

これらのことから、現在愛知川上流水域にはイワナ、オイカワ、カワムツ、タカハヤ、アブラハヤ、アジメドジョウ、アカザ、カワ

ヨシノボリ、カジカ（大卵型）の9種が生息すると考えられる。また、永源寺ダムにはウグイ、コイ（養殖品種）、ゲンゴロウブナ（ヘラブナ）が生息しており、ウグイは自然分布の可能性が高い。

表2. 文献調査で確認された愛知川上流水域の魚類一覧

魚種名	調査年月日	
	1994年 6, 12月	2002年 8, 9月
ウナギ	○	
アユ	○	
イワナ	○	○
アマゴ	○	○
ニジマス	○	
カワムツ	○	○
オイカワ	○	
アブラハヤ	○	
タカハヤ	○	○
カマツカ	○	
アジメドジョウ	○	○
アカザ	○	○
カワヨシノボリ	○	○
カジカ（大卵型）	○	○
合計種数	12	8

※茶屋川と神崎川の合流点より上流水域の神崎川

(4) 愛知川中流水域の魚類（藤岡）

永源寺ダムの下流から八日市地区の市街部における愛知川中流水域の魚類相については、上述の滋賀県水産試験場による調査報告がある（滋賀県水試 1997, 2005）。これらによれば1994年には18種が、2002と2003年には21種がそれぞれ確認されている（表3）。

これらはいずれも在来種で、アユ、ウナギ、ヨシノボリ（オウミヨシノボリと思われる）は回遊魚で琵琶湖から遡上してきたものである。

表3. 文献調査で確認された愛知川中流水域の魚類一覧

魚種名	調査年月日	
	1994年 7, 12月	2002年9月, 2003年6月
スナヤツメ	○	○
ウナギ	○	
アユ	○	○
アマゴ	○	○
カワムツ	○	○
オイカワ	○	○
ウグイ	○	
アブラハヤ	○	○
ムギツク	○	○
モツゴ		○
カマツカ	○	○
イトモロコ		○
ギンブナ	○	○
アブラボテ		○
ドジョウ		○
シマドジョウ	○	○
アジメドジョウ		○
ギギ	○	○
アカザ	○	○
ナマズ	○	
ドンコ	○	○
ヨシノボリ	○	○
カワヨシノボリ		○
カジカ（大卵型）	○	○
合計種数	18	21

※国道307号線の春日橋の上流約3kmから1.5kmの水域

(5) 愛知川下流水域の魚類（藤岡）

愛知川の国道8号から下流水域には、同上の研究報告によれば1994年と1995年の調査では、外来魚を含む14種が、2002年と2003年には13種が確認されている（表4）。これらの中でカムルチー、オオクチバス、ブルーギルは国外外来種であり、ヌマチチブは国内外来種である。したがって下流水域の在来

魚類相としては、14 種程度と考えられる。

これらの中で、ウナギ、アユ、ビワマス、ニゴロブナ、ヨシノボリ（おそらくオウミヨシノボリと考えられる）、ウツセミカジカは回遊魚であり、琵琶湖から遡上してきたものと考えられる。

以上の（3）～（5）の結果を総合すると、愛知川の全域では在来魚 29 種、国外外来魚 4 種、国内外来魚 2 種の合計 35 種の生息が確認されていることになる。

表 4. 文献調査で確認された愛知川下流水域の魚類一覧

魚種名	調査年月日	
	1994 年 7 月, 1995 年 1 月	2002 年 9 月, 2003 年 6 月
スナヤツメ	○	
ウナギ	○	
アユ	○	○
ビワマス	○	
オイカワ	○	○
カマツカ	○	
ニゴロブナ	○	○
ギンブナ	○	○
シマドジョウ	○	○
ナマズ		○
カムルチー		○
オオクチバス		○
ブルーギル		○
ヨシノボリ	○	○
ヌマチチブ	○	○
ウキゴリ	○	○
ウツセミカジカ	○	○
合計種数	14	13

※彦根市新海町の栗見橋の上流約 1 km から下流 500m の水域

(6) 湖東平野の水田域の魚類相（藤岡）

上述のように、東近江市には湖東平野と呼ばれる平坦な台地が広がり、多くは水田で水路網が伸びている。

水田地帯の魚類相については、2025 年度の市民参加型調査による報告(藤岡ら 2025)があり、これによれば、八日市地区の白鳥川では、ゲンゴロウブナ、オイカワ、カマツカ、タイリクバラタナゴ、シマドジョウ、カワヨシノボリ、オオクチバス、ブルーギルの 8 種が確認されている。これらの中で在来種は、ゲンゴロウブナ、オイカワ、カマツカ、シマドジョウ、カワヨシノボリの 5 種である。

また、愛東地区の経田川の生息魚として、アユ、オイカワ、カワムツ、タモロコ、ドンコ、ドジョウ、トウヨシノボリの 7 種が報告されている。

さらに、五個荘地区の大同川では、アユ、オイカワ、カワムツ、ギンブナ、カネヒラ、ウキゴリ、ドジョウ、シマドジョウ、ドンコ、トウヨシノボリ、メダカの 11 種が捕獲されている。

これらの魚類の中で上記の愛知川の調査では報告がなかった在来魚類は、ゲンゴロウブナ、タモロコ、カネヒラの 3 種であった。

上記の水域は琵琶湖を除く内陸部の淡水魚類相であり、愛知川を含める（3）～（6）の結果を総合すると、在来魚 32 種、外来魚 6 種の合計 38 種生息が確認されている。

(7) 参考文献

- 藤岡康弘、川瀬成吾、田畑諒一（2024）琵琶湖の魚類図鑑，p1-229，サンライズ出版，滋賀県彦根市。
- 藤田朝彦、細谷和海（2003）共存河川におけるアブラハヤとタカハヤの生化学的および形態的比較，魚類学雑誌，50（1）：55-62。
- 滋賀県水産試験場（1997）琵琶湖および河川の魚類等の生息状況調査報告書，滋賀県水産試験場，p1-177
- 滋賀県水産試験場（2005）琵琶湖および河川の魚類等の生息状況調査報告書，滋賀県水産試験場，pp.1-138。
- 山本素石（1981）西日本の山釣，3 刷（改訂版）p1-493，釣の友社，大阪市。
- 藤岡康弘・西堀太貴・藤井盛浩・北山俊紀・居原田盛義・須藤涼太（2025）市民参加調査で記録された滋賀県東近江市の平野部における魚類相，淡海生物，6，8-17。
- Hosoya, K, Ashiwa, H, Watanabe, K, Mizuguchi, K, & Okazaki, T (2003) *Zacco sieboldii*, a species distinct from *Zacco temminckii* (Cyprinidae), Ichthyological Research, 50 (1) , 1-8

細谷和海 (2000) サケ科, 中坊徹次 (編), p298-301, 日本産魚類検索, 第二版, 東海大学出版会, 東京

細谷和海 (2013) ウグイ亜科, 中坊徹次 (編), p320-321, 日本産魚類検索, 第三版, 東海大学出版会, 秦野

細谷和海 (2013) アカザ科, 中坊徹次 (編), p337, 日本産魚類検索, 第三版, 東海大学出版会, 秦野

環境省 (2007) 汽水・淡水魚類, p273-274, 284-285, 350, 日本のレッドデータブックデータ検索システム

鎌田淡紅郎 (1979) 滋賀県におけるアマゴイワナの自然分布と放流事業, 財団法人滋賀県自然保護団体, p615-622, 滋賀県の自然, 滋賀

Kikko T, Kuwahara M, Iguchi K, Kurumi S, Yamamoto S, Kai Y, Nakayama K (2008) Mitochondrial DNA population structure of white-spotted charr (*Salvelinus leucomaenis*) in the Lake Biwa water system. *Zool Sci*, 25:146-153

桑原雅之、前畑政善、秋山廣光、松田征也、岡野 巧 (1994) 愛知川に生息する魚類. 滋賀県琵琶湖博物館研究紀要, 12:9-18

Mizuno, N (1960) Study on a freshwater goby, *Rhinogobius similis* Gill, with a proposition on the relationships between land-locking and speciation of some freshwater gobies in Japan. *Memoirs of the College of Science, University of Kyoto, Series B*, 27, 97-115

中村守純 (1963) 原色淡水魚類図鑑, 北隆館, 東京, p72-74, 85-86, 133-134, 135-137, 244-246, 262-263, 306-309, 355-357

中村智幸 (2001) 聞き取り調査によるイワナ在来個体群の生息分布推定, 砂防学雑誌, 53:3-9

成瀬智仁、吉安克彦 (1983) 頭上班よりみた日本在来イワナ *Salvelinus leucomaenis* について-その動物地理学的考察-, 木村英造 (編), p109-126, 財団法人淡水魚保護協会機関誌淡水魚増刊イワナ特集, 財団法人淡水魚保護協会, 大阪

Yamamoto S, Morita K, Kitano S, Watanabe K, Koizumi I, Maekawa K, Takamura K (2004) Phylogeography of white-spotted charr (*Salvelinus leucomaenis*) inferred from mitochondrial DNA sequences, *Zool Sci*, 21:229-240

(1) はじめに

鈴鹿山脈の爬虫類・両生類相については岡田・角田（1963）による報告や、鈴鹿山脈北部の霊仙地域に生息する種の報告（村長2002）があるほか、鈴鹿山脈周辺に位置する各自治体の市町村史に記述がみられる。

その多くは過去を目撃情報や記録をまとめたもので、ひとつの地域の爬虫類・両生類相調査を詳細に行った報告はみられない。

今回、文献調査により滋賀県及び鈴鹿山脈の爬虫類・両生類相を整理したことに加え、東近江市森の文化資源調査として、鈴鹿山脈中央部に位置する愛知川上流の御池川および茶屋川流域を中心とした地域で現地調査を行い、爬虫類・両生類の生息状況を確認した。

広大な鈴鹿山脈から見れば限られた一部の地域ではあるが、鈴鹿山脈の爬虫類・両生類相に関する貴重な基礎資料になると考えられる。

(2) 滋賀県の爬虫類・両生類相

滋賀県の爬虫類・両生類は滋賀県レッドデータブック2020年度版によると、爬虫類17種、両生類21種が確認されている（滋賀県生き物総合調査委員会2021）。

2020年以降、爬虫類は確認種数に変更はないが、両生類では新たに発見されたクロサンショウウオ（関・水戸2023）のほか、ヒメタゴガエル（Eto *et al.* 2022）、アズマヒキガエル（Fukutani *et al.* 2023）、ホムラハコネサンショウウオ（Yoshikawa & Matsui 2022）が分類の見直しにより追加され、2025年現在、滋賀県に生息する両生類は25種となっている（表1、表2）。

また従来ニホンアマガエルとされていた

種が日本の東西で2種に分けられ、滋賀県に生息する種はヒガシニホンアマガエルとなった（Shimada *et al.* 2025）。

このような分子遺伝解析を用いた種の分類は今後も進むと考えられる。

(3) 鈴鹿山脈の爬虫類・両生類相

鈴鹿山脈の爬虫類・両生類相については岡田・角田（1963）が爬虫類11種、両生類16種を報告しているほか、村長（2002）は霊仙山周辺に生息する種として爬虫類10種、両生類12種を報告している。

その他、滋賀県レッドデータブック（滋賀県生き物総合調査委員会2021）や甲賀市レッドリスト2022（甲賀市みなくち子どもの森自然館2022）、永源寺町史（東近江市2008）、日野町史（松井2005）、亀山市史（富田・清水2011）を参照し、鈴鹿山脈全体では爬虫類13種、両生類20種の記録が確認された（表1、表2）。

比較的分布が限られる種として、本州中部地方から紀伊半島にかけて分布しているナガレヒキガエルやマホロボサンショウウオが生息しているが、鈴鹿山脈に固有の種はみられない。

なお鈴鹿山脈南部はアズマヒキガエルとニホンヒキガエル、ヒガシニホントカゲとニホントカゲの分布の境界になっていると考えられるが、それぞれの分布域の詳細は不明である。

(4) 現地調査対象地の環境的特徴

今回現地調査を実施したのは、愛知川に流入する御池川および茶屋川流域を中心とする地域である。大部分が標高300m～1000m前後の急峻な山地で、斜面の多くは植林や落

葉広葉樹林に覆われている。平地は少なく、
 杠葉尾町や黄和田町の集落周辺に比較的
 広い農地が見られるが、多くは耕作放棄地
 となっている。御池川と茶屋川の2つの大
 きな支流が流れ、それぞれに細い沢が数多
 く流入し、流水環境は非常に豊富である。
 一方で止水環境は少なく、砂防堰堤によ
 って造成された止水域が沢沿いに存在す
 るほか、愛知川沿いに比較的広い面積の
 わんどが見られる。また、林道上や山地
 の尾根上に小規模な水たまりが見られる。
 杠葉尾町の集落周辺には稲作が行われて
 いる水田地帯が存在し、春から夏にかけ
 ては貴重な止水環境となっている。

(5) 現地調査結果

2023年9月から実施している現地調査の
 結果、爬虫類12種、両生類14種が確認
 された(表1、表2)。

(ア) 爬虫類

爬虫類については河川下流域に生息する
 ニホンスッポンなどのカメ類と、滋賀県で
 は野洲川以南に分布するニホントカゲを
 除き、滋賀県に生息する爬虫類の大半が
 確認された。

ニホンイシガメは愛知川沿いのわんどで
 確認されたほか、犬上川水系上流の調整
 池でも多数の個体が確認された。平野部
 から山地まで広い範囲に生息し、鈴鹿山
 脈の渓流域にも生息する唯一のカメ類
 である。

ヒガシニホントカゲとニホンカナヘビは
 集落周辺から山地の登山道まで広い範
 囲で確認された。また、ニホンヤモリは
 道の駅奥永源寺溪流の里の外壁や街灯で
 夜間に採餌している個体が複数確認され
 た。

ヘビ類は滋賀県産既知種の8種すべてが
 確認された。シマヘビとヤマカガシが
 最も多

表1. 鈴鹿の森の爬虫類種一覧 (2025年3月現在)

No.	目名	科名	和名	学名	現地調査	鈴鹿山脈	滋賀県	
1	カメ目	イシガメ科	ニホンイシガメ	<i>Mauremys japonica</i>	○	○	○	
2			ミナマイシガメ	<i>Mauremys mutica mutica</i>			○	
3			クサガメ	<i>Mauremys reevesii</i>			○	
4		ヌマガメ科	ミシシippアカミミガメ	<i>Trachemys scripta elegans</i>			○	
5		スッポン科	ニホンスッポン	<i>Pelodiscus japonicus</i>			○	
6	有鱗目	ヤモリ科	ニホンヤモリ	<i>Gekko japonicus</i>	○	○	○	
7		トカゲ科	ニホントカゲ	<i>Plestiodon japonicus</i>		○	○	
8			ヒガシニホントカゲ	<i>Plestiodon finitimus</i>	○	○	○	
9		カナヘビ科	ニホンカナヘビ	<i>Takydromus tachydromoides</i>	○	○	○	
10		タカチホヘビ科	タカチホヘビ	<i>Achalinus spinalis</i>	○	○	○	
11		ナミヘビ科	シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i>	○	○	○	
12			アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>	○	○	○	
13			ジムグリ	<i>Euprepiophis conspicillatus</i>	○	○	○	
14			シロマダラ	<i>Lycodon orientalis</i>	○	○	○	
15			ヒバカリ	<i>Hebius vibakari vibakari</i>	○	○	○	
16			ヤマカガシ	<i>Rhabdophis tigrinus</i>	○	○	○	
17		クサリヘビ科	ニホンマムシ	<i>Gloydius blomhoffii</i>	○	○	○	
2目9科17種					種数	12	13	17

注) 種の並び順及び和名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト-令和6年度リスト-(国土交通省, 2024年10月16日更新)」に準拠した。

くの地点で確認され、シマヘビは農地や河原など開けた場所で、ヤマカガシは林道上や登山道上で多く確認された。アオダイショウとニホンマムシも林内や河原などの複数個所で確認されている。ジムグリとヒバカリはやや稀で、いずれも山林内や林道上で確認された。シロマダラは2003年に蛭谷町で採集された幼蛇の標本が、タカチホヘビは君ヶ畑町で車に轢かれた1個体が確認されたのみであった。ともに夜行性で発見が難しい種であ

るが、広く分布していると考えられる。

(イ) 両生類

① 山地の源流域に生息する種

山地の源流域に生息する種として、ヒダサンショウウオ、マホロバサンショウウオ、ナガレヒキガエル、ナガレタゴガエル、カジカガエルが確認された。

ヒダサンショウウオとナガレタゴガエルは御池川や茶屋川に流入する小規模な沢で確認された。ナガレヒキガエルは比較的川幅

表2. 鈴鹿の森の両生類種一覧 (2025年3月現在)

No.	目名	科名	和名	学名	現地調査	鈴鹿山脈	滋賀県
1	有尾目	サンショウウオ科	クロサンショウウオ	<i>Hynobius nigrescens</i>			○
2			ヒダサンショウウオ	<i>Hynobius kimurae</i>	○	○	○
3			ヤマトサンショウウオ	<i>Hynobius vandenburghi</i>			○
4			マホロバサンショウウオ	<i>Hynobius guttatus</i>	○	○	○
5			ハコネサンショウウオ	<i>Onychodactylus japonicus</i>		○	○
6			ホムラハコネサンショウウオ	<i>Onychodactylus pyrrhonotus</i>			○
7		オオサンショウウオ科	オオサンショウウオ	<i>Andrias japonicus</i>		○	○
8		イモリ科	アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	○	○	○
9	無尾目	ヒキガエル科	ニホンヒキガエル	<i>Bufo japonicus</i>		○	○
10			アズマヒキガエル	<i>Bufo formosus</i>	○	○	○
11			ナガレヒキガエル	<i>Bufo torrenticola</i>	○	○	○
12		アマガエル科	ヒガシニホンアマガエル	<i>Dryophytes leopardus</i>	○	○	○
13		アカガエル科	タゴガエル	<i>Rana tagoi</i>	○	○	○
14			ナガレタゴガエル	<i>Rana sakuraii</i>	○	○	○
15			ニホンアカガエル	<i>Rana japonica</i>		○	○
16			ヤマアカガエル	<i>Rana ornativentris</i>	○	○	○
17			ヒメタゴガエル	<i>Rana kyoto</i>			○
18			トノサマガエル	<i>Pelophylax nigromaculatus</i>	○	○	○
19			ナゴヤダルマガエル	<i>Pelophylax porosus brevipodus</i>			○
20			ウシガエル	<i>Lithobates catesbeianus</i>		○	○
21		ツチガエル	<i>Glandirana rugosa</i>	○	○	○	
22		ヌマガエル科	ヌマガエル	<i>Fejervarya kawamurai</i>		○	○
23		アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	<i>Zhangixalus schlegelii</i>	○	○	○
24			モリアオガエル	<i>Zhangixalus arboreus</i>	○	○	○
25			カジカガエル	<i>Buergeria buergeri</i>	○	○	○
2目8科25種				種数	14	20	25

注) 種の並び順及び和名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト-令和6年度リスト- (国土交通省, 2024年10月16日更新)」に準拠した。

注) 岡田・角田 (1963) にはオオダイガハラサンショウウオの記載があるが現在の分布から判断して採用しなかった。

の広い溪流沿いの淵や滝つぼで確認された。マホロバサンショウウオはわずかに伏流水が流れる斜面で確認された。県内での生息地は限られ、湖東側の伊吹山地から鈴鹿山脈にかけてのみ分布している。

これらの種は鈴鹿山脈の中でも特に山深い、山岳地帯の渓谷の清流に生息する種であり、鈴鹿の森の豊かさを特徴づける両生類である。

② 山地から山裾の広範囲に生息する種

山地から山裾までの広い範囲に生息する種として、アカハライモリ、アズマヒキガエル、タゴガエル、ヤマアカガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエルが確認された。

アズマヒキガエル、ヤマアカガエルは林道上の水たまりで産卵している個体が確認された。タゴガエルは水の染み出る岩の隙間で特徴的な鳴き声が確認された。モリアオガエルは水田やわんど、林道上の水たまりで白い泡状の卵塊が多数確認された。

③ 水田などの止水域に生息する種

水田などの止水域に生息する種として、ヒガシニホンアマガエル、トノサマガエル、ツチガエルが確認された。

いずれも平野部では普通にみられる種であるが、調査範囲では杠葉尾町の水田地帯と愛知川沿いのわんどでしか見つかっておらず、分布は非常に限定的である。また永源寺ダムより下流の平野部の個体群との遺伝的交流はないと考えられ、鈴鹿山中に孤立した個体群である。

かつて山間の集落にはほぼ必ず水田が存在し、永源寺地区でもほとんどの集落で小規模ながら稲作が行われていた（東近江市2025）。しかし現在、調査を実施した範囲内で稲作が行われているのは杠葉尾町といった一部の集落のみであり、人の手によって作り出された水辺の生物の貴重な生息環境と

なっている。鈴鹿山脈全体でみても山中に水田が残っているのは野洲川流域の甲賀市土山町鮎川などわずかな地域のみであり、山中に残る湿地環境として貴重である。

(6) 今後の課題

今後の調査の課題として、生体が見つからないシロマダラやタカチホヘビなどの夜行性の爬虫類の調査、文献での記録はあるものの現地調査では発見に至っていないハコネサンショウウオの探索があげられる。

(7) 参考文献

- 滋賀県生き物総合調査委員会（2021）滋賀県で大切にすべき野生生物-滋賀県レッドデータブック 2020-滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課
関慎太郎・水戸直（2023）滋賀県初記録のクロサンショウウオについて 爬虫両棲類学会報 2023（2）:165-169.
Eto K, Matsui M & Sugahara T. 2022. Description of a new subterranean breeding brown frog (Ranidae: Rana) from Japan. Zootaxa 5209:401-425.
Fukutani K, Matsui M & Nishikawa K. 2023. Population genetic structure and hybrid zone analyses for species delimitation in the Japanese toad (Bufo japonicus). PeerJ 11:e16302.
Yoshikawa N, Matsui M. 2022. A New Salamander of the Genus Onychodactylus from Central Honshu, Japan (Amphibia, Caudata, Hynobiidae). Current Herpetology 41:82-100.
Shimada T, Matsui M & Tanaka, T. 2025. Genetic and morphological variation analyses of Dryophytes japonicus (Anura, Hylidae) with description of a new species from northeastern Japan. Zootaxa 5590: 61-84.
岡田弥一郎・角田保（1963）鈴鹿山脈の爬虫類・両生類 鈴鹿山脈自然科学調査報告書 三重県自然科学研究会
村長昭義（2002）「爬虫類」「両生類」多賀町教育委員会（編）多賀町文化財・自然史調査報告書 第6集 霊仙地域の自然 その1
甲賀市みなくち子どもの森自然館（2022）甲賀市レッドリスト2022（2025年7月閲覧）
<https://www.city.koka.lg.jp/22237.html>
東近江市（2008）永源寺町史 通史編 株式会社ぎょうせい
松井正文（2005）「爬虫類と両生類」日野町史編さん委員会（編）近江日野の歴史 第1巻 自然・古代編 Vol.1
富田靖男・清水善吉（2011）亀山町史 自然編「亀山市の爬虫類」「亀山市の両生類」（2025年7月閲覧）
<https://kameyamarekihaku.jp/sisi/index.html>
東近江市企画部政策推進課（2025）東近江市森の文化資源調査報告書1 民俗調査報告書

(1) はじめに

鳥類相を把握する調査手法は大きく分けて①定点観察と②ラインセンサスである。定点観察は特定の地点に滞在し、そこから目撃できた種および鳴声で確認できた種とその数を記録する方法である。一方、ラインセンサスは決められたコースを概ね時速 2km ほどで歩き、両側 50m の範囲内で目撃できた種または鳴いている種を特定し、地図上に記録していく方法である。

2023 年 4 月から 2025 年 4 月までに実施した調査は次のとおりである。

① 定点観察

2024 年 12 月 30 日：君ヶ畑町集落内

2025 年 4 月 20 日：木地師やまの子の家
(古民家周辺)

② ラインセンサス

2023 年 10 月 6 日：大山谷林道

2023 年 11 月 9 日：木地師やまの子の家
～蛭谷町

(2) 既存文献における鈴鹿山脈の山脈の種数、希少種

鈴鹿山脈だけを対象にした鳥類のリストはない。滋賀県自然環境保全課が「滋賀県で大切すべき野生生物－滋賀県レッドデータブック 2020 年版－」に絶滅危惧種・絶滅危機増大種・希少種として記載されている種について、分布域が「永源寺町」と「鈴鹿山脈」とされている種を取りまとめたのが表 1 である。

なお、種リストをまとめるにあたっては、2016～2018 年度に東近江市が実施した「東近江市民参加型生物多様性調査業務報告書」(びわ湖の森の生き物研究会) および私が 2002 年～2006 年に蛭谷町周辺で確認した種

リストを参考にした。

その結果、2025 年 7 月時点での鈴鹿の森における鳥類の種リストは巻末付表のとおり、38 科 95 種となる。ただし、表 1 にあるカヤクグリとゴジュウカラは少なくとも鈴鹿の森では確認していないので、種リストには加えていない。

(3) 鈴鹿山脈の鳥類相

鈴鹿山脈は東日本と西日本の動物相の境界部に位置するだけでなく、冬季には滋賀県側は日本海側気候の影響を強く受けるため、多様な気象状況を有する。さらに標高も湖東平野から鈴鹿山脈最高峰の御池岳 (1,247m) まで 1,000m 近い標高差があるだけでなく、滋賀県側は地形がきわめて複雑で、多くの谷が複雑に入り込んでおり、多様な小環境が存在している。このため、鈴鹿山脈には鳥類にとって様々なハビタットが存在し、生息する鳥類の種数が多い。

(4) 鈴鹿の森の鳥類相の特徴**(ア) 猛禽類の宝庫**

昼行性の猛禽類であるクマタカ・オオタカ・ハイタカ・ツミが周年生息し、繁殖している。かつてはイヌワシも繁殖していたことが確認されている。また夏に日本に飛来し繁殖するハチクマ・サシバも旅鳥として通過するだけでなく、サシバは山間部で連続して繁殖しており、ハチクマも最近では繁殖する個体が増加しつつある。また、主に冬鳥として北方から飛来するノスリの一部も繁殖している。さらに、夜行性の猛禽類であるオオコノハズク (留鳥)・コノハズク (夏鳥)・アオバズク (夏鳥)・フクロウ (留鳥) が生息しており、アオバズクとフクロウは繁殖が確認され

ている。このように生態系食物連鎖の上位に位置する猛禽類の多種が繁殖しているという事は、鈴鹿の森には多種多様な獲物や環境が存在することを意味している。

とくに、共に大型猛禽でありながら、ハビタットが大きく異なるイヌワシとクマタカの両種が生息できることは、きわめて希で貴重なことである。開放環境をハンティング場所とするイヌワシが生息できた理由は、御池岳や藤原岳の山頂部に存在するカルスト地形に広がる自然開放地の存在に加え、古くから人々が森林資源を多様な形で利用することによって人為的開放地が創出されてきたことに起因している。しかし、東近江市に生息していた1ペアのイヌワシは2017年末に消失してしまった。その原因は戦後の拡大造林政策によって大規模に植林された人工林が生育し、伐採されない状態が続いていることや人為的な開放地が激減したことによる。

クマタカは東南アジアの熱帯雨林に生息するクマタカ属の1種で、典型的な森林性の猛禽である。鈴鹿の森にはクマタカの繁殖ペアが連続して生息しているが、これはハンテ

ィング可能な林内空間の広い成熟した森林が多いことや獲物となる様々な中小動物が多く生息していることに起因している。

(イ) 夏緑広葉樹林で繁殖する鳥が多い

東近江市の鈴鹿の森は他の地域に比べて夏緑広葉樹林が多く、春から初夏にかけて多数の昆虫が発生するため、これを捕食して繁殖する夏鳥のクロツグミ・オオルリ・キビタキが多く飛来する。また、水辺に近い林床部で小動物を捕食する夏鳥のアカショウビンも少なからず繁殖している。さらに夏緑広葉樹林の果実を食する留鳥のイカル・アオバト・コガラも多く生息し、繁殖している。また、夜行性のトラツグミの生息数が多いことも特徴的である。トラツグミは主にミミズを捕食し、夏緑広葉樹林には腐葉土が多いことがその要因であると思われる。

また、天然のスギやモミと夏緑広葉樹が混生している針広混交林はより多様な小環境を有していることから生息する鳥類が多く、ヤマガラ・シジュウカラ・ヒガラ・エナガ・アオゲラ・キビタキ（夏鳥）が生息繁殖している。

表1. 滋賀県で大切にすべき野生生物-滋賀県レッドデータブック 2020年版-に記載されている絶滅危惧種・絶滅危機増大種・希少種

永源寺町で検索		鈴鹿山脈で検索	
絶滅危惧種	ヤマセミ	絶滅危惧種	イヌワシ
絶滅危機増大種	ハチクマ		クマタカ
	コルリ		オオコノハズク
希少種	ツミ		コノハズク
	ハイタカ	絶滅危機増大種	ヨタカ
	サシバ		コマドリ
	オオアカゲラ		コルリ
	サンショウクイ	希少種	オシドリ
	ヤブサメ		ジュウイチ
	センダイムシクイ		ツミ
	ミソサザイ		アカショウビン
	キビタキ		ヤイロチョウ
	オオルリ		メボソムシクイ
	カヤクグリ		ゴジュウカラ
	ミソサザイ		
	カワガラス		

(ウ) 溪谷で繁殖する鳥が多い

鈴鹿の森には御池川・神崎川・茶屋川だけでなく、多数の支川が複雑に入り込んでいることから、溪谷や溪流を好むミソサザイ・オオルリ（夏鳥）・カワガラス・ヤマセミ・アカショウビン（夏鳥）・キセキレイ・ヤマドリが生息している。ヤマセミは山間部の溪流で魚を捕食する大型のカワセミの仲間で、20年ほど前までは普通に見られていたが、急激に姿を消し、現在ではほとんど見られない状態になっている。

(エ) 渡り鳥の通過場所

春には南方の越冬地から北方の繁殖地に向かう多くの夏鳥が鈴鹿の森を通過する。小鳥類はその姿を見ることが難しいが、猛禽類のハチクマ・サシバ・ノスリが鈴鹿の森の上空を渡っていくのを目撃することができる。

秋には北方の繁殖地から多くの野鳥が南下してくる。マヒワ・アトリ・ツグミは群で南下してくることが多く、犬上川の南端にあたる谷の源流部から南側の東近江市に吹き抜ける風の通り道には多くの鳥が集結して通過することから、「鳥越」という地名のついた所もある。

(オ) 本州中部以北で繁殖する鳥が繁殖

鈴鹿山脈では本州中部以北の森林で繁殖する夏鳥のコルリが一部の山頂部付近で繁殖することが知られているが、東近江市でもシャクナゲやササの生育する山頂部付近でコルリの繁殖する場所がある。鈴鹿の森は東日本と西日本の動物相の境界部に位置していることから、山頂部付近では他にも中部以北で繁殖する種が繁殖している可能性もある。

(5) 鈴鹿の森の季節ごとの代表的な鳥類

(ア) 夏鳥

オオルリ・キビタキ・サンコウチョウ・クログミ・サンショウクイ・アカショウビン・

ツバメ・イワツバメ・サシバ・ハチクマ・アオバズク・ヨタカ

(イ) 冬鳥

アトリ・マヒワ・ジョウビタキ・ルリビタキ・ツグミ・シロハラ

(ウ) 旅鳥

コマドリ・メボソムシクイ・エゾビタキ・アマツバメ・ハリオアマツバメ

(エ) 留鳥

ヤマガラ・シジュウカラ・ヒガラ・コガラ・エナガ・メジロ・アオゲラ・オオアカゲラ・コゲラ・キセキレイ・ミソサザイ・カワガラス・ヤマドリ

(6) 鈴鹿の森の鳥類相の変化

鳥類相は植生の変化による生息環境の変化により、大きく変化する。1980年代の拡大造林政策が鈴鹿山脈でも広域に進められていた時には、伐採地を好むイヌワシ、ヨタカが安定して生息していたが、植林されたスギが大きく生育する一方、伐採がほとんど行われなくなったことから、うっぺいした森林環境が広がり、イヌワシは2017年に東近江市から姿を消し、ヨタカも激減した。

また、シカの急増による下層植生の激減により、ウグイス、コルリなどの灌木を好む鳥も減少した。

さらに原因は不明であるが、御池川、神崎川などの河川ではヤマセミが激減し、現在ではほぼ絶滅状態にある。

(ア) 絶滅または激減した種

イヌワシ・コノハズク・ヨタカ・ヤマセミ

(イ) 増加した種

キビタキ・アカショウビン・ミサゴ

(ウ) 侵入してきた外来種

ガビチョウ・ソウシチョウ

(7) 参考文献

「滋賀県で大切すべき野生生物-滋賀県レッドデータ

ブック 2020 年版-」(2021 年 滋賀県自然環境保全課)
「東近江市民参加型生物多様性調査業務報告書 2016
年度, 2017 年度, 2028 年度」(びわ湖の森の生き物研究
会)

(1) はじめに

東近江市の鈴鹿の森は鈴鹿山脈の中央に位置し、紀伊山地と本州山岳地帯を結ぶ野生動物の回廊として重要な位置にある。しかし、野生動物の生息地としての鈴鹿山地の環境は、近年、急激な個体数の増加及び分布域の拡大をみせるニホンジカ（滋賀県・三重県教育委員会 2024）の採食圧による植生への影響（藤木ほか 2014）と気候変動に伴う豪雨災害による影響を強く受けていると考えられる。特に消失著しい草本や低木に依存的な種に対してその影響は大きいと考えられる。

鈴鹿の森の自然環境及びそこに生息する様々な動物群について調査を進め、現状を記録することは、今後の展望を考えていく上で非常に重要である。そこで、①文献調査と、②自動撮影カメラによる哺乳類相の調査、③現地調査の結果を中心に情報を整理し、報告する。

(2) 調査手法

(ア) 文献調査

既存文献調査として、東近江市の特に旧永源寺町に関する哺乳類について記録されている文献を収集し、情報を整理した。なお、旧永源寺町には平野部も存在しており、森林地帯ではない部分も含まれていることに留意する必要がある。

(イ) 自動撮影カメラによる調査

東近江市が事業として実施した以下の2事業について、概要を述べる。

① 哺乳類相解析調査業務（森博調査）

令和5年度及び令和6年度に、(仮称) 東近江市森の文化博物館基本計画における「哺乳類相解析調査業務（以下、森博調査）」とし

て、鈴鹿の森内に5台の自動撮影カメラを設置し、哺乳類の出現状況を調査した。カメラ名を森博1～5と名付け、設置地点ごとに撮影状況を整理した。

② 東近江市生物多様性の保全を重視した森づくりプロジェクトにかかるモデル林の森林生態系モニタリング調査業務（モデル林調査）

令和3年度から令和5年度の期間に、「東近江市生物多様性の保全を重視した森づくりプロジェクトにかかるモデル林の森林生態系モニタリング調査業務（以下、モデル林調査）」として、鈴鹿の森内にある当事業の主伐地や間伐モデル林内に6台の自動撮影カメラを設置し、哺乳類の出現状況を調査した。カメラ名をk1～6と名付け、設置地点ごとに撮影状況を整理した。

(ウ) 現地調査

2024年10月14日に哺乳類相解析調査業務の自動撮影カメラ設置地点を巡回し、対象地域の植生環境の概要把握を行った。哺乳類の痕跡を確認した際には、痕跡の種類及び位置を記録した。植生については、現地で確認した種類に加え、環境省植生図を参考とした。

(3) 文献調査における哺乳類相

文献調査の結果を表1に示す。文献調査では、ノネコとノイヌを含めると7目16科25種の生息情報があった。小型哺乳類については、捕獲を中心とした調査が必要であることから、過去の生息情報は限定的であり、カワネズミやスミスネズミ、ヤマネの生息情報は見当たらなかった。しかし、かつての当地の自然環境を思えば、これら3種が生息していた（もしくは生息している）可能性がある。

表1. 確認された哺乳類一覧 (○は確認された種を表す。番号の詳細は下の注記参照)

番号	目名	科名	種名	学名	文献調査								自動撮影カメラによる調査		現地調査			
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		11		
1	モグラ目 (食虫目)	トガリ ネズミ科	ジネズミ	<i>Crocidura dsinezumi</i>														
2		モグラ科	ヒミズ	<i>Urotrichus talpoides</i>														
3			コウベモグラ	<i>Mogera wogura</i>														
4	コウモリ目 (翼手目)	キクガシラ コウモリ科	コキクガシラ コウモリ	<i>Rhinolophus cornutus</i>														
5			キクガシラ コウモリ	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>														
6	サル目 (霊長目)	オナガザル 科	ニホンザル	<i>Macaca fuscata</i>		○	○	○					○		○			
7	ウサギ目	ウサギ科	ノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>											○	○		
8	ネズミ目 (齧歯目)	リス科	ニホンリス	<i>Sciurus lis</i>											○	○	○	
9			ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i>					○		○							○
10		ネズミ科	アカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>													○	
11			ヒメネズミ	<i>Apodemus argenteus</i>													○	
12			カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i>													○	
			ネズミ科	<i>Muridae sp.</i>													○	○
13		ネコ目 (食肉目)	クマ科	ツキノワグマ	<i>Ursus thibetanus</i>													○
14	アライグマ 科		アライグマ	<i>Procyon lotor</i>													○	
15	イヌ科		タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	○	○	○	○								○	○	
16			キツネ	<i>Vulpes vulpes</i>	○			○	○							○	○	
17			ノイヌ	<i>Canis familiaris</i>													○	
18	イタチ科		テン	<i>Martes melampus</i>					○							○	○	
19			シベリアイタチ	<i>Mustela sibirica</i>													○	
20			ニホンイタチ	<i>Mustela itatsi</i>													○	
			イタチ属の一種	<i>Mustela sp.</i>														○
21			アナグマ	<i>Meles anakuma</i>													○	○
22	ジャコウネ コ科		ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>					○	○	○					○	○	
23	ネコ科	ノネコ	<i>Felis catus</i>													○		
24	ウシ目 (偶蹄目)	イノシシ科	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>												○	○	
25		シカ科	ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>												○	○	
26		ウシ科	カモシカ	<i>Capricornis crispus</i>												○	○	
	7 目	16 科	26 種		2	3	4	5	1	1	23	2	13	13	3			

*目録は河川水辺の国勢調査 2024 年度版生物目録に準じた。

- 1: 旧永源寺町内ロードキル情報 (令和2年度)
- 2: 旧永源寺町内ロードキル情報 (令和3年度)
- 3: 旧永源寺町内ロードキル情報 (令和4年度)
- 4: 旧永源寺町内ロードキル情報 (令和5年度)
- 5: 滋賀県の社寺林におけるムササビの分布. 千々岩哲 (2008) リスとムササビ 21. 2-11
- 6: 社寺建造物を指標とした滋賀県内のアライグマ分布状況. 千々岩哲・川道美枝子 (2013) 滋賀自然環境研究会誌 11. 25-38
- 7: 永源寺町史 通史編 さまざまな生物相_p77-100_H18_永源寺町史編さん委員会
- 8: 第6回鈴鹿山脈カモシカ保護地域特別調査報告書. 2023. 滋賀県・三重県教育委員会
- 9: 東近江市生物多様性の保全を重視した森づくりプロジェクトにかかるモデル林の森林生態系モニタリング調査業務報告書 (令和3年度、令和4年度、令和5年度). 東近江市環境部森と水政策課事業
- 10: 哺乳類相調査業務報告書 (令和5年度、令和6年度). 東近江市企画部森の文化推進課事業
- 11: 2024年10月14日における現地踏査により痕跡を確認した種

記録された文献数では、ニホンザルとタヌキが最多の5文献、ニホンザル、キツネの2種が4文献、ハクビシンが3文献であった。モグラ目やネズミ目の小型哺乳類は、1文献であり、確認情報が乏しい状況にあった。また、ツキノワグマとアライグマも1文献であり、これらの生息情報も限られた。

カモシカについては、三重県側での鈴鹿山脈カモシカ保護地域における長期モニタリングにより、近年、生息密度が著しく低下し、生息が危ぶまれていると言われている(橋本・森 2018)。カモシカの減少理由としては、採食物が重複するニホンジカが急増したことにより植生が衰退し、縄張り性の本種を追いやっていると推測される。

ツキノワグマについては、鈴鹿山脈での繁殖に関する情報得られていないことから、環境省は個体群の生息域には位置づけていない。

鈴鹿の森の哺乳類の生息種はいずれも環境省レッドリストに該当しなかったが、ツキノワグマは種の保存法によって国際取引上の保護対象に、カモシカは文化財保護法によって特別天然記念物に指定される。

滋賀県レッドリストには、ジネズミ、キクガシラコウモリ、ニホンザル、ムササビ、カヤネズミ、ツキノワグマ、カモシカの7種が該当した。うち絶滅危惧種はキクガシラコウモリとカモシカであった。森林性だけでなく、ジネズミやカヤネズミのような里地、草地に依存的な種も含まれた。なお、侵略的外来種と考えられるアライグマ、ハクビシン、ノイヌ、ノネコが確認されており、その影響が懸念されるが、詳しい生息状況は分かっていない。

(4) 自動撮影カメラにおける哺乳類相

(ア) 種ごとのカメラ撮影枚数

自動撮影カメラの種ごとの撮影数を表2

に示す。

撮影数が最も多かったのはニホンジカで、総撮影数は704記録と突出していた。次に、ニホンザルの394記録とタヌキの360記録が多く、テン、キツネ、アナグマと続いた。これらの種はいずれも身近な生き物として知られる代表種と言える。

ニホンジカの撮影記録が多かったのは、その生息数が多いことが大きな要因と考えられる。タヌキやキツネについては、自動撮影カメラの設置地点が主要な移動ルートと重なっていたことが考えられる。ニホンザルについては、群れで行動していることから、自動撮影カメラの設置地点を群れが通過することで記録数が伸びたものと考えられる。

(イ) 各環境における哺乳類相

自動撮影カメラで撮影された結果(表2)から、設置地点の環境ごとに哺乳類相を考察する。

① 河川沿いの夏緑広葉樹林

森博1の環境は河川沿いの夏緑広葉樹林で、フサザクラ、イタヤカエデ、シラキなどから構成される夏緑広葉樹林で、ツクバネウツギなどの低木類が急傾斜地に散在していた。草本類と低木類は非常に限られ、岩や礫が露出している状況にあった。

自動撮影カメラでの哺乳類の合計撮影数、種数は共に少なく、特に他の地点で多いニホンジカやニホンザルについても撮影数が少ない結果となった。撮影期間が短いことから今回の結果のみではっきりとしたことは言えないため、今後も継続的なモニタリングが必要であると言える。

② 集落周辺の針葉樹林(人工林)

森博2の環境は集落周辺のスギ壮齡林で、神社の社叢林しゃそうりんにあたる。信仰との関係やニホンジカの不嗜好性植物(橋本・藤木 2014)のためか、林内はユズリハが優占し、その他の植物は乏しい状況にあった。

表2. 自動撮影カメラにより確認された哺乳類の地点ごとの撮影数

種名	合計撮影数	森博調査期間：2023年10月8日～ 2025年3月30日（539日）					モデル林調査期間：2021年12月19日～ 2023年12月2日（713日）					
		森博1	森博2	森博3	森博4	森博5	k 1	k 2	k 3	k 4	k 5	k 6
		河川 沿い 広葉林	集落 周辺 針葉林	広葉樹 と 針葉樹 の境界	広葉樹 と 針葉樹 の境界	谷地形 広葉樹	間伐林 針葉樹	間伐林 針葉樹	間伐林 針葉樹	沢沿い 針葉樹	単木 保護 主伐地	シカ 柵内 主伐地
ニホンザル	394	7	86	48	68	33	48	24	22	31	17	10
ノウサギ	43			4	10	28			1			
ニホンリス	8			1	1	3		1	2			
アカネズミ	75						9	50	16			
ネズミ科	48	25		1	1		3	14	4			
タヌキ	360	62	138	29	74	34	12	7	1	3		
キツネ	85		27	7	36	13		1				1
テン	89	6	6	12	28	9	3	11	10	2	1	1
イタチ属	1					1						
ニホンアナグマ	86	26	18	7	11	9	5		4	6		
ハクビシン	65	17	11	2	5	1	9	7	7	5	1	
イノシシ	21			17	2						2	
ニホンジカ	704	35	117	67	127	69	116	22	13	84	54	
カモシカ	22	2			2	13	1	4				
合計種数	14	8	7	11	12	11	9	10	10	6	5	3
合計撮影数	2,001	180	403	195	365	213	206	141	80	131	75	12

※モデル林調査の自動撮影カメラは、時期により積雪のため撮影不可となった日あり

表3. モデル林調査と森博調査で記録された哺乳類の繁殖情報

種名	構成	調査年度												
		2021	2022	2023					2024					
		モデル林	モデル林	モデル林	森博1	森博2	森博3	森博4	森博5	森博1	森博2	森博3	森博4	森博5
ニホンザル	親子	1	5	1			2			2		11	6	10
	群れ										14			
	亜成獣									6	3			
	幼獣										2	1		2
アナグマ	親子											2		
イノシシ	親子					6								
ニホンジカ	親子										4		4	
	幼獣										52			
カモシカ	親子													2

※イノシシは幼獣最大4頭

自動撮影カメラで撮影された種数は7種と少なかったものの、ニホンジカ、タヌキ、ニホンザルの撮影数が多かった。特にタヌキは他の撮影地点と比べても非常に多い結果となった。

③ 山地の夏緑広葉樹林

森博3～5はいずれも針葉樹林が隣接部にある夏緑広葉樹林であり、クリ、コナラ、カナクギノキ、ホオノキ、ヤマナラシ、ウラジロノキ、ミズナラ、ハウチワカエデ、シロモジなどが見られた。

自動撮影カメラで撮影された哺乳類の種数は11～12種と最多となった。山地の広葉樹林は多様な哺乳類相が利用している場であると考えられる。

しかしながら実生や稚樹は乏しく、下層植生はニホンジカの不嗜好性植物であるアセビやイワヒメワラビ（橋本・藤木 2014）が見られた。森博3の周辺では、高さがおおよそ2m以下の植物や枝葉が消失するディアラインが形成されていた。

④ 山地の針葉樹林（人工林）

モデル林調査のk1～4は間伐施業が実施されたスギ林であり、撮影枚数は少ないものの種数は多い地点で10種となった。針葉樹林であっても、餌となる植生があれば餌場や移動経路として利用しているものと考えられる。

スギ林内の下層植生は乏しく、ニホンジカの不嗜好性植物であるマツカゼソウ（橋本・藤木 2014）が多く見られた。

⑤ 山地の主伐地

モデル林調査のk5、k6は主伐地であり、k5はスパイラルグリーンによる単木保護、k6はシカ防除柵によって苗木の獣害を防いでいる。どちらも哺乳類の撮影数や種数が少ない結果となったが、今回整理した調査より後に撮影された2024年以降の結果では、ノウサギも多く撮影されている。主伐再造林

により下層植生が増え、ニホンジカやノウサギによる植生利用が見られた。

(5) 現地調査における哺乳類相

(ア) 各環境における哺乳類相

① 集落周辺の針葉樹林（人工林）

森博2の環境を踏査した結果、ムササビが使用していると思われる樹洞や、ムササビまたはモモンガによるヒノキ種子（球果）の食痕が多く確認された。また、設置地点以外の社叢林でもムササビが使用していると推察される樹洞が確認された。

② 旧集落跡地

森博調査のカメラ設置地点以外の現地調査として、茨川町の集落跡にも足を運んだ。集落跡にはオニグルミが複数生育しており、落下したオニグルミ種子の多くにニホンリスの食痕が確認された。

(イ) 全地点で共通する特徴

① ニホンジカによる下層植生の衰退

全地点の現地調査により共通して見られることは、ニホンジカなどによる採食圧により、低木類、草本類の衰退、消失である。下層植生の衰退に伴う種子や昆虫類の減少（食物資源の変化）が懸念されるとともに、植生衰退による昆虫相の変化がげっ歯類やコウモリ類などの小型哺乳類に及ぼす影響も憂慮される。また、それらを捕食する中型哺乳類、猛禽類の生息にも影響が及ぶ可能性もある。

② タヌキの溜め糞が尾根に少ない

タヌキは移動しやすい主尾根（主稜線）を移動経路とすることが多く、特に鞍部では、溜め糞が確認されることが多い。しかし、今回の現地踏査では、主尾根を含めてタヌキの溜め糞が確認されなかった。主尾根は起伏が少ないことから、ニホンジカが好んで利用する環境でもあり、ディアラインが形成され、落葉の堆積も乏しかったことから、タヌキの

採食物となる果実や昆虫類、土壌動物などの減少や変化が本種の環境利用に少なからず影響している可能性がある。

(6) 自動撮影カメラで確認された哺乳類の繁殖情報

モデル林調査、森博調査における写真記録から、繁殖情報（幼獣の記録）を整理した。全体を通じた要点として以下のことが挙げられる。

- ・ 2つの調査により対象地域において、母子が確認されたのはニホンザル、アナグマ、イノシシ、ニホンジカ、カモシカの合計5種であり、当該地での繁殖が確認された。
- ・ 2023年度の繁殖情報は2種であったが、2024年度は5種であった。
- ・ 繁殖が確認されたのは森博3（山地の広葉樹林）の3種が最大で、他のカメラは1、2種の確認であった。

(7) 哺乳類の撮影数の月変化

森博調査により記録された自動撮影カメラの撮影数の月変化を図1に示す。特に撮影数が多かったニホンザル、タヌキ、アナグマ、ニホンジカについて傾向を整理した。要点として以下のことが挙げられる。

- ・ ニホンザルの撮影数は6月～10月に多く、初夏から秋にかけて自動撮影カメラ設置エリアの利用頻度が高まる傾向がうかがえる。
- ・ タヌキは、各月の撮影数から年間を通じた利用があった。2024年8月～11月には撮影数が多くなり、幼獣の成長と分散が関係していると考えられる。
- ・ アナグマについては、2024年4月～8月の間で比較的撮影数が多くなった。親子の撮影もあったことから、自動撮影カメラ設置地点に比較的近い場所に巣穴があり、撮影数が伸びた可能性がある。
- ・ ニホンジカの撮影数は年間を通して多い傾向にある。猟期にあたる2023年11月～

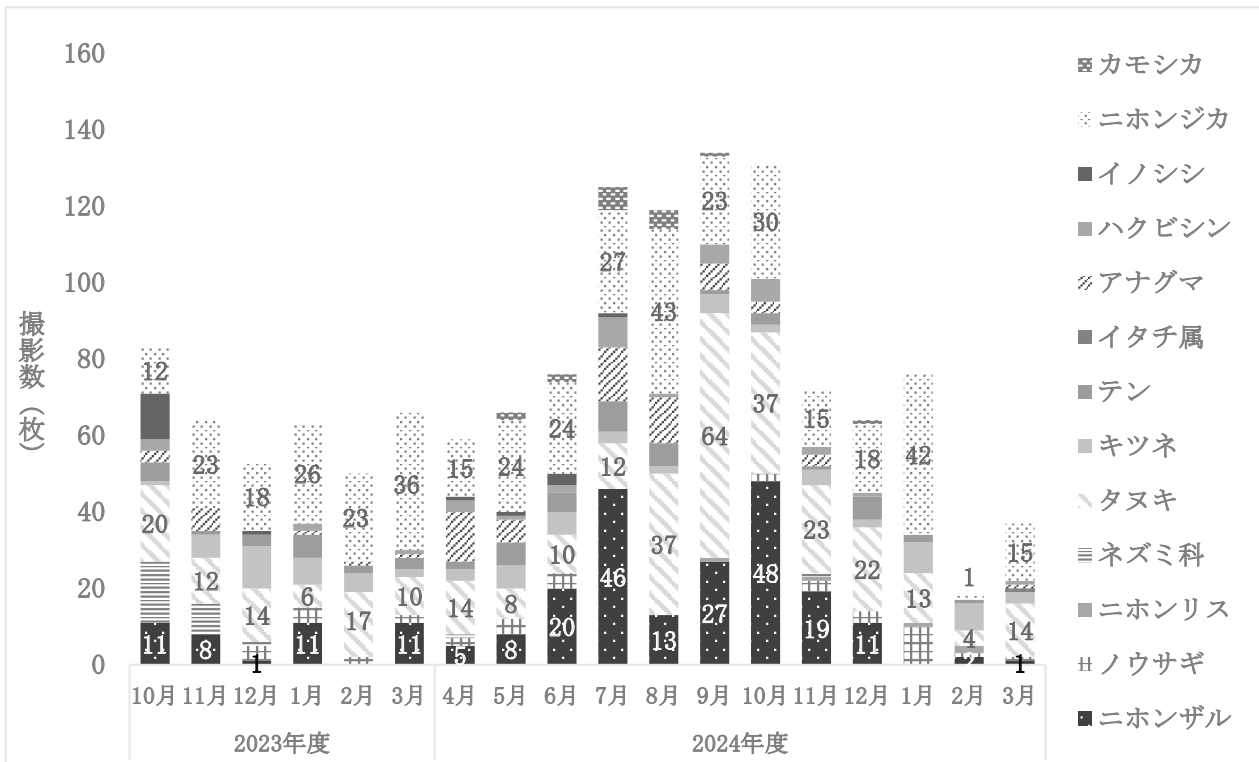


図1. 各月における各種の撮影数の月変化
※ニホンジカ、タヌキ、ニホンザルに限り撮影数を記した。

翌年3月には安定した撮影数にあるが、1年後の2024年11月～翌年3月には、1月を除き大きく減少した。

(8) 哺乳類相から見た鈴鹿の森の特徴

(ア) 夏緑広葉樹林が多い

鈴鹿の森のエリアで確認されている哺乳類の多くは森林性である。鈴鹿山脈上部の冷涼な気候、急峻な地形、まとまりのある夏緑広葉樹林などがカモシカなどの冷温帯林に生息する哺乳類の生息を可能にしていると考えられる。また、クリ、ブナ、ミズナラなどで構成される森林は、菌根菌との共生から生物多様性や生産性、炭素固定機能などが高いと考えられる。

夏緑広葉樹林には、特に果実や種子が多く生産され、それらを好んで採食するアカネズミ、ヒメネズミなどのネズミ類が数多く生息していると考えられる。このほかにも水辺を好むニホンイタチや、樹上性で果実食の強いニホンザルやテン、夜間を中心に異なるニッチで暮らすコウモリ類やムササビなど、生活様式が異なる様々な種が確認されており、鈴鹿の森の哺乳類相の多様性を示している。

(イ) 多様な地質が存在

多様な哺乳類の生息を可能としている理由のひとつに地質が挙げられる。石灰岩質では、樹木の生育が悪く稜線上に草地が広がるだけでなく、洞穴が散在し、洞穴性コウモリ類に生息の場を提供している。花崗岩質は風化が早く、粘土質の土壌、貧栄養の湿地植生など独特の環境を生み出す。例えば、湿地や草地は、ネズミ類やノウサギに生息地を提供し、その捕食者となる鳥獣もまた、その恩恵を受ける。このように多様な地質は様々な草花、昆虫類の生息を可能にし、捕食者である哺乳類の多様性を高めている可能性がある。

(ウ) 下層植生の衰退による環境変化

対象地域の森林植生は、ニホンジカによる採食圧により下層植生が大きく減少または消失し、落葉の採食もあって土壌A層(堆積有機物層の直下にある腐植に富む暗色の層位)が薄くなり、降雨による表土流出や斜面崩壊なども起きている。また、下層植生の消失だけでなく溪流、河川への砂礫の流入量が増えたことで魚類や水生昆虫などが暮らす巨石や玉石などによる複雑な河川形状も減少し、水辺植生も衰退している。採食物となる様々な植物、昆虫類、魚類などが生育・生息場所を失うことで、捕食者である哺乳類、特に小型のネズミ類やコウモリ類の生息に大きな影響を及ぼしている可能性がある。

(9) 今後の調査計画

自動撮影カメラによるモニタリングの他に、現時点で生息情報が得られていない哺乳類を主たる対象として調査を実施する必要があると言える。そこで令和7年度からは、樹洞を利用する哺乳類に注目した巣箱設置型の調査を実施している。対象とするのは、ムササビ、モモンガ、ヤマネ、ヒメネズミである。モモンガとヤマネは、高い位置にある巣箱ほど選好性が高く、ヒメネズミはその傾向がないことが示されている(鈴木ほか2008、小林2014)。ムササビは、スギ人工林で営巣する傾向があり(Suzuki 2023)、モモンガとヤマネは天然林とスギ-ヒノキ人工林が混在する環境を好む(鈴木ら2008、小林2014)。

調査対象として考えている4種の生息は、樹上を生活の場としており、森林生態系の多様性、複雑性を示すものと考えられる。ムササビやモモンガは、集落の社寺林にも生息、営巣することから、4種の確認を目的とした巣箱調査は、集落との暮らしとも結びつくまさに森の文化としての指標種になりえると言える。既にモモンガやムササビの痕跡や目視が確認されている箇所もあり、今後も継続

して調査を実施予定である。

(10) 参考文献

- 滋賀県，三重県教育委員会（2024）「鈴鹿山地カモシカ保護地域第6回特別調査報告書：令和4・5（2022・2023）年度」，p1-93
- 藤木大介，酒田真澄美，芝原淳，境米造，井上巖夫（2014）「関西4府県を対象としたニホンジカの影響による落葉広葉樹林の衰退状況の推定」，日緑工誌，39（3），p374-380
- 橋本佳延，藤木大介（2014）「日本におけるニホンジカの採食植物・不嗜好性植物リスト」，人と自然25:133-160.
- 橋本幸彦，森豊（2018）「鈴鹿山地カモシカ保護地域におけるニホンカモシカの分布の変遷」，野生生物と社会，5（2），p1-8
- 鈴木圭・小川博・天野卓・安藤元一（2008）丹沢山地の巣箱利用からみたニホンモモンガの環境嗜好．東京農大農学集報53：13-18
- 小林朋道（2014）巣箱利用から見た鳥取県芦津溪谷におけるニホンモモンガ，ヤマネ，ヒメネズミの生息場所選択性．鳥取県立博物館研究報告51：1-6
- Suzuki,K（2023）Ecology and conservation of the Japanese flying squirrel *Pteromys momonga*. *Journal of Vertebrate Biology* 72. 15pp.

10 鈴鹿の森における森林と人との関わり

深町加津枝、水田有夏志

(1) はじめに

鈴鹿山脈の滋賀県側には愛知川とその上流域を構成する御池川、茶屋川、神崎川、などの河川に沿って古くから住みついた人々が山、谷、巨岩、動植物などに関わり、また様々な地域と交流しながら、独自の歴史、暮らし、文化を育んできた。

鈴鹿における「森林と人との関わり」に関する調査については、まず全体を見通して、地域におけるワークショップ、地域住民への聞き取り調査および関係する文献資料などから情報収集を行い、これらの情報を「暮らし」、「信仰」、「生業」、「交流」、「伝説」、「土地利用」に分類し、それぞれについて鈴鹿の森の特徴をまとめた((2)(ア)～(カ))。

また、地域に着目し、東近江市茨川町に関する聞き取り調査や文献調査、現地調査を行い、その特徴をまとめた。聞き取り調査では、元住民7名を対象に、廃村までの昭和中期頃(1945～1965年)の茨川町での暮らしや生業および森林資源利用の特徴などを把握した((3)(ア)、(イ))。

(2) 全体を見通した特徴(水田)

(ア) 暮らし

① 山村に根づいた多様な食文化

鈴鹿の森の山村地域の食文化に注目すると、「ハレ」の日の信仰や祭における食として、「黄和田のちん」や岳(だけ)詣りの山の神の神事における夜食などが見られた。また、「ケ」としての日常的な食では、クサギの葉、カヤの実など山村ならではの食文化が見られた。田畑が少ない山村地域では、山の資源をあく抜きなどの技術を駆使して食べ続けてきた姿が伺われた。

② 独自に発達した水文化

鈴鹿の森には御池川、茶屋川、神崎川という大きな川が流れており、これらは集落や田畑より低い位置にあるため、人々は生活用水や田用水の確保に苦心した。このため、谷水を引いて利用するために独自の「水文化」を発展させた。政所町や君ヶ畑町では谷水を水槽に貯め(図1)、杠葉尾町では水路網を発達させ、また黄和田町では愛知川から隧道と水路で水を引くなど、集落ごとに独自性のある導水方法を生み出している。



図1. 水利用施設(政所町)

(イ) 信仰

① 鈴鹿の森の自然(山・巨木・滝・池・鉾山)が生み出した多彩な信仰

鈴鹿の森には多数の滝があり、萱尾瀧は愛知川流域の雨乞信仰のメッカとも言われた。また、永源寺本山と深いつながりのあった識蘆(しきろ)の滝、比叡山の回峰修験僧が訪れた風越谷の不動の滝は仏教とのつながりがあった。滝とともに岩は神の依り代としての磐座信仰の対象であり、池や山も雨乞信仰の対象となり、また集落ごとに山の神信仰の行事も行われ、巨木がその対象となる地域もあった。

鈴鹿の森には豊富な森林資源があり、これ

を背景にして木地師文化が発展した。蛭谷町の筒井八幡神社や君ヶ畑町の大皇器地祖神社は木地師と深い関わりがあり、木地師の始祖と言われる惟喬親王に対する信仰には篤いものがある。

お金明神は佐目町の村の創世神話とも言える伝説が共有文書に残されており、鉦山の神がやがて雨乞の神に変わっていった様子が伺える。村人の様々な願いや信仰を集め、盛んに参詣されていた「お金明神」という天狗にそっくりな奇岩が今も神崎川の上流に残されており（図2）、鈴鹿の森の多彩な信仰を象徴するものと言える。



図2. お金明神

(ウ) 生業

① 豊富な森林資源を背景として発達した炭焼と林業

森林資源が豊富な奥永源寺地域では、これらを利用した生業が盛んで、豊富な広葉樹を活用した薪炭林生産は、昭和30年代の燃料革命までの間、この地域の主産業であり、今も山の至る所に炭窯跡が残されている（図3）。

スギ、ヒノキを中心とする林業も盛んで、特に君ヶ畑町のスギは色つやも良く、三重方面にも出荷されていた。林業生産が盛んな時期の伐採、搬出、製材などに関する技術や情報が今も地域住民の記憶の中にあり、鈴鹿の森の山中には300年生の立派なスギ林や索道など林業の遺物も残されている。



図3. 炭窯跡（紅葉尾町）

② 鉦山と人々の暮らし、信仰

鈴鹿山脈はかつて鉦業が盛んで、鈴鹿の森の山奥には坑口、住居跡、学校跡、神社跡、水力発電跡など当時の操業の様子や鉦山に携わった人々の暮らしの痕跡が今も残されている（図4）。

千草街道の桜地蔵は、鉦山の隆盛によって「あかがね地蔵」に変わり、やがて鉦山の衰退とともに元の桜地蔵に戻ったという。こうした鉦山と暮らしや信仰とのかかわりを示す情報が数多く見られるのも鈴鹿の森の特徴である。



図4. 御池鉦山跡

(エ) 交流

① 街道と峠を通じて、盛んに行われた交易

鈴鹿の森には治田峠、石樽峠、八風峠、根の平峠など数多くの峠があり（図5）、また八風街道、千草街道がその峠を越えて伊勢方面や東国とつながっていた。また、筒井峠、

宮坂峠は奥永源寺と彦根方面をつなぐ道の途上にある重要な拠点であった。これらの峠や街道を利用して、山越商人が交易を行い、物資や文化の交流を行ってきた。街道沿いには旅人の目印であった巨木並木が見られ、往時の面影を今にとどめている。



図5. 八風峠

の購入などで三重県側（いなべ市北勢町新町及び阿下喜）と深い交流があったことが明らかになった。

生業としての炭焼では、茨川町などに三重県側から相当な数の人が入っており、相互に深い交流があった。



図7. 茨川町の廃村

② 木地師を統括する氏子駈・氏子狩による全国ネットワーク

蛭谷町、君ヶ畑町は全国の木地師を統括して氏子駈・氏子狩を行い、金銭を徴収する一方で免許状や鑑札などを発行してきたが、こうした行為を通じて全国各地と交流を続けてきた。蛭谷町の路傍に残された供養塔は、現在の長浜市余呉町尾羽梨の木地師が建立したもので、木地師による地域間交流の痕跡として貴重である（図6）。



図6. 蛭谷町の木地師供養塔

（オ）伝説

① 山村住民と自然との関係を表す伝説

鈴鹿の森の伝説には狼、大蛇、竜など動物に関するものが数多く見られる。また、鈴鹿の森には天狗堂（図8）、天狗の滝、天狗岩など天狗の名のついた地名があるが、天狗はイヌワシ（狗鷲）を象徴するものと言われる。これらは、かつての山村住民と生きものとの関係や、人々が生きものをどのように捉えていたかを表している。



図8 天狗堂

③ 廃村となった茨川町と伊勢側との交流

茨川町は昭和40年に最後の住民が移転して廃村となったが（図7）、かつての住民への聞き取り調査により炭の販売、村の必需品

伝説には山や谷の名前の由来や、それがどのような場所であったのかを説明するものが見られた。また、暮らしや生業に関する伝承も多く、危険な場所での伐採を戒める言い

伝えは、今後の森林施業や土地利用に教訓を与えるものとして貴重である。

(カ) 土地利用

① 山村の土地利用の変遷とその痕跡

鈴鹿の森の土地利用上の最も大きな変化は、戦後の燃料革命と拡大造林政策による天然林の人工林化であった。時代の変化とともに人々の意識や価値観が変化し、生業や暮らしを大きく変え、土地利用にも影響を及ぼしたと言える。

茅葺屋根などに利用する茅を採取する茅場がかつては集落周辺や尾根部に見られたが(図9)、植生遷移や植林によって消滅したところも多い。しかし、地域住民への聞き取りや現地の痕跡などから、その場所の特定が可能である。また、人工林化が進んだ現在でも、尾根部にモミ、アカマツ、アカガシの大木が残され、森林の境界やかつての土地利用の様子を垣間見ることができる。

地域住民への聞き取りや地券取調総絵図などの資料により、かつての土地利用や昔の暮らし、生業、人々の想いを明らかにするとともに、それらを今後の取組に生かすことが重要である。



図9 茅場跡といわれる盤石の丘

(3) 昭和中期頃の茨川町(深町)

(ア) 暮らし

① 対象地の概要

東近江市茨川町は鈴鹿山脈中央部、愛知川

上流、三重県との県境に位置する。1877年の戸数(人口)は14戸(58人)、1956年は8戸(38人)であったが、1965年に廃村となった。集落中心部(標高560m)は茶屋川が流れる谷沿いにあった(図10)。

森林はミズナラ・シデ林など落葉広葉樹林が大きな面積を占め、スギなどの人工林もあった。農地は畑となり、林業、養蚕、茶葉生産が主な生業であった。



図10 昭和前期の茨川町(筒井正氏提供)

集落中心部から東へ1.5km行くと治田峠があり、治田峠から東へ6km下ると三重県いなべ市北勢町新町にたどり着いた。木炭の販売、郵便物の受取や日常の買い物は主に三重県側で行っていた。

② 暮らし

茨川町では、春は山菜採り、夏は茶葉生産、秋は茅刈り、冬に狩猟と草鞋作り、雪融けから根雪になるまで炭焼きという季節に応じた暮らしがあった。5~10月にはスギを中心とする人工林の手入れや伐採などを行った。各世帯が茅刈場を持っており、共有地となる茅刈場が1か所あった。茅は炭俵編みや家屋の屋根、炭焼き小屋の屋根に使った。

③ 食文化

集落内や集落周辺には自給用の農作物を育てた畑があった(図11)。畑ではダイコン、

ニンジン、ハクサイ、ホウレンソウ、シソ、ジャガイモ、トマト、キュウリ、小豆などを栽培した。また、集落付近の森林内でシイタケを栽培した。

山菜としては、イタドリ、ゼンマイ、ワラビ、フキ、ウド、クサギ、タラノキ、サンショウ、ヨモギなどが採集された。おやつとしてアケビ、クマイチゴ、グミ、クリなどを食べた。



図 11 昭和前期の茨川町の民家と畑
(筒井正氏提供)

狩猟の対象は、ニホンジカ、イノシシなどであり、食料や毛皮として利用した。付近の川からは、イワナ、ドジョウ、ウナギなどの川魚をとって食べた。

(イ) 主な生業

① 炭焼き

主な生業は炭焼きであり、販売、物々交換、自給用に利用した。対象樹種はコナラ、ミズナラ、イヌシデなどの落葉広葉樹であった。樹齢が 12～13 年で直径 12～13cm の樹木を材として利用した。木炭は三重県の新町（現在のいなべ市北勢町新町）の炭問屋に運んで販売した。標高差は最大 600m 程度あり、徒歩で行きは 3 時間ほど、帰りに 4～5 時間を要した。

炭焼きは、茨川町在住者だけでなく、他村から単身で茨川町に来て立木や山の権利を購入して行方人もいた。炭焼き窯は水場の近くに多く、簡素な作りの炭焼き小屋を作って

食事や休憩の場として利用した。付近に小さな畑もつくり青菜などを育て、味噌汁の具などとして食べた。また、小屋のある谷筋で釣ったイワナを石で焼いて食べた。

茨川町では、炭焼きをする住民だけでなく、炭問屋のある三重県側の農家も運び手として雇用され木炭を運んだ。特に、初冬と初春に多数の運び手が雇用され多くの木炭が出荷された。

(4) 参考文献

- 平成 26 年度大学地域連携課題解決支援事業成果報告
(東近江市・滋賀県立大学)
近江の飯・餅・団子(滋賀の食事文化研究会編、淡海文庫 18、サンライズ出版)
近江植物風土記(滋賀植物同好会編、別冊淡海文庫 19、サンライズ出版)
滋賀県伝統食文化調査資料編(滋賀県教育委員会)
第 1 回森おこしワークショップ in 箕川「昔の森について語ろう」(2019. 2. 21)
「今の森について語ろう」(2019. 2. 21)
「100 年の森について語ろう」(2019. 3. 11)(東近江市 100 年の森づくり地域ワークショップ資料)
郷土歴史大事典 滋賀県の地名(平凡社)
近江の滝(水田有夏志、別冊淡海文庫 18、サンライズ出版)
鈴鹿の山と谷 2～4(西尾寿一、ナカニシヤ出版)
近江鈴鹿の鉱山の歴史(中島伸男、サンライズ出版)
近江の峠道(木村至宏、淡海文庫 39、サンライズ出版)
図説・近江の街道(発行 榊郷土出版社)
ふるさと近江伝承文化叢書 小椋の山里 永源寺町
(永源寺町教育委員会編)
近江の名木・並木道(滋賀植物同好会編、別冊淡海文庫 12、サンライズ出版)

付表 1. 鈴鹿の森で見られる植物（学名や分類は 2024 年河川水辺の国勢調査生物リストに準拠した。）

番号	種名	学名	属名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	別名
1	ヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium clavatum var. nipponicum</i>	ヒカゲノカズラ属	ヒカゲノカズラ科	ヒカゲノカズラ目			
2	クラマゴケ	<i>Selaginella remotifolia</i>	イワヒバ属	イワヒバ科	イワヒバ目			
3	スギナ	<i>Equisetum arvense</i>	トクサ属	トクサ科	トクサ目			
4	フユノハナワラビ	<i>Botrychium ternatum var. ternatum</i>	ハナワラビ属	ハナヤスリ科	ハナヤスリ目			
5	ゼンマイ	<i>Osmunda japonica</i>	ゼンマイ属	ゼンマイ科	ゼンマイ目			
6	ヤシヤゼンマイ	<i>Osmunda lancea</i>	ゼンマイ属	ゼンマイ科	ゼンマイ目			
7	コバノイシカグマ	<i>Dennstaedtia scabra</i>	コバノイシカグマ属	コバノイシカグマ科	ウラボシ目			
8	イワヒメワラビ	<i>Hypolepis punctata</i>	イワヒメワラビ属	コバノイシカグマ科	ウラボシ目			
9	ワラビ	<i>Pteridium aquilinum ssp. japonicum</i>	ワラビ属	コバノイシカグマ科	ウラボシ目			
10	クジャクシダ	<i>Adiantum pedatum</i>	ホウライシダ属	イノモトソウ科	ウラボシ目			
11	イワガネゼンマイ	<i>Coniogramme intermedia</i>	イワガネゼンマイ属	イノモトソウ科	ウラボシ目			
12	イワガネソウ	<i>Coniogramme japonica</i>	イワガネゼンマイ属	イノモトソウ科	ウラボシ目			
13	オオバノイノモトソウ	<i>Pteris cretica</i>	イノモトソウ属	イノモトソウ科	ウラボシ目			
14	オオバノハチジョウシダ	<i>Pteris terminalis var. terminalis</i>	イノモトソウ属	イノモトソウ科	ウラボシ目			
15	トラノオシダ	<i>Asplenium incisum</i>	チャセシダ属	チャセシダ科	ウラボシ目			
16	コタニワタリ	<i>Asplenium scolopendrium</i>	チャセシダ属	チャセシダ科	ウラボシ目			
17	ゲジゲジシダ	<i>Phegopteris decursivelpinnata</i>	ミヤマワラビ属	ヒメシダ科	ウラボシ目			
18	ハリガネワラビ	<i>Thelypteris japonica</i>	ヒメシダ属	ヒメシダ科	ウラボシ目			
19	シシガシラ	<i>Blechnum niponicum</i>	シシガシラ属	シシガシラ科	ウラボシ目			
20	イヌワシラ	<i>Anisocampium niponicum</i>	ウラボシノユギリシダ属	メシダ科	ウラボシ目			
21	リョウメンシダ	<i>Arachniodes standishii</i>	カワラビ属	オシダ科	ウラボシ目			
22	ヤブソテツ	<i>Cyrtomium fortunei var. fortunei</i>	ヤブソテツ属	オシダ科	ウラボシ目			
23	オシダ	<i>Dryopteris crassirhizoma</i>	オシダ属	オシダ科	ウラボシ目			
24	オオクジャクシダ	<i>Dryopteris dickinsii</i>	オシダ属	オシダ科	ウラボシ目			
25	クマワラビ	<i>Dryopteris lacera</i>	オシダ属	オシダ科	ウラボシ目			
26	オクマワラビ	<i>Dryopteris unifurmis</i>	オシダ属	オシダ科	ウラボシ目			
27	イノデ	<i>Polystichum polyblepharon</i>	イノデ属	オシダ科	ウラボシ目			
28	ジュウモンジシダ	<i>Polystichum tripterum</i>	イノデ属	オシダ科	ウラボシ目			
29	ノキシノブ	<i>Lepisorus thunbergianus</i>	ノキシノブ属	ウラボシ科	ウラボシ目			
30	モミ	<i>Abies firma</i>	モミ属	マツ科	マツ目			
31	アカマツ	<i>Pinus densiflora</i>	マツ属	マツ科	マツ目			
32	ヒノキ	<i>Chamaecyparis obtusa</i>	ヒノキ属	ヒノキ科	ヒノキ目			
33	スギ	<i>Cryptomeria japonica var. japonica</i>	スギ属	ヒノキ科	ヒノキ目			
34	アスナロ	<i>Thujaopsis dolabrata var. dolabrata</i>	アスナロ属	ヒノキ科	ヒノキ目			
35	イヌガヤ	<i>Cephalotaxus harringtonia</i>	イヌガヤ属	イチイ科	ヒノキ目			
36	ハイスガヤ	<i>Cephalotaxus harringtonia var. nana</i>	イヌガヤ属	イチイ科	ヒノキ目			
37	カヤ	<i>Torreya nucifera var. nucifera</i>	カヤ属	イチイ科	ヒノキ目			
38	チャボガヤ	<i>Torreya nucifera var. radicans</i>	カヤ属	イチイ科	ヒノキ目			
39	シキミ	<i>Illicium anisatum</i>	シキミ属	マツブサ科	シキミ目			
40	マツブサ	<i>Schisandra repanda</i>	マツブサ属	マツブサ科	シキミ目			

番号	種名	学名	属名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	別名
41	フタリシズカ	<i>Chloranthus serratus</i>	チャラン属	セリョウ科	セリョウ目			
42	トクダミ	<i>Houttuynia cordata</i>	トクダミ属	トクダミ科	コシヨウ目			
43	ミヤコアオイ	<i>Asarum asperum var. asperum</i>	カンアオイ属	ウマノスズクサ科	コシヨウ目			
44	ハリエンジュ	<i>Robinia pseudoacacia</i>	ハリエンジュ属	マメ科	マメ目			
45	スズカカンアオイ	<i>Asarum rigescens var. brachypodium</i>	カンアオイ属	ウマノスズクサ科	コシヨウ目			
46	ホオノキ	<i>Magnolia obovata</i>	モクレン属	モクレン科	モクレン目			
47	タムシバ	<i>Magnolia salicifolia</i>	モクレン属	モクレン科	モクレン目			
48	カナクギノキ	<i>Lindera erythrocarpa</i>	クロモジ属	クスノキ科	クスノキ目			
49	ヤマコウバシ	<i>Lindera glauca</i>	クロモジ属	クスノキ科	クスノキ目			
50	ダンコウバイ	<i>Lindera obtusiloba</i>	クロモジ属	クスノキ科	クスノキ目			
51	アブラヤシ	<i>Lindera praecox var. praecox</i>	クロモジ属	クスノキ科	クスノキ目			
52	シロモジ	<i>Lindera triloba</i>	クロモジ属	クスノキ科	クスノキ目			
53	クロモジ	<i>Lindera umbellata var. umbellata</i>	クロモジ属	クスノキ科	クスノキ目			
54	シロダモ	<i>Neolitsea sericea var. sericea</i>	シロダモ属	クスノキ科	クスノキ目			
55	キシダマシグサ	<i>Arisaema kishidae</i>	アナンショウ属	サトイモ科	オモダカ目			
56	スズカマムシグサ	<i>Arisaema pseudoangustatum var. suzukaense</i>	アナンショウ属	サトイモ科	オモダカ目			
57	オオマムシグサ	<i>Arisaema takedae</i>	アナンショウ属	サトイモ科	オモダカ目			
58	オオハンダ	<i>Pinellia tripartita</i>	ハンダ属	サトイモ科	オモダカ目			
59	ノギリ	<i>Metanarthechium luteoviride</i>	ノギリ属	キンウカ科	ヤマノイモ目			
60	ヤマノイモ	<i>Dioscorea japonica</i>	ヤマノイモ属	ヤマノイモ科	ヤマノイモ目			
61	ヒメドコロ	<i>Dioscorea tenuipes</i>	ヤマノイモ属	ヤマノイモ科	ヤマノイモ目			
62	オニドコロ	<i>Dioscorea tokoro</i>	ヤマノイモ属	ヤマノイモ科	ヤマノイモ目			
63	シロウジョウバカマ	<i>Heloniopsis orientalis var. orientalis</i>	シロウジョウバカマ属	シロソウ科	ユリ目			
64	ツクバネソウ	<i>Paris tetraphylla</i>	ツクバネソウ属	シユロソウ科	ユリ目			
65	ホウチャクソウ	<i>Disporum sessile</i>	チゴユリ属	イヌサフラン科	ユリ目			
66	チゴユリ	<i>Disporum smilacinum</i>	チゴユリ属	イヌサフラン科	ユリ目			
67	サルトリイバラ	<i>Smilax china var. china</i>	サルトリイバラ属	サルトリイバラ科	ユリ目			
68	ウバユリ	<i>Cardiocrinum cordatum var. cordatum</i>	ウバユリ属	ユリ科	ユリ目			
69	ササユリ	<i>Lilium japonicum</i>	ユリ属	ユリ科	ユリ目			
70	オニユリ	<i>Lilium lancifolium</i>	ユリ属	ユリ科	ユリ目			
71	ヤマヅノホトトギス	<i>Tricyrtis affinis</i>	ホトトギス属	ユリ科	ユリ目			
72	ケヤキ	<i>Zelkova serrata</i>	ケヤキ属	ニレ科	バラ目			
73	ムクノキ	<i>Aphananthe aspera</i>	ムクノキ属	アサ科	バラ目			
74	エゾエノキ	<i>Celtis jessoensis</i>	エノキ属	アサ科	バラ目			
75	エビネ	<i>Calanthe discolor</i>	エビネ属	ラン科	キジカクシ目	NT	その他重要種	
76	ナツエビネ	<i>Calanthe puberula</i>	エビネ属	ラン科	キジカクシ目	VU	その他重要種	
77	クマガイソウ	<i>Cypripedium japonicum</i>	アツモリソウ属	ラン科	キジカクシ目	VU	絶滅危惧種	
78	クロヤツシロラン	<i>Gastrodia pubilabiata</i>	オニノヤガラ属	ラン科	キジカクシ目		その他重要種	
79	クモキリソウ	<i>Liparis kumokiri</i>	クモキリソウ属	ラン科	キジカクシ目		その他重要種	

番号	種名	学名	属名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	別名
80	オオバノトンボソウ	<i>Platanthera minor</i>	ツレサギソウ属	ラン科	キジカクシ目			
81	カヤラン	<i>Thrixspermum japonicum</i>	カヤラン属	ラン科	キジカクシ目		希少種	
52	ヒメヒオウギズイセン	<i>Crocasmia x crocosmiiflora</i>	ヒオウギズイセン属	アヤメ科	キジカクシ目			
53	シヤガ	<i>Iris japonica</i>	アヤメ属	アヤメ科	キジカクシ目			
84	アヤメ	<i>Iris sanguinea</i>	アヤメ属	アヤメ科	キジカクシ目		その他重要種	
85	ニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium rosulatum</i>	ニワゼキショウ属	アヤメ科	キジカクシ目			
86	ヤブカンゾウ	<i>Hemerocallis fulva var. kwanso</i>	ワスレグサ属	ワスレグサ科	キジカクシ目			
87	ジャノヒゲ	<i>Ophiopogon japonicus</i>	ジャノヒゲ属	キジカクシ科	キジカクシ目			
88	オオナルコユリ	<i>Polygonatum macranthum</i>	アマドコロ属	キジカクシ科	キジカクシ目			
89	オモト	<i>Rohdea japonica</i>	オモト属	キジカクシ科	キジカクシ目			
90	ツユクサ	<i>Comelina communis var. communis</i>	ツユクサ属	キジカクシ科	キジカクシ目			
91	ミヨウガ	<i>Zingiber mioga</i>	シヨウガ属	シヨウガ科	シヨウガ目			
92	イグサ	<i>Juncus decipiens</i>	イグサ属	イグサ科	イネ目			イ
93	クサイ	<i>Juncus tenuis</i>	イグサ属	イグサ科	イネ目			
94	スズメノヤリ	<i>Luzula capitata</i>	スズメノヤリ属	イグサ科	イネ目			
95	オオバヤシャブシ	<i>Alnus sieboldiana</i>	ハンノキ属	カバノキ科	ブナ目			
96	スカボシソウ	<i>Luzula plumosa</i>	スズメノヤリ属	イグサ科	イネ目			
97	ミヤマシラスゲ	<i>Carex confertiflora</i>	スゲ属	カヤツリグサ科	イネ目			
98	ナルコスゲ	<i>Carex curvicolis</i>	スゲ属	カヤツリグサ科	イネ目			
99	アゼナルコ	<i>Carex dimorpholepis</i>	スゲ属	カヤツリグサ科	イネ目			
100	オクノカンスゲ	<i>Carex foliosissima</i>	スゲ属	カヤツリグサ科	イネ目			
101	ハバビロスゲ	<i>Carex foliosissima var. latissima</i>	スゲ属	カヤツリグサ科	イネ目			
102	カワラスゲ	<i>Carex incisa</i>	スゲ属	カヤツリグサ科	イネ目			
103	ジュズスゲ	<i>Carex ischnostachya</i>	スゲ属	カヤツリグサ科	イネ目			
104	ヒゴクサ	<i>Carex japonica</i>	スゲ属	カヤツリグサ科	イネ目			
105	アオスゲ	<i>Carex leucochlora</i>	スゲ属	カヤツリグサ科	イネ目			
106	アズマナルコ	<i>Carex shimidzensis</i>	スゲ属	カヤツリグサ科	イネ目			
107	タガネソウ	<i>Carex siderosticta</i>	スゲ属	カヤツリグサ科	イネ目			
108	ニシノホンモンジスゲ	<i>Carex stenostachys</i>	スゲ属	カヤツリグサ科	イネ目			
109	アブラガヤ	<i>Scirpus wichurae</i>	アブラガヤ属	カヤツリグサ科	イネ目			
110	ツルマサキ	<i>Euonymus fortunei var. fortunei</i>	ニシキギ属	ニシキギ科	ニシキギ目			
111	ツルウメモドキ	<i>Celastrus orbiculatus var. orbiculatus</i>	ツルウメモドキ属	ニシキギ科	ニシキギ目			
112	オニツルウメモドキ	<i>Celastrus orbiculatus var. strigillosus</i>	ツルウメモドキ属	ニシキギ科	ニシキギ目			
113	シラキ	<i>Neoshirakia japonica</i>	シラキ属	トウダイグサ科	キントラノオ目			
114	アカメガシロ	<i>Mallotus japonicus</i>	アカメガシロ属	トウダイグサ科	キントラノオ目			
115	オスカタグサ	<i>Agrostis gigantea</i>	スカボ属	イネ科	イネ目			
116	コブナグサ	<i>Arthraxon hispidus</i>	コブナグサ属	イネ科	イネ目			
117	ヒメコバンソウ	<i>Briza minor</i>	コバンソウ属	イネ科	イネ目			
118	ノガリヤス	<i>Calamagrostis brachytricha var. brachytricha</i>	ノガリヤス属	イネ科	イネ目			
119	カモガヤ	<i>Dactylis glomerata</i>	カモガヤ属	イネ科	イネ目			

番号	種名	学名	属名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	別名
120	アオカモジグサ	<i>Elymus racemifer</i>	エゾムギ属	イネ科	イネ目			
121	カゼクサ	<i>Eragrostis ferruginea</i>	スズメガヤ属	イネ科	イネ目			
122	トシシガラ	<i>Festuca parvigluma</i>	ウシノケグサ属	イネ科	イネ目			
123	チガヤ	<i>Imperata cylindrica var. koenigii</i>	チガヤ属	イネ科	イネ目			
124	ハイチゴザサ	<i>Isachne nipponensis</i>	チゴザサ属	イネ科	イネ目			
125	ササガヤ	<i>Leptatherum japonicum</i>	アシボソ属	イネ科	イネ目			
126	コメガヤ	<i>Melica nutans</i>	シメバヤ属	イネ科	イネ目			
127	アシボソ	<i>Microstegium vimineum</i>	アシボソ属	イネ科	イネ目			
128	ススキ	<i>Miscanthus sinensis</i>	ススキ属	イネ科	イネ目			
129	ケチヂミザサ	<i>Oplismenus undulatifolius var. undulatifolius</i>	チヂミザサ属	イネ科	イネ目			チヂミザサ
130	オオクサキバ	<i>Panicum dichotomiflorum</i>	キバ属	イネ科	イネ目			
131	チカラシバ	<i>Pennisetum alopecuroides</i>	チカラシバ属	イネ科	イネ目			
132	スズメノカタビラ	<i>Poa annua</i>	イチゴツナギ属	イネ科	イネ目			
133	オオスズメノカタビラ	<i>Poa trivialis</i>	イチゴツナギ属	イネ科	イネ目			
134	オニウシノケグサ	<i>Schedonorus phoenix</i>	ウシノケグサ属	イネ科	イネ目			
135	コミネカエデ	<i>Acer micranthum</i>	カエデ属	ムクロジ科	ムクロジ目			
136	アキノエノコログサ	<i>Setaria faberi</i>	エノコログサ属	イネ科	イネ目			ムラサキエノコログサ
137	ムラサキエノコロ	<i>Setaria viridis var. minor f. misera</i>	エノコログサ属	イネ科	イネ目			
138	カニツリグサ	<i>Trisetum bifidum</i>	カニツリグサ属	イネ科	イネ目			
139	シバ	<i>Zoysia japonica</i>	シバ属	イネ科	イネ目			
140	フサヅクラ	<i>Euptelea polyandra</i>	フサヅクラ属	フサヅクラ科	キンボウガ目			
141	クサノオウ	<i>Chelidonium majus ssp. asiaticum</i>	クサノオウ属	ケシ科	キンボウガ目			
142	ムラサキケマン	<i>Corydalis incisa</i>	キケマン属	ケシ科	キンボウガ目			
143	ヤマエンゴサク	<i>Corydalis lineariloba</i>	キケマン属	ケシ科	キンボウガ目			
144	ヒメエンゴサク	<i>Corydalis lineariloba var. capillaris</i>	キケマン属	ケシ科	キンボウガ目			
145	ミヤマキケマン	<i>Corydalis pallida var. tenuis</i>	キケマン属	ケシ科	キンボウガ目			
146	タケニグサ	<i>Macleaya cordata</i>	タケニグサ属	ケシ科	キンボウガ目			
147	アケビ	<i>Akebia quinata</i>	アケビ属	アケビ科	キンボウガ目			
148	ミツバアケビ	<i>Akebia trifoliata ssp. trifoliata</i>	アケビ属	アケビ科	キンボウガ目			
149	アオツツラフジ	<i>Cocculus trilobus</i>	アオツツラフジ属	ツツラフジ科	キンボウガ目			
150	ルイヨウボタン	<i>Caulophyllum robustum</i>	ルイヨウボタン属	メギ科	キンボウガ目			
151	ナンテン	<i>Nandina domestica</i>	ナンテン属	メギ科	キンボウガ目			
152	イチリンソウ	<i>Anemone nikoensis</i>	イチリンソウ属	キンボウガ目	キンボウガ目			
153	キクザキイチゲ	<i>Anemone pseudoaltaica var. pseudoaltaica</i>	イチリンソウ属	キンボウガ目	キンボウガ目			
154	ボタンヅル	<i>Clematis apiifolia var. apiifolia</i>	センニンソウ属	キンボウガ目	キンボウガ目			
155	ハンシヨウヅル	<i>Clematis japonica</i>	センニンソウ属	キンボウガ目	キンボウガ目			
156	センニンソウ	<i>Clematis terniflora</i>	センニンソウ属	キンボウガ目	キンボウガ目			
157	ケツネノボタン	<i>Ranunculus cantoniensis</i>	キンボウガ目	キンボウガ目	キンボウガ目			
158	カワチブシ	<i>Aconitum grossedentatum</i>	トリカブト属	キンボウガ目	キンボウガ目			
159	ウマノアシガタ	<i>Ranunculus japonicus</i>	キンボウガ目	キンボウガ目	キンボウガ目			

番号	種名	学名	属名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	別名
160	アブブキ	<i>Meliosma myriantha</i>	アブブキ属	アブブキ科	ヤマモガシ目			
161	ミヤマハハソ	<i>Meliosma tenuis</i>	アブブキ属	アブブキ科	ヤマモガシ目			
162	ヤマグルマ	<i>Trochodendron aralioides</i>	ヤマグルマ属	ヤマグルマ科	ヤマグルマ目			
163	ヤマシヤクヤク	<i>Paeonia japonica</i>	ポタン属	ポタン科	ユキノシタ目	NT	希少種	
164	ヤブコウジ	<i>Ardisia japonica var. japonica</i>	ヤブコウジ属	サクランウ科	ツツジ目			
165	マンサク	<i>Hamamelis japonica var. japonica</i>	マンサク属	マンサク科	ユキノシタ目			
166	カツラ	<i>Cercidiphyllum japonicum</i>	カツラ属	カツラ科	ユキノシタ目			
167	ユズリハ	<i>Daphniphyllum macropodum var. macropodum</i>	ユズリハ属	ユズリハ科	ユキノシタ目			
168	トリアシシヨウマ	<i>Astilbe thunbergii var. congesta</i>	チダケサシ属	ユキノシタ科	ユキノシタ目			
169	アサシヨウマ	<i>Astilbe thunbergii var. thunbergii</i>	チダケサシ属	ユキノシタ科	ユキノシタ目			
170	シロバナネコノメソウ	<i>Chrysosplenium album var. album</i>	ネコノメソウ属	ユキノシタ科	ユキノシタ目			
171	ネコノメソウ	<i>Chrysosplenium grayanum</i>	ネコノメソウ属	ユキノシタ科	ユキノシタ目			
172	ヤマネコノメソウ	<i>Chrysosplenium japonicum</i>	ネコノメソウ属	ユキノシタ科	ユキノシタ目			
173	ツツシベヤマネコノメソウ	<i>Chrysosplenium japonicum var. tetrandrum</i>	ネコノメソウ属	ユキノシタ科	ユキノシタ目			ヨツシベヤマネコノメ
174	アカヒダポタン	<i>Chrysosplenium nagaiei var. porphyranthes</i>	ネコノメソウ属	ユキノシタ科	ユキノシタ目			
175	ニッコウネコノメ	<i>Chrysosplenium macrostemon var. shibarense</i>	ネコノメソウ属	ユキノシタ科	ユキノシタ目			
176	チャルメルソウ	<i>Mitella furusei var. subramosa</i>	チャルメルソウ属	ユキノシタ科	ユキノシタ目			
177	コチャルメルソウ	<i>Mitella pauciflora</i>	チャルメルソウ属	ユキノシタ科	ユキノシタ目			
178	タキミチャルメルソウ	<i>Mitella stylosa var. stylosa</i>	チャルメルソウ属	ユキノシタ科	ユキノシタ目	NT	その他重要種	
179	ダイモンジソウ	<i>Saxifraga fortunei var. alpina</i>	ユキノシタ属	ユキノシタ科	ユキノシタ目			
180	ユキノシタ	<i>Saxifraga stolonifera</i>	ユキノシタ属	ユキノシタ科	ユキノシタ目			
181	ツツバペンケイソウ	<i>Hyletephium verticillatum var. verticillatum</i>	ムラサキペンケイソウ属	ペンケイソウ科	ユキノシタ目			その他重要種
182	コモチマンネングサ	<i>Sedum bulbiferum</i>	マンネングサ属	ペンケイソウ科	ユキノシタ目			
183	ヒメレンゲ	<i>Sedum subtile</i>	マンネングサ属	ペンケイソウ科	ユキノシタ目			
184	ノブドウ	<i>Ampelopsis glandulosa var. heterophylla f. citrullodes</i>	ノブドウ属	ブドウ科	ブドウ目			
185	クレハノブドウ	<i>Ampelopsis glandulosa var. heterophylla f. citrullodes</i>	ノブドウ属	ブドウ科	ブドウ目			
186	ヤブカラシ	<i>Cayratia japonica</i>	ヤブカラシ属	ブドウ科	ブドウ目			
187	ツタ	<i>Parthenocissus tricuspidata</i>	ツタ属	ブドウ科	ブドウ目			
188	サンカクヅル	<i>Vitis flexuosa</i>	ブドウ属	ブドウ科	ブドウ目			
189	アマツル	<i>Vitis saccharifera var. saccharifera</i>	ブドウ属	ブドウ科	ブドウ目			
190	ネムノキ	<i>Albizia julibrissin var. julibrissin</i>	ネムノキ属	マメ科	マメ目			
191	イタチハギ	<i>Amorpha fruticosa</i>	イタチハギ属	マメ科	マメ目			
192	ヤブマメ	<i>Amphicarpaea edgeworthii</i>	ヤブマメ属	マメ科	マメ目			
193	ユクノキ	<i>Cladrastis shikokiana</i>	フジキ属	マメ科	マメ目			
194	ノササゲ	<i>Dumasia truncata</i>	ノササゲ属	マメ科	マメ目			
195	ヌスビトハギ	<i>Hyloesum podocarpum ssp. oxyphyllum var. japonicum</i>	ヌスビトハギ属	マメ科	マメ目			
196	トウコマツナギ	<i>Indigofera bungeana var. bungeana</i>	コマツナギ属	マメ科	マメ目			
197	ヤマハギ	<i>Lespedeza bicolor var. bicolor</i>	ハギ属	マメ科	マメ目			

番号	種名	学名	属名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	別名
198	メドハギ	<i>Lespedeza cuneata</i> var. <i>cuneata</i>	ハギ属	マメ科	マメ目			
199	ネコハギ	<i>Lespedeza pilosa</i> var. <i>pilosa</i>	ハギ属	マメ科	マメ目			
200	クズ	<i>Pueraria lobata</i> ssp. <i>lobata</i>	クズ属	マメ科	マメ目			
201	コメツブツメクサ	<i>Trifolium dubium</i>	シヤジクソウ属	マメ科	マメ目			
202	ムラサキツメクサ	<i>Trifolium pratense</i>	シヤジクソウ属	マメ科	マメ目			アカツメクサ
203	シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i>	シヤジクソウ属	マメ科	マメ目			
204	ピロコエヒラフジ	<i>Vicia venosa</i> ssp. <i>stolonifera</i>	シヤジクソウ属	マメ科	マメ目		希少種	
205	フジ	<i>Wisteria floribunda</i>	フジ属	マメ科	マメ目			
206	ナワシログミ	<i>Elaeagnus pungens</i>	グミ属	グミ科	バラ目			
207	ケケンボナシ	<i>Hovenia trichocarpa</i> var. <i>robusta</i>	ケンボナシ属	クロウメモドキ科	バラ目			
208	ヒメコウゾ	<i>Broussonetia monoica</i>	カゾノキ属	クロ科	バラ目			
209	クワクサ	<i>Fatoua villosa</i>	クワクサ属	クロ科	バラ目			
210	ヤブマオ	<i>Boehmeria japonica</i> var. <i>longispica</i>	カラムシ属	イラクサ科	バラ目			
211	カラムシ	<i>Boehmeria nivea</i> var. <i>concolor</i>	カラムシ属	イラクサ科	バラ目			
212	メヤブマオ	<i>Boehmeria platanifolia</i>	カラムシ属	イラクサ科	バラ目			
213	ナガバヤブマオ	<i>Boehmeria steboldiana</i>	カラムシ属	イラクサ科	バラ目			
214	アカソ	<i>Boehmeria silvestrii</i>	カラムシ属	イラクサ科	バラ目			
215	コアソ	<i>Boehmeria spicata</i>	ヤブマオ属	イラクサ科	バラ目			
216	ウロバミノソウ	<i>Elatostema involucreatum</i>	ウロバミノソウ属	イラクサ科	バラ目			
217	ヤマトキホコリ	<i>Elatostema laetevirens</i>	ウロバミノソウ属	イラクサ科	バラ目			
218	ムカゴイラクサ	<i>Laportea bulbifera</i>	ムカゴイラクサ属	イラクサ科	バラ目			
219	ミヤマイラクサ	<i>Laportea cuspidata</i>	ムカゴイラクサ属	イラクサ科	バラ目			
220	カテソウ	<i>Nanochide japonica</i>	カテソウ属	イラクサ科	バラ目			
221	ミズ	<i>Pilea hamaoi</i>	ミズ属	イラクサ科	バラ目			
222	ヤマミズ	<i>Pilea japonica</i>	ミズ属	イラクサ科	バラ目			
223	ミヤコミズ	<i>Pilea kiotensis</i>	ミズ属	イラクサ科	バラ目		希少種	
224	アオミズ	<i>Pilea pumila</i>	ミズ属	イラクサ科	バラ目			
225	イラクサ	<i>Urtica thunbergiana</i>	イラクサ属	イラクサ科	バラ目			
226	ヒメキンミズヒキ	<i>Agrimonia nipponica</i>	キンミズヒキ属	バラ科	バラ目			
227	キンミズヒキ	<i>Agrimonia pilosa</i> var. <i>japonica</i>	キンミズヒキ属	バラ科	バラ目			
228	アズキナシ	<i>Aria alnifolia</i>	アズキナシ属	バラ科	バラ目			
229	ウラジロノキ	<i>Aria japonica</i>	アズキナシ属	バラ科	バラ目			
230	ヤマブキシヨウマ	<i>Aruncus dioicus</i> var. <i>kamtschaticus</i>	ヤマブキシヨウマ属	バラ科	バラ目			
231	ヤマザクラ	<i>Cerasus jamasakura</i> var. <i>jamasakura</i>	サクラ属	バラ科	バラ目			
232	カスミザクラ	<i>Cerasus jeveilleana</i>	サクラ属	バラ科	バラ目			
233	クサボケ	<i>Chaenomeles japonica</i>	ボケ属	バラ科	バラ目			
234	シモツケソウ	<i>Filipendula multijuga</i> var. <i>multijuga</i>	シモツケソウ属	バラ科	バラ目		その他重要種	
235	ダイコンソウ	<i>Geum japonicum</i>	ダイコンソウ属	バラ科	バラ目			
236	ヤマブキ	<i>Kerria japonica</i>	ヤマブキ属	バラ科	バラ目			
237	オオウラジロノキ	<i>Malus tschonoskii</i>	リンゴ属	バラ科	バラ目			
238	イスザクラ	<i>Padus buergeriana</i>	ウミズザクラ属	バラ科	バラ目			

番号	種名	学名	属名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	別名
239	ウロミズザクラ	<i>Padus grayana</i>	ウロミズザクラ属	バラ科	バラ目			
240	ミツバツチグサ	<i>Potentilla freyniana</i>	キジムシロ属	バラ科	バラ目			
241	ヘビイチゴ	<i>Potentilla hebllichigo</i>	キジムシロ属	バラ科	バラ目			
242	ヤブヘビイチゴ	<i>Potentilla indica</i>	キジムシロ属	バラ科	バラ目			
243	カマツカ	<i>Pseudogobio esocinus</i>	カマツカ属	バラ科	バラ目			
244	ヤマナシ	<i>Pyrus pyrifolia</i>	ナシ属	バラ科	バラ目			
245	ノイロシ	<i>Rosa multiflora var. multiflora</i>	バラ属	バラ科	バラ目			
246	ミヤコイバラ	<i>Rosa paniculigera</i>	バラ属	バラ科	バラ目			
247	フユイチゴ	<i>Rubus buergeri</i>	キイチゴ属	バラ科	バラ目			
248	クマイチゴ	<i>Rubus crataegifolius</i>	キイチゴ属	バラ科	バラ目			
249	クサイチゴ	<i>Rubus hirsutus</i>	キイチゴ属	バラ科	バラ目			
250	ニガイチゴ	<i>Rubus microphyllus</i>	キイチゴ属	バラ科	バラ目			
251	ナノシロイチゴ	<i>Rubus parvifolius</i>	キイチゴ属	バラ科	バラ目			
252	コバノフユイチゴ	<i>Rubus pectinellus</i>	キイチゴ属	バラ科	バラ目			
253	ナガバモミジイチゴ	<i>Rubus palmatus var. palmatus</i>	キイチゴ属	バラ科	バラ目			
254	エビガライチゴ	<i>Rubus phoenicolasius</i>	キイチゴ属	バラ科	バラ目			
255	ナナカマド	<i>Sorbus commixta var. commixta</i>	ナナカマド属	バラ科	バラ目			
256	クリ	<i>Castanea crenata</i>	クリ属	ブナ科	ブナ目			
257	スタジイ	<i>Castanopsis sieboldii ssp. sieboldii</i>	シイ属	ブナ科	ブナ目			
258	ブナ	<i>Fagus crenata</i>	ブナ属	ブナ科	ブナ目			
259	イヌブナ	<i>Fagus japonica</i>	ブナ属	ブナ科	ブナ目			
260	アカガシ	<i>Quercus acuta</i>	コナラ属	ブナ科	ブナ目			
261	ミスナラ	<i>Quercus crispula var. crispula</i>	コナラ属	ブナ科	ブナ目			
262	アラカシ	<i>Quercus glauca</i>	コナラ属	ブナ科	ブナ目			
263	シラカシ	<i>Quercus myrsinifolia</i>	コナラ属	ブナ科	ブナ目			
264	ウラジロガシ	<i>Quercus salicina</i>	コナラ属	ブナ科	ブナ目			
265	コナラ	<i>Quercus serrata ssp. serrata var. serrata</i>	コナラ属	ブナ科	ブナ目			
266	ツクバネガシ	<i>Quercus sessilifolia</i>	コナラ属	ブナ科	ブナ目			
267	オオツクバネガシ	<i>Quercus x takaoyamensis</i>	コナラ属	ブナ科	ブナ目			
268	ヤマモモ	<i>Morella rubra</i>	ヤマモモ属	ヤマモモ科	ブナ目			
269	オニグルミ	<i>Juglans mandshurica var. sachalinensis</i>	クルミ属	クルミ科	ブナ目			
270	サワグルミ	<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ属	クルミ科	ブナ目			
271	ケヤマハンノキ	<i>Alnus hirsuta</i>	ハンノキ属	カバノキ科	ブナ目			
272	ミズメ	<i>Betula grossa</i>	カバノキ属	カバノキ科	ブナ目			
273	サロシバ	<i>Carpinus cordata var. cordata</i>	シデ属	カバノキ科	ブナ目			
274	クマシデ	<i>Carpinus japonica</i>	シデ属	カバノキ科	ブナ目			
275	アカシデ	<i>Carpinus laxiflora</i>	シデ属	カバノキ科	ブナ目			
276	イヌシデ	<i>Carpinus tschonoskii</i>	シデ属	カバノキ科	ブナ目			
277	ツノハシバミ	<i>Corylus sieboldiana var. sieboldiana</i>	ハシバミ属	カバノキ科	ブナ目			
278	アマチャヅル	<i>Gynostemma pentaphyllum var. pentaphyllum</i>	アマチャヅル属	ウリ科	ウリ目			
279	スズメウリ	<i>Zehneria japonica</i>	スズメウリ属	ウリ科	ウリ目			

番号	種名	学名	属名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	別名
280	コマユミ	<i>Euonymus alatus f. ciliatodentatus</i>	ニシキギ属	ニシキギ科	ニシキギ目			
281	コバノコマユミ	<i>Euonymus alatus f. microphyllus</i>	ニシキギ属	ニシキギ科	ニシキギ目			コバマユミ
282	マユミ	<i>Euonymus sieboldianus</i>	ニシキギ属	ニシキギ科	ニシキギ目			
283	ミヤマナルコユリ	<i>Polygonatum lasianthum</i>	アマドコロ属	キジカクシ科	キジカクシ目			
284	コマヤマカタバミ	<i>Oxalis acetosella var. acetosella</i>	カタバミ属	カタバミ科	カタバミ目			
285	カタバミ	<i>Oxalis corniculata</i>	カタバミ属	カタバミ科	カタバミ目			
286	ムラサキカタバミ	<i>Oxalis corymbosa</i>	カタバミ属	カタバミ科	カタバミ目			
287	オッタチカタバミ	<i>Oxalis dillenii</i>	カタバミ属	カタバミ科	カタバミ目			
288	ミヤマカタバミ	<i>Oxalis griffithii var. griffithii</i>	カタバミ属	カタバミ科	カタバミ目			
289	エノキグサ	<i>Acalypha australis</i>	エノキグサ属	トウダイグサ科	キントラン目			
290	ナツトウダイ	<i>Euphorbia sieboldiana</i>	トウダイグサ属	トウダイグサ科	キントラン目			
291	ナンキンハゼ	<i>Triadica sebifera</i>	ナンキンハゼ属	トウダイグサ科	キントラン目			
292	コバンノキ	<i>Phyllanthus flexuosus</i>	コミカンソウ属	コミカンソウ科	キントラン目			
293	ヤマナラシ	<i>Populus tremula var. sieboldii</i>	ヤマナラシ属	ヤナギ科	キントラン目			
294	オノエヤナギ	<i>Salix udensis</i>	ヤナギ属	ヤナギ科	キントラン目			
295	タチツボスミレ	<i>Viola grypoceras var. grypoceras</i>	スミレ属	スミレ科	キントラン目			
296	アカフタツボスミレ	<i>Viola grypoceras A. Gray f. variegata</i>	スミレ属	スミレ科	キントラン目			
297	アオイスマシレ	<i>Viola hondoensis</i>	スミレ属	スミレ科	キントラン目			
298	コスミレ	<i>Viola japonica</i>	スミレ属	スミレ科	キントラン目			
299	マルバスミレ	<i>Viola keiskei</i>	スミレ属	スミレ科	キントラン目			
300	オオタチツボスミレ	<i>Viola kusanoana</i>	スミレ属	スミレ科	キントラン目			
301	ニオイタチツボスミレ	<i>Viola obtusa</i>	スミレ属	スミレ科	キントラン目			
302	フオトスミレ	<i>Viola sieboldii ssp. sieboldii</i>	スミレ属	スミレ科	キントラン目			
303	スミレサイシン	<i>Viola vaginata</i>	スミレ属	スミレ科	キントラン目			
304	ツボスミレ	<i>Viola verecunda var. verecunda</i>	スミレ属	スミレ科	キントラン目			
305	マキノスマシレ	<i>Viola violacea var. makinoi</i>	スミレ属	スミレ科	キントラン目			
306	シハイスミレ	<i>Viola violacea var. violacea</i>	スミレ属	スミレ科	キントラン目			
307	ノジスマシレ	<i>Viola yedoensis var. yedoensis</i>	スミレ属	スミレ科	キントラン目			
308	オトギリソウ	<i>Hypericum erectum</i>	オトギリソウ属	オトギリソウ科	キントラン目			
309	サワオトギリ	<i>Hypericum pseudopetiolum</i>	オトギリソウ属	オトギリソウ科	キントラン目			
310	ゲンノショウコ	<i>Geranium thunbergii</i>	フウロソウ属	フウロソウ科	フウロソウ目			
311	ミズタマソウ	<i>Circaea mollis</i>	ミズタマソウ属	アカバナ科	フトモモ目			
312	アカバナ	<i>Epilobium pyrriholophum</i>	アカバナ属	アカバナ科	フトモモ目			
313	ミツバウツギ	<i>Staphylea bimalda</i>	ミツバウツギ属	ミツバウツギ科	ミツバウツギ目			
314	キブシ	<i>Stachyurus praecox</i>	キブシ属	キブシ科	ミツバウツギ目			
315	スルデ	<i>Rhus javanica var. chinensis</i>	スルデ属	ウルシ科	ムクロジ目			
316	ツタウルシ	<i>Toxicodendron orientale ssp. orientale</i>	ウルシ属	ウルシ科	ムクロジ目			
317	ヤマハルゼ	<i>Toxicodendron sylvestri</i>	ウルシ属	ウルシ科	ムクロジ目			
318	ヤマウルシ	<i>Toxicodendron trichocarpum</i>	ウルシ属	ウルシ科	ムクロジ目			
319	オオモミジ	<i>Acer amoenum var. amoenum</i>	カエデ属	ムクロジ科	ムクロジ目			
320	ヤマモミジ	<i>Acer amoenum var. matsumurae</i>	カエデ属	ムクロジ科	ムクロジ目			

番号	種名	学名	属名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	別名
321	チドリノキ	<i>Acer carpinifolium</i>	カエデ属	ムクロジ科	ムクロジ目			
322	ウリカエデ	<i>Acer crataegifolium</i>	カエデ属	ムクロジ科	ムクロジ目			
323	ハウチワカエデ	<i>Acer japonicum</i>	カエデ属	ムクロジ科	ムクロジ目			
324	イロハモミジ	<i>Acer palmatum</i>	カエデ属	ムクロジ科	ムクロジ目			
325	イタヤカエデ	<i>Acer pictum</i>	カエデ属	ムクロジ科	ムクロジ目			
326	ウラゲエンコウカエデ	<i>Acer pictum ssp. dissectum f. connivens</i>	カエデ属	ムクロジ科	ムクロジ目			
327	アカイタヤ	<i>Acer pictum ssp. mayrii</i>	カエデ属	ムクロジ科	ムクロジ目			
328	オニイタヤ	<i>Acer pictum ssp. pictum f. ambiguum</i>	カエデ属	ムクロジ科	ムクロジ目			
329	ウリハダカエデ	<i>Acer rufinerve</i>	カエデ属	ムクロジ科	ムクロジ目			
330	オオイトヤマイダツ	<i>Acer shirasawanum</i>	カエデ属	ムクロジ科	ムクロジ目			
331	コハウチワカエデ	<i>Acer sieboldianum</i>	カエデ属	ムクロジ科	ムクロジ目			
332	ヒナウチワカエデ	<i>Acer tenuifolium</i>	カエデ属	ムクロジ科	ムクロジ目			
333	トチノキ	<i>Aesculus turbinata</i>	トチノキ属	ムクロジ科	ムクロジ目			
334	マツカゼソウ	<i>Boeminghausenia albiflora var. japonica</i>	マツカゼソウ属	ミカン科	ムクロジ目			
335	コクサギ	<i>Orixa japonica</i>	コクサギ属	ミカン科	ムクロジ目			
336	ツルシキミ	<i>Skimmia japonica var. intermedia</i>	ミヤマシキミ属	ミカン科	ムクロジ目			
337	カラスザンショウ	<i>Zanthoxylum ailanthoides var. ailanthoides</i>	ザンショウ属	ミカン科	ムクロジ目			
338	ザンショウ	<i>Zanthoxylum piperitum</i>	ザンショウ属	ミカン科	ムクロジ目			
339	ニワウルシ	<i>Ailanthus altissima</i>	ニワウルシ属	ニガキ科	ムクロジ目			
340	ニガキ	<i>Picrasma quassoides</i>	ニガキ属	ニガキ科	ムクロジ目			
341	シナノキ	<i>Tilia japonica var. japonica</i>	シナノキ属	アオイ科	アオイ目			
342	カラスシキミ	<i>Daphne miyabeana</i>	ジンチョウウダ属	ジンチョウウダ科	アオイ目			希少種
343	ヤマハタザオ	<i>Arabis hirsuta</i>	ヤマハタザオ属	アブラナ科	アブラナ目			
344	ハルザキヤマガラシ	<i>Barbarea vulgaris</i>	ヤマガラシ属	アブラナ科	アブラナ目			
345	コンロンソウ	<i>Cardamine leucantha</i>	タネツケバナ属	アブラナ科	アブラナ目			
346	オオバタネツケバソ	<i>Cardamine scutata</i>	タネツケバナ属	アブラナ科	アブラナ目			
347	マルバコンロンソウ	<i>Cardamine tanakae</i>	タネツケバナ属	アブラナ科	アブラナ目			
348	ワサビ	<i>Eutrema japonicum</i>	ワサビ属	アブラナ科	アブラナ目			
349	ユリワサビ	<i>Eutrema tenue</i>	ワサビ属	アブラナ科	アブラナ目			
350	オランダガラシ	<i>Nasturtium officinale</i>	オランダガラシ属	アブラナ科	アブラナ目			
351	イヌガラシ	<i>Rorippa indica</i>	イヌガラシ属	アブラナ科	アブラナ目			
352	ヤドリギ	<i>Viscum album ssp. coloratum</i>	ヤドリギ属	ビャクダン科	ビャクダン目			
353	イタドリ	<i>Fallopia japonica var. japonica</i>	ソバカズラ属	タデ科	ナデシコ目			
354	ミスビキ	<i>Persicaria filiformis</i>	イヌタデ属	タデ科	ナデシコ目			
355	イヌタデ	<i>Persicaria longiseta</i>	イヌタデ属	タデ科	ナデシコ目			
356	ハナタデ	<i>Persicaria posumbu</i>	イヌタデ属	タデ科	ナデシコ目			
357	ホントクダデ	<i>Persicaria pubescens</i>	イヌタデ属	タデ科	ナデシコ目			
358	アキノウナギツカミ	<i>Persicaria sagittata var. sibirica</i>	イヌタデ属	タデ科	ナデシコ目			
359	ミノソバ	<i>Persicaria thunbergii var. thunbergii</i>	イヌタデ属	タデ科	ナデシコ目			
360	スイバ	<i>Rumex acetosa</i>	ギンギクシ属	タデ科	ナデシコ目			
361	ナガバギンギク	<i>Rumex crispus</i>	ギンギクシ属	タデ科	ナデシコ目			

番号	種名	学名	属名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	別名
362	エノキンギン	<i>Rumex obtusifolius</i>	キンギン属	タデ科	ナデシロ目			
363	ノミノツヅリ	<i>Arenaria serpyllifolia</i> var. <i>serpyllifolia</i>	ノミノツヅリ属	ナデシロ科	ナデシロ目			
364	ミミナグサ	<i>Cerastium fontanum</i> ssp. <i>vulgare</i> var. <i>angustifolium</i>	ミミナグサ属	ナデシロ科	ナデシロ目			
365	オランダミミナグサ	<i>Cerastium glomeratum</i>	ミミナグサ属	ナデシロ科	ナデシロ目			
366	ツメクサ	<i>Sagina japonica</i>	ツメクサ属	ナデシロ科	ナデシロ目			
367	ナンパンハコベ	<i>Silene baccifera</i> var. <i>japonica</i>	マンテマ属	ナデシロ科	ナデシロ目			
368	サウハコベ	<i>Stellaria diversiflora</i> var. <i>diversiflora</i>	ハコベ属	ナデシロ科	ナデシロ目			
369	コハコベ	<i>Stellaria media</i>	ハコベ属	ナデシロ科	ナデシロ目			
370	オオヤマハコベ	<i>Stellaria monosperma</i> var. <i>japonica</i>	ハコベ属	ナデシロ科	ナデシロ目			
371	ミドリハコベ	<i>Stellaria neglecta</i>	ハコベ属	ナデシロ科	ナデシロ目			
372	ミヤマハコベ	<i>Stellaria sessiliflora</i>	ハコベ属	ナデシロ科	ナデシロ目			
373	ミノフスマ	<i>Stellaria uliginosa</i> var. <i>undulata</i>	ハコベ属	ナデシロ科	ナデシロ目			
374	イノコヅチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>japonica</i>	イノコヅチ属	ヒユ科	ナデシロ目			
375	アリタソウ	<i>Dysphania ambrosioides</i>	アカザ属	ヒユ科	ナデシロ目			ケアリタソウ
376	マルミノヤマゴボウ	<i>Phytolacca japonica</i>	ヤマゴボウ属	ヤマゴボウ科	ナデシロ目			
377	ウリノキ	<i>Alangium platanifolium</i> f. <i>macrophyllum</i>	ウリノキ属	ミズキ科	ミズキ目			
378	ミズキ	<i>Cornus controversa</i> var. <i>controversa</i>	ミズキ属	ミズキ科	ミズキ目			
379	ヤマボウシ	<i>Cornus kousa</i> ssp. <i>kousa</i>	ミズキ属	ミズキ科	ミズキ目			
380	クマノミズキ	<i>Cornus macrophylla</i>	ミズキ属	ミズキ科	ミズキ目			
381	ツルアジサイ	<i>Calyptranthe petiolaris</i>	ツルアジサイ属	アジサイ科	ミズキ目			
382	クサアジサイ	<i>Cardiandra alternifolia</i> var. <i>alternifolia</i>	クサアジサイ属	アジサイ科	ミズキ目			
383	ウツギ	<i>Deutzia crenata</i> var. <i>crenata</i>	ウツギ属	アジサイ科	ミズキ目			
384	ウラジロウツギ	<i>Deutzia maximowicziana</i>	ウツギ属	アジサイ科	ミズキ目			
385	ノリウツギ	<i>Heteromalla paniculata</i>	ノリウツギ属	アジサイ科	ミズキ目			
386	コアジサイ	<i>Hortensia hirta</i>	アジサイ属	アジサイ科	ミズキ目			
387	ヤマアジサイ	<i>Hortensia serrata</i> var. <i>serrata</i>	アジサイ属	アジサイ科	ミズキ目			
388	イワガラミ	<i>Schizophragma hydrangeoides</i>	イワガラミ属	アジサイ科	ミズキ目			
389	ツリフネソウ	<i>Impatiens textorii</i>	ツリフネソウ属	ツリフネソウ科	ツツジ目			
390	サカキ	<i>Cleyera japonica</i>	サカキ属	サカキ科	ツツジ目			
391	ヒサカキ	<i>Eurya japonica</i>	ヒサカキ属	サカキ科	ツツジ目			
392	ギンレイカ	<i>Lysimachia acroadenia</i>	オカトラノオ属	サクラソウ科	ツツジ目			
393	コナスビ	<i>Lysimachia japonica</i>	オカトラノオ属	サクラソウ科	ツツジ目			
394	クリンソウ	<i>Primula japonica</i>	サクラソウ属	サクラソウ科	ツツジ目		絶滅危機 増大種	
395	ヤブツバキ	<i>Camellia japonica</i>	ツバキ属	ツバキ科	ツツジ目			
396	チヤノキ	<i>Camellia sinensis</i> var. <i>sinensis</i>	ツバキ属	ツバキ科	ツツジ目			
397	ナツツバキ	<i>Stewartia pseudocamellia</i>	ナツツバキ属	ツバキ科	ツツジ目			
398	タンナサワフタギ	<i>Symplocos coreana</i>	ハイノキ属	ハイノキ科	ツツジ目			
399	サワフタギ	<i>Symplocos sawafutagi</i>	ハイノキ属	ハイノキ科	ツツジ目			
400	オオイワカガミ	<i>Schizocodon soldanelloides</i> var. <i>magnus</i>	イワカガミ属	イワカガミ科	ツツジ目			
401	イワウチワ	<i>Shortia uniflora</i>	イワウチワ属	イワウチワ科	ツツジ目			

番号	種名	学名	属名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	別名
402	オオバサガラ	<i>Pterosyrax hispidus</i>	アサガラ属	エゴノキ科	ツツジ目			
403	エゴノキ	<i>Styrax japonicus</i>	エゴノキ属	エゴノキ科	ツツジ目			
404	サルナシ	<i>Actinidia arguta var. arguta</i>	マタタビ属	マタタビ科	ツツジ目			
405	ウラジロマタタビ	<i>Actinidia arguta var. hypoleuca</i>	マタタビ属	マタタビ科	ツツジ目			
406	マタタビ	<i>Actinidia polygama</i>	マタタビ属	マタタビ科	ツツジ目			
407	リョウブ	<i>Clethra barbinervis</i>	リョウブ属	リョウブ科	ツツジ目			
408	ホツツジ	<i>Elliotia paniculata</i>	ホツツジ属	ツツジ科	ツツジ目			
409	イワナシ	<i>Epigaea asiatica</i>	イワナシ属	ツツジ科	ツツジ目			
410	ハナヒリノキ	<i>Leucothoe grayana var. grayana</i>	イワナシ属	ツツジ科	ツツジ目			
411	ネジキ	<i>Lyonia ovalifolia var. elliptica</i>	ネジキ属	ツツジ科	ツツジ目			
412	アセビ	<i>Pieris japonica ssp. japonica var. japonica</i>	アセビ属	ツツジ科	ツツジ目			
413	イチヤクソウ	<i>Pyrola japonica var. japonica</i>	イチヤクソウ属	ツツジ科	ツツジ目			
414	ツリガネツツジ	<i>Rhododendron benhallii</i>	ツツジ属	ツツジ科	ツツジ目			
415	トサノミツバツツジ	<i>Rhododendron dilatatum var. decandrum</i>	ツツジ属	ツツジ科	ツツジ目			
416	ホンシヤクナガ	<i>Rhododendron japonheptamerum var. hondoense</i>	ツツジ属	ツツジ科	ツツジ目			
417	ヤマツツジ	<i>Rhododendron kaempferi var. kaempferi</i>	ツツジ属	ツツジ科	ツツジ目			
418	ユキガニミツバツツジ	<i>Rhododendron lagopus var. niphophilum</i>	ツツジ属	ツツジ科	ツツジ目			
419	モチツツジ	<i>Rhododendron macrosepalum</i>	ツツジ属	ツツジ科	ツツジ目			
420	コバノミツバツツジ	<i>Rhododendron reticulatum</i>	ツツジ属	ツツジ科	ツツジ目			
421	アクシバ	<i>Vaccinium japonicum var. japonicum</i>	スノキ属	ツツジ科	ツツジ目			
422	ナツハゼ	<i>Vaccinium oldhamii</i>	スノキ属	ツツジ科	ツツジ目			
423	スノキ	<i>Vaccinium smallii var. glabrum</i>	スノキ属	ツツジ科	ツツジ目			
424	アオキ	<i>Aucuba japonica var. japonica</i>	アオキ属	アオキ科	アオキ目			
425	ヒメヨツバムグラ	<i>Galium gracilens</i>	ヤエムグラ属	アカネ科	リンドウ目			
426	クルマムグラ	<i>Galium japonicum</i>	ヤエムグラ属	アカネ科	リンドウ目			
427	ヨツバムグラ	<i>Galium trachyspermum</i>	ヤエムグラ属	アカネ科	リンドウ目			
428	ツルアリドオシ	<i>Mitchella undulata</i>	ツルアリドオシ属	アカネ科	リンドウ目			
429	ハシカグサ	<i>Neanotis hirsuta</i>	ハシカグサ属	アカネ科	リンドウ目			
430	ハクソカズラ	<i>Paederia foetida</i>	ハクソカズラ属	アカネ科	リンドウ目			
431	アカネ	<i>Rubia argyi</i>	アカネ属	アカネ科	リンドウ目			
432	フデリンドウ	<i>Gentiana zollingeri</i>	リンドウ属	リンドウ科	リンドウ目			
433	アケボノソウ	<i>Swertia bimaculata</i>	センブリ属	リンドウ科	リンドウ目			
434	センブリ	<i>Sialis sibirica</i>	センブリ属	センブリ科	ヘビトンボ目			
435	ツルリンドウ	<i>Tripterospermum japonicum</i>	ツルリンドウ属	センブリ科	リンドウ目			
436	テイカカズラ	<i>Trachelospermum asiaticum</i>	テイカカズラ属	キョウチクトウ科	リンドウ目			
437	カナムグラ	<i>Humulus scandens</i>	カラハナソウ属	アサ科	バラ目			
438	イカホオズキ	<i>Physalisstrum echinatum</i>	イカホオズキ属	ナス科	ナス目			
439	ホオズキ	<i>Physalis alkekengi var. franchetii</i>	ホオズキ属	ナス科	ナス目			
440	ヤマホロシ	<i>Solanum japonense</i>	ナス属	ナス科	ナス目			
441	アメリカイヌホオズキ	<i>Solanum ptychanthum</i>	ナス属	ナス科	ナス目			
442	ハダカホオズキ	<i>Tubocapsicum anomalum</i>	ハダカホオズキ属	ナス科	ナス目			

番号	種名	学名	属名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	別名
443	オニルリソウ	<i>Cynoglossum asperrium</i>	オオルリソウ属	ムラサキ科	ムラサキ目			
444	ヤマルリソウ	<i>Nihon japonicum</i>	ルリソウ属	ムラサキ科	ムラサキ目			
445	ミズタビラコ	<i>Trigonotis brevipes</i>	キウウリグサ属	ムラサキ科	ムラサキ目			
446	ヤマトアオダモ	<i>Fraxinus longicauspis</i>	トネリコ属	モクセイ科	シソ目			
447	マルバアオダモ	<i>Fraxinus sieboldiana</i>	トネリコ属	モクセイ科	シソ目			
448	イボタノキ	<i>Ligustrum obtusifolium ssp. obtusifolium</i>	イボタノキ属	モクセイ科	シソ目			
449	ミヤマイボタ	<i>Ligustrum tschonoskii var. tschonoskii</i>	イボタノキ属	モクセイ科	シソ目			
450	ヒイラギ	<i>Nuchezula nuchalis</i>	モクセイ属	モクセイ科	シソ目			
451	オオバコ	<i>Plantago asiatica var. asiatica</i>	オオバコ属	オオバコ科	シソ目			
452	ハラオオバコ	<i>Plantago lanceolata</i>	オオバコ属	オオバコ科	シソ目			
453	タチイヌノフグリ	<i>Veronica arvensis</i>	クワガタソウ属	オオバコ科	シソ目			
454	オオイスノフグリ	<i>Veronica persica</i>	クワガタソウ属	オオバコ科	シソ目			
455	キラソソウ	<i>Ajuga decumbens</i>	キラソソウ属	シソ科	シソ目			
456	ニシキゴロモ	<i>Ajuga yesoensis var. yesoensis</i>	キラソソウ属	シソ科	シソ目			
457	ムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica var. japonica</i>	ムラサキシキブ属	シソ科	シソ目			
458	ヤブムラサキ	<i>Callicarpa mollis</i>	ムラサキシキブ属	シソ科	シソ目			
459	クサギ	<i>Clerodendrum trichotomum</i>	クサギ属	シソ科	シソ目			
460	トウバナ	<i>Clinopodium gracile</i>	トウバナ属	シソ科	シソ目			
461	イヌトウバナ	<i>Clinopodium micranthum var. micranthum</i>	トウバナ属	シソ科	シソ目			
462	テンニンソウ	<i>Comanthosphae japonica</i>	テンニンソウ属	シソ科	シソ目			
463	ミカエリソウ	<i>Comanthosphae stellipila var. stellipila</i>	テンニンソウ属	シソ科	シソ目			
464	ナギナタコウジュ	<i>Elsholtzia ciliata</i>	ナギナタコウジュ属	シソ科	シソ目			
465	カキドオシ	<i>Glechoma hederacea ssp. grandis</i>	カキドオシ属	シソ科	シソ目			
466	アキチヨウジ	<i>Isodon longitubus</i>	ヤマハシコ属	シソ科	シソ目			
467	ランヨウモンカズラ	<i>Meehania urticifolia</i>	ランヨウモンカズラ属	シソ科	シソ目			
468	イヌコウジュ	<i>Mosla scabra</i>	イヌコウジュ属	シソ科	シソ目			
469	レモンゴマ	<i>Perilla citriodora</i>	シソ属	シソ科	シソ目			
470	アキノタムラソウ	<i>Salvia japonica</i>	アキギリ属	シソ科	シソ目			
471	ウスギナツノタムラソウ	<i>Salvia lutescens (Koidz.) Koidz. var. lutescens</i>	アキギリ属	シソ科	シソ目			
472	タツナミソウ	<i>Scutellaria indica var. indica</i>	タツナミソウ属	シソ科	シソ目			
473	ダウノタツナミソウ	<i>Scutellaria muramatsui</i>	タツナミソウ属	シソ科	シソ目			
474	ツルニガクサ	<i>Teucrium viscidum var. miquelianum</i>	ニガクサ属	シソ科	シソ目			
475	カリガネソウ	<i>Tripura divaricata</i>	カリガネソウ属	シソ科	シソ目			
476	ムラサキサギゴケ	<i>Mazus miquelii</i>	サギゴケ属	サギゴケ科	シソ目			
477	ムラサキオズキ	<i>Mimulus nepalensis</i>	ミゾホトズキ属	ハエドクソウ科	シソ目			
478	ハエドクソウ	<i>Phryma nana</i>	ハエドクソウ属	ハエドクソウ科	シソ目			
479	シコクママコナ	<i>Melampyrum laxum var. laxum</i>	ママコナ属	ハマウツボ科	シソ目			
480	ハズロソウ	<i>Peristrophe japonica</i>	ハズロソウ属	キツネノマゴ科	シソ目			
481	クマツヅラ	<i>Verbena officinalis</i>	クマツヅラ属	クマツヅラ科	シソ目			希少種
482	ハナイカダ	<i>Helwingia japonica ssp. japonica var. japonica</i>	ハナイカダ属	ハナイカダ科	モチノキ目			

番号	種名	学名	属名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	別名
483	イヌツゲ	<i>Ilex crenata</i> var. <i>crenata</i>	モチノキ属	モチノキ科	モチノキ目			
484	タラヨウ	<i>Ilex latifolia</i>	モチノキ属	モチノキ科	モチノキ目			
485	ヒメモチ	<i>Ilex leucoclada</i>	モチノキ属	モチノキ科	モチノキ目			
486	アオハダ	<i>Ilex macropoda</i>	モチノキ属	モチノキ科	モチノキ目			
487	ソヨゴ	<i>Ilex pedunculosa</i>	モチノキ属	モチノキ科	モチノキ目			
488	イヌホオズキ	<i>Solanum nigrum</i>	ナス属	ナス科	ナス目			
489	クロソウゴ	<i>Solanum suserokii</i> var. <i>suserokii</i>	モチノキ属	モチノキ科	モチノキ目			
490	ツリガネニンジン	<i>Adenophora triphylla</i> var. <i>japonica</i>	ツリガネニンジン属	キキョウ科	キク目			
491	ヤマホタルブクロ	<i>Campanula punctata</i> var. <i>hondoensis</i>	ホタルブクロ属	キキョウ科	キク目			
492	ホタルブクロ	<i>Campanula punctata</i> var. <i>punctata</i>	ホタルブクロ属	キキョウ科	キク目			
493	ツルニンジン	<i>Codonopsis lanceolata</i>	ツルニンジン属	キキョウ科	キク目			
494	タニギキョウ	<i>Peracarpa carnosa</i> var. <i>carnosa</i>	タニギキョウ属	キキョウ科	キク目			
495	キッコウハグマ	<i>Ainsliaea apiculata</i>	モミジハグマ属	キク科	キク目			
496	ヨモギ	<i>Artemisia indica</i> var. <i>maximowiczii</i>	ヨモギ属	キク科	キク目			
497	シロヨメナ	<i>Aster leiophyllus</i> var. <i>leiophyllus</i>	シオン属	キク科	キク目			
498	ノコンギク	<i>Aster microcephalus</i> var. <i>oratus</i>	シオン属	キク科	キク目			
499	シラヤマギク	<i>Aster scaber</i>	シオン属	キク科	キク目			
500	イナカギク	<i>Aster semiamplexicaulis</i>	シオン属	キク科	キク目			
501	シユウブンソウ	<i>Aster verticillatus</i>	シオン属	キク科	キク目			
502	サジガククビソウ	<i>Carpesium glossophyllum</i>	ガククビソウ属	キク科	キク目			
503	ヒメガククビソウ	<i>Carpesium rosulatum</i>	ガククビソウ属	キク科	キク目			
504	スズカアザミ	<i>Cirsium suzukaeense</i>	アザミ属	キク科	キク目			
505	ベニバナボロギク	<i>Crassocephalum crepidioides</i>	ベニバナボロギク属	キク科	キク目			
506	ダンドボロギク	<i>Erechtites hieracifolius</i> var. <i>hieracifolius</i>	タケダグサ属	キク科	キク目			
507	ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i>	ムカシヨモギ属	キク科	キク目			
508	ハルジョオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>	ムカシヨモギ属	キク科	キク目			
509	ハキダメギク	<i>Galinsoga quadriradiata</i>	コゴメギク属	キク科	キク目			
510	ニガナ	<i>Ixeridium dentatum</i> ssp. <i>dentatum</i>	ニガナ属	キク科	キク目			
511	ハナニガナ	<i>Ixeridium dentatum</i> ssp. <i>nipponicum</i> var. <i>albiflorum</i>	ニガナ属	キク科	キク目			
512	イワニガナ	<i>Ixeris stolonifera</i>	タカサゴソウ属	キク科	キク目			ジシバリ
513	ヤマニガナ	<i>Lactuca raddeana</i> var. <i>elata</i>	アキノノゲシ属	キク科	キク目			
514	コオニタビラコ	<i>Lapsanastrum apogonoides</i>	ヤブタバコ属	キク科	キク目			
515	センボンヤリ	<i>Leibnitzia anandria</i>	センボンヤリ属	キク科	キク目			
516	ヒヨドリバナ	<i>Eupatorium makinoi</i>	ヒヨドリバナ属	キク科	キク目			
517	ハコネヒヨドリ	<i>Eupatorium chinense</i> ssp. <i>Sachalinense</i> var. <i>hakonense</i>	ヒヨドリバナ属	キク科	キク目			
518	サワギク	<i>Nemosenecio nikopensis</i>	サワギク属	キク科	キク目			
519	ムラサキニガナ	<i>Paraprenanthes sororia</i>	ムラサキニガナ属	キク科	キク目			
520	オオカニコウモリ	<i>Parasenecio nikomontanus</i>	コウモリソウ属	キク科	キク目			
521	コウヤボウキ	<i>Pertya scandens</i>	コウヤボウキ属	キク科	キク目			
522	フキ	<i>Petasites japonicus</i> var. <i>japonicus</i>	フキ属	キク科	キク目			

番号	種名	学名	属名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	別名
523	コウゾリナ	<i>Picris hieracioides</i> ssp. <i>japonica</i> var. <i>japonica</i>	コウゾリナ属	キク科	キク目			
524	メナモミ	<i>Sigesbeckia pubescens</i>	メナモミ属	キク科	キク目			
525	セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>	アキノキリンソウ属	キク科	キク目			
526	アキノキリンソウ	<i>Solidago virgaurea</i> ssp. <i>asiatica</i> var. <i>asiatica</i>	アキノキリンソウ属	キク科	キク目			
527	ヤマボクチ	<i>Synurus palmatopinnatifidus</i> var. <i>indivivus</i>	ヤマボクチ属	キク科	キク目			
528	キクバヤマボクチ	<i>Synurus palmatopinnatifidus</i> var. <i>palmatopinnatifidus</i>	ヤマボクチ属	キク科	キク目			
529	セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i>	タンポポ属	キク科	キク目			
530	アオオニタビラコ	<i>Youngia japonica</i> ssp. <i>elstonii</i>	オニタビラコ属	キク科	キク目			
531	アオオニタビラコ	<i>Youngia japonica</i> ssp. <i>japonica</i>	オニタビラコ属	キク科	キク目			
532	ウド	<i>Aralia cordata</i>	タラノキ属	ウコギ科	セリ目			
533	タラノキ	<i>Aralia elata</i>	タラノキ属	ウコギ科	セリ目			
534	コシアブラ	<i>Chengiotanax sciadophtyloides</i>	コシアブラ属	ウコギ科	セリ目			
535	タカノツメ	<i>Gamblea innovans</i>	タカノツメ属	ウコギ科	セリ目			
536	キツタ	<i>Hedera rhombea</i>	キツタ属	ウコギ科	セリ目			
537	オオバチドメ	<i>Hydrocotyle javanica</i>	チドメグサ属	ウコギ科	セリ目			
538	オオチドメ	<i>Hydrocotyle ramiflora</i>	チドメグサ属	ウコギ科	セリ目			
539	ヒメチドメ	<i>Hydrocotyle yabei</i>	チドメグサ属	ウコギ科	セリ目			
540	シシウド	<i>Angelica pubescens</i> var. <i>pubescens</i>	シシウド属	セリ科	セリ目			
541	シヤク	<i>Anthriscus sylvestris</i>	シヤク属	セリ科	セリ目			
542	ツバクサ	<i>Centella asiatica</i>	ツバクサ属	セリ科	セリ目			
543	セントウソウ	<i>Chamaele decumbens</i>	セントウソウ属	セリ科	セリ目			
544	ミツバ	<i>Cryptotaenia japonica</i>	ミツバ属	セリ科	セリ目			
545	セリ	<i>Oenanthe javanica</i> ssp. <i>javanica</i>	セリ属	セリ科	セリ目			
546	オヤブジラミ	<i>Torilis scabra</i>	ヤブジラミ属	セリ科	セリ目			
547	ニワトコ	<i>Sambucus racemosa</i> ssp. <i>sieboldiana</i> var. <i>sieboldiana</i>	ニワトコ属	ガマズミ科	マツムシソウ目			
548	ガマズミ	<i>Viburnum dilatatum</i>	ガマズミ属	ガマズミ科	マツムシソウ目			
549	コバノガマズミ	<i>Viburnum erosum</i>	ガマズミ属	ガマズミ科	マツムシソウ目			
550	オオカメノキ	<i>Viburnum furcatum</i>	ガマズミ属	ガマズミ科	マツムシソウ目			
551	ヤブデマリ	<i>Viburnum plicatum</i> var. <i>tomentosum</i>	ガマズミ属	ガマズミ科	マツムシソウ目			
552	ゴマギ	<i>Viburnum sieboldii</i> var. <i>sieboldii</i>	ガマズミ属	ガマズミ科	マツムシソウ目			ゴマギ
553	ミヤマシグレ	<i>Viburnum urceolatum</i> f. <i>procumbens</i>	ガマズミ属	ガマズミ科	マツムシソウ目			
554	ミヤマガマズミ	<i>Viburnum wrightii</i> var. <i>wrightii</i>	ガマズミ属	ガマズミ科	マツムシソウ目			
555	ツクバネウツギ	<i>Abelia spathulata</i> var. <i>spathulata</i>	ツクバネウツギ属	スイカズラ科	マツムシソウ目			
556	スイカズラ	<i>Lonicera japonica</i>	スイカズラ属	スイカズラ科	マツムシソウ目			
557	オトコエシ	<i>Patrinia villosa</i>	オミナエシ属	スイカズラ科	マツムシソウ目			
558	タニウツギ	<i>Weigela hortensis</i>	タニウツギ属	スイカズラ科	マツムシソウ目			

※令和5年4月から令和7年12月までの期間に実施した植生調査で確認された種を記載した。

付表 2. 鈴鹿の森で見られる昆虫

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
1	ニッポンヒロコバネ	<i>Neomicropteryx nipponensis</i>	コバネガ科	チョウ目			ジャコク
2	キオビコヒゲナガ	<i>Nemophora bifasciatella</i>	ヒゲナガガ科	チョウ目			未知
3	ホソオビヒゲナガ	<i>Nemophora aurifera</i>	ヒゲナガガ科	チョウ目			広葉樹の枯葉
4	ニセクスギキムモンハモグリ	<i>Tischeria decidua siorktionla</i>	ムモンハモグリ科	チョウ目			クスギ, アバマキ, カシワ, ミズナラ, コナラなどブナ科
5	クロツヤミノガ	<i>Bambalina sp.</i>	ミノガ科	チョウ目			多くの樹木、灌木、蕨類
6	シバミノガ	<i>Nipponpsyche fuscescens</i>	ミノガ科	チョウ目			イネ科, カヤツリグサ科
7	チャミノガ	<i>Eumeta minuscula</i>	ミノガ科	チョウ目			ツバキ科: チャノキ、ブナ科: コナラ、クスノキ科: クスノキ、アオモジ、バラ科: ソメイヨシノ、ウメ、ミソハギ科: サスルベリ、カエデ科: モミジ、カバノキ科: ハンノキ、カキノキ科: カキノキ、クワ科: オオイトビ、アオイ科: ハマボウ
8	ハスオビハマキソノガ	<i>Povolnya obliquatella</i>	ソノガ科	チョウ目			ブナ科: クスギ
9	アトヒゲコガ科の一種 sp.1	<i>Acrolepiidae sp.</i>	アトヒゲコガ科	チョウ目			—
10	クロマイコモドキ	<i>Lamprystica igneola</i>	マルハキバガ科	チョウ目			キク科: イタドリ, オオイトドリ
11	ムモンハビロキバガ	<i>Scythropiodes lividula</i>	ヒゲナガキバガ科	チョウ目			
12	ヒロバスゴモリキバガ	<i>Nuntia incognitella</i>	ソノキバガ科	チョウ目			未知
13	ツツミノガ科の一種 sp.1	<i>Coleophoridae sp.1</i>	ツツミノガ科	チョウ目			ヨモギの葉肉を食う
14	キオビキバガ	<i>Macrobathra quercea</i>	カザリバガ科	チョウ目			ブナ科: コナラ、アラカシ
15	ウスキボシキバガ	<i>Teleiodes hortensis</i>	キバガ科	チョウ目			未知
16	ウバメガシハマキバガ	<i>Concubina trigonalis</i>	キバガ科	チョウ目			ブナ科: ウバメガシ, コナラ
17	クロクモシロキバガ	<i>Ethmiopsis tegulifera</i>	キバガ科	チョウ目			ブナ科: コナラ、カシワ、ウバメガシ
18	コキボシキバガ	<i>Teleiodes gangwonensis</i>	キバガ科	チョウ目			コナラ
19	サクラキバガ	<i>Anacampsis anisogramma</i>	キバガ科	チョウ目			バラ科: サクラ、ウメ、モモ、スモモ、アズミ、カズミザクラ、ソメイヨシノ、エドヒガン、オオヤマザクラ、オウトウ、ブゲンゾウメ
20	ナラクロオビキバガ	<i>Nuntia incognitella</i>	キバガ科	チョウ目			コナラなどブナ科
21	セミヤドリガ	<i>Epipomponia narai</i>	セミヤドリガ科	チョウ目			ヒグラシ、ミンミンゼミ、アブラゼミ、ツクツクホウシ、ニイニイゼミ、ヒメハルゼミ
22	アオイラガ	<i>Parasa consocia</i>	イラガ科	チョウ目		要注目種	—
23	アカイラガ	<i>Phrixolepia sericea</i>	イラガ科	チョウ目			ツバキ科: チャ、バラ科: ウメ、モモ、カキノキ科: カキ、ブナ科: クスギ、コナラ、クリ、クワ科: クワ、ヤナギ科: ヤナギ、アブラナ科: ダイコン、ヒルガオ科: サツマイモ、バラ科: ナク、ソメイヨシノ、カエデ科: コハウチワカエデ、ツツジ科: ネジキ
24	ウストビイラガ	<i>Ceratonema sericeum</i>	イラガ科	チョウ目			カエデ科: ヤマモミジ、アワブキ科: アワブキ、フサザクラ科: フサザクラ、マンサク科: マルバマンサク、マンサク、リョウブ科: リョウブ
25	カギバライラガ	<i>Heterogenea asella</i>	イラガ科	チョウ目			ブナ科: クスギ、コナラ、クリ、カバノキ科: ヤマハンノキ・クマシデ、バラ科: ヤマザクラ、カエデ科: イロハカエデ
26	クロシタアオイラガ	<i>Parasa sinica</i>	イラガ科	チョウ目			ブナ科: クスギ、クリ、バラ科: サクラ、ウメ、カキノキ科: カキ
27	ラングイラガ	<i>Microleon longipalpis</i>	イラガ科	チョウ目			バラ科: サクラ、ナシ、アズミ、キイチゴ、ツバキ科: チャ、カキノキ科: カキ、バラ科: モミジイチゴ、ヒメバライチゴ、ブナ科: クスギ、クリ、ツツジ科: ツツジ、ヤナギ科: ネコヤナギ、カエデ科: モミジ
28	ナシイラガ	<i>Narosoideus flavidorsalis</i>	イラガ科	チョウ目			バラ科: ナシ、ソメイヨシノ、ブナ科: コナラ属: クスギ、クリ属: クリ、カキノキ科: カキノキ、ヤナギ科: ヤマナラシ、ヤマメ科: ダイズ、スイカズラ科: ツクシヤブツギ、ニレ科: ケヤキ

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
29	ヒメクロイラガ	<i>Scopelodes contracta</i>	イラガ科	チョウ目			カキノキ科：カキノキ、バラ科：サクラ、トウダイグサ科：アブラギリ、ニレ科：ケヤキ、ニガキ科：シンジュ、ブナ科コナラ属：クヌギ、アメリカワウ
30	ムラサキイラガ	<i>Austrapoda dentata</i>	イラガ科	チョウ目			ブナ科：クヌギ、クワ、バラ科：サクラ、ウメ、ツバキ科：チャ、ヤナギ科：ヤナギ
31	シロシタホタルガ	<i>Neochalcusia remota</i>	マダラガ科	チョウ目			ハインキ科：サワフタギ、クロミノニシゴリ、タンナサワフタギ
32	ホタルガ	<i>Pidorus atratus</i>	マダラガ科	チョウ目			ツバキ科：ヒサカキ、サカキ、ハマヒサカキ、ニシキギ科：マサキ
33	アトボシハマキ	<i>Hoshinoa longicellana</i>	ハマキガ科	チョウ目			ブナ科：コナラ、ミズナラ、カシワ、クリ、カバノキ科：ハシバミ、マンサク科：マンサク、モクセイ科：アオダモ、ツツジ科：ナツハギ、バラ科：リンゴ、ミチクナシ、ヤナギ科：ヤナガラシ、ヤナギ、バラ科：セイヨウバラ、ナシ、クルミ科：オニグルシ
34	ウストビハマキ	<i>Pandemis chlorograptia</i>	ハマキガ科	チョウ目			バラ科：リンゴ、ナシ、バラ科：エドヒガン、クスノキ科：アブラヤシ、ハシバミ科、ヤナギ科：ハコヤナギ、マツ科：トウヒ
35	ウツキヒメハマキ	<i>Olethreutes electanus</i>	ハマキガ科	チョウ目			アカシデ・クマシデ・サワシバ・ハシバミ・オオツノハシバミ
36	オオナミスジキヒメハマキ	<i>Pseudohedya retracta</i>	ハマキガ科	チョウ目			アラカシ、ウバメガシなどブナ科
37	コシロアシヒメハマキ	<i>Hystriochoscelus spathanthum</i>	ハマキガ科	チョウ目			ブナ科：ミズナラ、カシワ、コナラ、シイ、カバノキ科：イヌシデ、ダケカクノキ科：カキ、バラ科：リンゴ、ヒメリング、ナシ、クワ科：クワ、スイカズラ科：ガマズミ、マンサク科、マメ科：ブジ
38	シリグロハマキ	<i>Archips nigricaudana</i>	ハマキガ科	チョウ目			ツバキ科：チャ、ミカン科：ミカン類、マメ科：ネムノキ、ミズキ科：クマノミズキ、マキ科：イヌマキ
39	シロマルモンヒメハマキ	<i>Zeiraphera demutata</i>	ハマキガ科	チョウ目			バラ科：カスミサクラ、エゾノウロミズバザクラ、ズミ、ブナ科：コナラ
40	チャハマキ	<i>Homona magnanima</i>	ハマキガ科	チョウ目			バラ科：リンゴ・ズミ・ナシ・ナナカマド、ムクロジ科：カエデ類
41	ツママルモンヒメハマキ	<i>Eudemis brevisetosa</i>	ハマキガ科	チョウ目			
42	ツマモンエグリハマキ	<i>Acleris paradiseana</i>	ハマキガ科	チョウ目			
43	ハマキガ科の一種		ハマキガ科	チョウ目			
44	ヒメハマキガ科の一種 sp.1	<i>Olethreutinae sp.1</i>	ハマキガ科	チョウ目			
45	ブライヤハマキ	<i>Scythropiodes lividula</i>	ハマキガ科	チョウ目			ブナ科：クスギ、ナラ、カシワ、コナラ、ミズナラ
46	ミダレカクモンハマキ	<i>Archips fuscocupreanus</i>	ハマキガ科	チョウ目			各種落葉広葉樹、バラ科：バラ、ブナ科：カシワ、ブナ、ヤナギ科：ヤナギ、カキノキ科：カキ、クワ科：クワ、マメ科：ダイズ、バラ科：リンゴの花、ナシの花、シソ科：ハクサンカメバヒオオコシ、ドクダミ科：ドクダミ、イチヨウ科：イチヨウ
47	リンゴコクモンハマキ	<i>Adoxophyes orana fasciata</i>	ハマキガ科	チョウ目			バラ科、ブナ科、ヤナギ科、カバノキ科、ウコギ科：ハリギリ、マメ科など多科
48	オドリハマキモドキ	<i>Litobrenthia japonica</i>	ハマキモドキガ科	チョウ目			クスギ、アバマキ、コナラ、アカガシ、アラカシなどブナ科
49	アカマダラメイガ	<i>Oncocera semirubella</i>	メイガ科	チョウ目			メドハギ (マメ科)
50	ウスズアオビマダラメイガ	<i>Acrobasis fuscatella</i>	メイガ科	チョウ目			未知
51	オオウスベニトガリメイガ	<i>Endotricha icelusalis</i>	メイガ科	チョウ目			マメ科：シロツメクサ類
52	キペリトガリメイガ	<i>Endotricha minialis</i>	メイガ科	チョウ目			未知
53	ギンモンシマメイガ	<i>Pyralis regalis</i>	メイガ科	チョウ目			動物性：スズメバチ科：オオスズメバチ、ケブカスズメバチ、セグロアシナガバチの巣
54	コネアオフトメイガ	<i>Lepidogma melanobasis</i>	メイガ科	チョウ目			未知
55	トビイロシマメイガ	<i>Hypsopygia regina</i>	メイガ科	チョウ目			イチイ科：イチイ、マツ科：エゾマツ、ヒノキ科：タマヒムロ、ヒノキ科：スギの球果
56	ナカアカスジマダラメイガ	<i>Nephoterix bicolorella</i>	メイガ科	チョウ目			ブナ科：コナラ、ミズナラ

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
57	ナカムラサキフトメイガ	<i>Lista ficki</i>	メイガ科	チョウ目			ブナ科コナラ属：カシワ
58	ハスジフトメイガ	<i>Epilepia dentata</i>	メイガ科	チョウ目			
59	マエグツヅリガ	<i>Catroposopus monstrosus</i>	メイガ科	チョウ目			未知
60	マツノマダメイガ	<i>Diorcetra abietella</i>	メイガ科	チョウ目			マツ科：トドマツ、エゾマツ、ストロブマツ、ドイトウトヒ、スギ科：スギ
61	ミドリネグロフトメイガ	<i>Stericta flavopuncta</i>	メイガ科	チョウ目			未知
62	ウコンメイガ	<i>Pleuroptera ruralis</i>	ツトガ科	チョウ目			ダイズ、ダイズの花、インゲンマメ、ミドリマメ(マメ科)、カラムシ、アカソ、イラクサ(イラクサ科)、カナムグラ(クワ科)など多科
63	オオシロモンノメイガ	<i>Chabula telphusalis</i>	ツトガ科	チョウ目			未知
64	キアヤヒメノメイガ	<i>Diasemia accalis</i>	ツトガ科	チョウ目			ミツバ(セリ科)
65	キンモンガ	<i>Psychostrophia melanargia</i>	アガハモドキガ科	チョウ目			リョウブ科：リョウブ
66	クロスカシトガリノメイガ	<i>Cotachena alysoni</i>	ツトガ科	チョウ目			ニレ科：エノキ
67	クロスジキンノメイガ	<i>Pleuroptera balteata</i>	ツトガ科	チョウ目			スルデなどウルシ科、クスギ、クリなどブナ科
68	クロスジノメイガ	<i>Tyspanodes striatus striatus</i>	ツトガ科	チョウ目			キブシ(キブシ科)、ミツバウツギ、ヤマボウシ(ミズキ科)
69	コブノメイガ	<i>Cnaphalocrocis medinalis</i>	ツトガ科	チョウ目			アワ、エノコログサ、ヒユ、ジエズダマ、コムギ、オオムギ、サトウキビ、スズメノヒユ、イヌビエ、カラスムギ、ハダカムギ、イネ
70	ゴマダラノメイガの一種	<i>Conogethes sp.</i>	ツトガ科	チョウ目			一
71	シロオビノメイガ	<i>Spoladea recurvalis</i>	ツトガ科	チョウ目			ホウレンソウ、フダンソウ、テンサイ、アガサ、サトウダイコン(アカサ科)、ウリ類(ウリ科)、モヨウビユ、ケイトウ、ヒユ、ヒナタイノコズチ(ヒユ科)、ツルナ(ザクロソウ科)など多科
72	シロスジツトガ	<i>Crambus argyrophorus</i>	ツトガ科	チョウ目			未知
73	シロテンキンノメイガ	<i>Nacoleia commixta</i>	ツトガ科	チョウ目			ミツバ(セリ科)
74	シロテンノメイガ	<i>Diathrausta brevifascialis</i>	ツトガ科	チョウ目			未知
75	シロヒトモンノメイガ	<i>Analthes semitritalis orbicularis</i>	ツトガ科	チョウ目			アワブキ科：アワブキ
76	シロモンノメイガ	<i>Bocchoris inspersalis</i>	ツトガ科	チョウ目			未知
77	ゼニガサミズメイガ	<i>Paracymoriza prodigalis</i>	ツトガ科	チョウ目			未知
78	ツトガ	<i>Ancylolema japonica</i>	ツトガ科	チョウ目			シバ、イネ(イネ科)
79	ツトガ科ノメイガ亜科 sp.1	<i>Pyraustinae sp.1</i>	ツトガ科	チョウ目			未知
80	ナカグロツトガ	<i>Crambus virgatellus</i>	ツトガ科	チョウ目			未知
81	ネモンノメイガ	<i>Nacoleia tampiusalis</i>	ツトガ科	チョウ目			未知
82	ノメイガ亜科の一種	<i>Pyraustinae sp.1</i>	ツトガ科	チョウ目			未知
83	ヒメクロミスジノメイガ	<i>Omiodes miserus</i>	ツトガ科	チョウ目			イネ科：チゴザサ
84	ヒメシロテンノメイガ	<i>Diathrausta profundalis</i>	ツトガ科	チョウ目			未知
85	フトシロスジツトガ	<i>Crambus kuzakaiensis</i>	ツトガ科	チョウ目	分布上 重要種		未知
86	ホソスジツトガ	<i>Pseudargyria interruptella</i>	ツトガ科	チョウ目			未知
87	ホソミスジノメイガ	<i>Pleuroptera chlorophanta</i>	ツトガ科	チョウ目			ゴマノハグサ科：キリ、エゴノキ科：ハクウンボク、ブナ科コナラ属：クスギ、バラ科：ソメイヨシノ
88	マエアスカカシノメイガ	<i>Palpita nigropunctalis</i>	ツトガ科	チョウ目			ネズミモチ、キンモクセイ、イボタノキ、ヒイラギの花、オリーブ、リュウキユウモクセイなどモクセイ科
89	マタスジノメイガ	<i>Pagoda quinquelineata</i>	ツトガ科	チョウ目			クマツツラ科：ムラサキシキブ
90	マメノメイガ	<i>Maruca vitrata</i>	ツトガ科	チョウ目			ササゲ、アズキの花、アズキの莢、ダイズ、インゲンマメ(マメ科)
91	ミツテンノメイガ	<i>Mabra charonialis</i>	ツトガ科	チョウ目			枯葉

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
92	モンキクワノメイガ	<i>Herpetogramma luctuosale</i>	ツトガ科	チョウ目			ブドウ科：ブドウ、エビヅル、ヤブカラシ、ヤマブドウ、ノブドウ
93	モンシロルリノメイガ	<i>Uresiphita tricolor</i>	ツトガ科	チョウ目			ユキノシタ科：ウツギ
94	モンスカシキノメイガ	<i>Pseudebulea fentoni</i>	ツトガ科	チョウ目			未知
95	ヨスジノメイガ	<i>Pagda quadrilineata</i>	ツトガ科	チョウ目			クマツヅラ科：ムラサキシキブ
96	イカリモンガ	<i>Pterodecta felderi</i>	イカリモンガ科	チョウ目			オシダ科：イノデ
97	アシベニカギバ	<i>Oreta pulchripes</i>	カギバガ科	チョウ目			スイカズラ科：ガマズミ、サンゴジュ、ゴマギ、カンボク、ブドウ科：ノブドウ
98	ウスイロカギバ	<i>Callidrepana palliola</i>	カギバガ科	チョウ目			ウルシ科：ウルシ、ヤマウルシ、ツタウルシ
99	ウスギスガギバ	<i>Macrocilix mysticata watsoni</i>	カギバガ科	チョウ目			ブナ科：クスギ、コナラ、ミズナラ、アラカシ、ウラジロガシ
100	ウスジロトガリバ	<i>Parapsestis albidata</i>	カギバガ科	チョウ目			ブナ科：ブナ
101	オオカギバ	<i>Cyclidia substigmatica nigralbata</i>	カギバガ科	チョウ目			ウリノキ科：ウリノキ
102	オオバトガリバ	<i>Tethea ampliata ampliata</i>	カギバガ科	チョウ目			クスギ、ミズナラなどブナ科
103	オオマエベニトガリバ	<i>Tethea consimilis consimilis</i>	カギバガ科	チョウ目			バラ科：ナカハマド、ソメイヨシノ、ウワミズザクラ
104	ヒトツメカギバ	<i>Auzata superba superba</i>	カギバガ科	チョウ目			ミズキ科：ミズキ、クマノミズキ
105	フタテンシロカギバ	<i>Ditrigona virgo</i>	カギバガ科	チョウ目			ミズキ科：ミズキ、クマノミズキ
106	ホシベッコウカギバ	<i>Derocha inconclusa phasma</i>	カギバガ科	チョウ目			ミズキ科：クマノミズキ、ヤマボウシ
107	マエキカギバ	<i>Agnidra scabiosa scabiosa</i>	カギバガ科	チョウ目			ブナ科コナラ属：クスギ、コナラ、クリ
108	ムラサキトガリバ	<i>Epipsestis ornata</i>	カギバガ科	チョウ目			ブナ科：アラカシ、アカガシ、ミズナラ、コナラ、シラカシ、カシ
109	モントガリバ	<i>Thyatira batis japonica</i>	カギバガ科	チョウ目			バラ科：キイチゴ、エビガライチゴ、カジイチゴ、クロイチゴ、モミジイチゴ
110	クロホシフタオ	<i>Dyssaethria moza</i>	ツバメガ科	チョウ目			スイカズラ科：ガマズミ、コバノガマズミ、オトコヨウゾメ
111	アトグロアミエダシヤク	<i>Cabera griseolimbata griseolimbata</i>	シヤクガ科	チョウ目			未知
112	ウスアオシヤク	<i>Dindica virescens</i>	シヤクガ科	チョウ目			クスギ、ミズナラ、クリなどブナ科
113	ウスイロオオエダシヤク	<i>Amraica superans superans</i>	シヤクガ科	チョウ目			ニシキギ科：マユミ、ツリバナ、マサキ、ツルウメモドキ、ヒロハツリバナ
114	ウスウラナミヒメシヤク	<i>Scopula longicerata</i>	シヤクガ科	チョウ目			未知
115	ウスオエダシヤク	<i>Chiasmia hebesata</i>	シヤクガ科	チョウ目			マメ科：ヤマハギ、メドハギ、ヤハズソウ、マルバハギ
116	ウスオビヒメエダシヤク	<i>Euchristophia cumulata cumulata</i>	シヤクガ科	チョウ目			カエデ科：ウリハダカエデ、ウリカエデ、ホザキカエデ
117	ウスキクワロテンヒメシヤク	<i>Scopula ignobilis</i>	シヤクガ科	チョウ目			ベンケイソウ科：コモチマンネングサ、カタバミ科：カタバミ、ケシ科：ムラサキケマン、スマイレ科：マルバスマイレ、ユリ科：ホウチヤクソウ、ニシキギ科：ツルウメモドキ、バラ科：コシジシモツケ、ウワミズサクラ
118	ウススキツバメエダシヤク	<i>Ourapteryx nivea</i>	シヤクガ科	チョウ目			イヌガヤ科、ブナ科：クスギ、ニレ科、マメ科、モチノキ科：いぬつげ、クロウメモドキ科、ツバキ科、スイカズラ科、アサ科：エノキ
119	ウススキヒメシヤク	<i>Idaea biselata</i>	シヤクガ科	チョウ目			広葉樹の枯葉、落葉
120	ウスクモナシヤク	<i>Heterophleps fusca fusca</i>	シヤクガ科	チョウ目			コアカソ (飼育)
121	ウスクワロテンヒメシヤク	<i>Scopula ignobilis</i>	シヤクガ科	チョウ目			ベンケイソウ科：コモチマンネングサ、カタバミ科：カタバミ、ケシ科：ムラサキケマン、スマイレ科：マルバスマイレ、ユリ科：ホウチヤクソウ、ニシキギ科：ツルウメモドキ、バラ科：コシジシモツケ、ウワミズサクラ
122	ウスグロナミエダシヤク	<i>Phanerothyris noctivolans sinearia</i>	シヤクガ科	チョウ目			クルミ科：オニグルミ、サワグルミ

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
123	ウスサカハチヒメシヤク	<i>Scopula semignobilis</i>	シヤクガ科	チョウ目			ヤマノイモ (ヤマイモ科)
124	ウスジロエダシヤク	<i>Ectropis obliqua</i>	シヤクガ科	チョウ目			ブナ科：カシワ・クリの球果の針、バラ科：リンゴ、ヤナギ科、ク リミ科：オニグルミ、マメ科：ダイズ、スイカズラ科：タニウツキ、 キク科、マツ科
125	ウストビスエダシヤク	<i>Ectropis aignerii</i>	シヤクガ科	チョウ目			クルミ科：サワグルミ、フサザクラ科：フサザクラ、ミズキ科：ミ ズキ、カツラ科：カツラ
126	ウストビモンナミシヤク	<i>Eulithis ledereri</i>	シヤクガ科	チョウ目			ブナ科：ブドウ、ヤマブドウ、ツタ、イワガラミ
127	ウスベニスジヒメシヤク	<i>Timandra dichela</i>	シヤクガ科	チョウ目			ダデ科：ミゾソバ、スイバ
128	エグリエダシヤク	<i>Fascellina chromataria</i>	シヤクガ科	チョウ目			クスノキ科：タブノキ、シキミ科：シキミ、モクレン科：サネカズ ラ
129	エダシヤク亜科の一種 sp.1	<i>Ennominae sp.1</i>	シヤクガ科	チョウ目			
130	オオトビスエダシヤク	<i>Ectropis excellens</i>	シヤクガ科	チョウ目			ヤナギ科、ヤマモモ科、カバノキ科、ブナ科、マンサク科、バラ科、 マメ科、ツバキ科、キク科、イチヨウ科、スギ科、スイカズラ科、 アヤメ科、トウダイグサ科：ヒマ、タデ科、バラ科：リンゴ、スイ カズラ科：ハスカツ、イチイ科：イチイ、サクラソウ科：オカト ラノオ
131	オオノコエダシヤク	<i>Acrodontis fumosa</i>	シヤクガ科	チョウ目			キブシ科：キブシ、ミツバウツギ科：ミツバウツギ、ゴンズイ
132	オオバナミガタエダシヤク	<i>Hypomecis lunifera</i>	シヤクガ科	チョウ目			バラ科：ズミ、ウメ、ミヤマニガイチゴ、ニレ科：ハルニレ、カバ ノキ科：ヤマハシノキ、ブナ科コナラ属：コナラ、ブナ科クリ属： クリ
133	キガシラオオオナミシヤク	<i>Gandaritis agnes agnes</i>	シヤクガ科	チョウ目			マタタビ科：サルナシ、ユキノシタ科：イワガラミ
134	キシタエダシヤク	<i>Arichanna melanaria fraterna</i>	シヤクガ科	チョウ目			ツツジ科：アセビ、ミヤマキリシマ、レンゲツツジ、ヤマツツジ
135	キスジシロヒメシヤク	<i>Scopula aethena</i>	シヤクガ科	チョウ目			未知
136	キタムシシヤク	<i>Jankowskia pseudathleta</i>	シヤクガ科	チョウ目			ヤナギ科：ヤナギ属
137	キベリシロナミシヤク	<i>Idaea nudaria infuscaria</i>	シヤクガ科	チョウ目			未知
138	キマダラオオオナミシヤク	<i>Gandaritis placida</i>	シヤクガ科	チョウ目			ユキノシタ科：ガクウツギ、ノリウツギ、イワガラミ
139	キマダラツバメエダシヤク	<i>Gandaritis fixseni</i>	シヤクガ科	チョウ目			マタタビ科：サルナシ、マタタビ、ユキノシタ科：イワガラミ
140	キマダラツバメエダシヤク	<i>Thinopteryx crocoptera striolata</i>	シヤクガ科	チョウ目			ブドウ科：ブドウ、ノブドウ
141	キリバエダシヤク	<i>Ennomos nephotropa</i>	シヤクガ科	チョウ目			ミズナラ (ブナ科)、ヤシヤブシ (カバノキ科)、ニレ (ニレ科)、 サクラ、リンゴ、マメザクラ (バラ科)、シナノキ (シナノキ科)、 ヤナギ科など多科
142	クロオビフユナミシヤク	<i>Operophtera relegata</i>	シヤクガ科	チョウ目			
143	クロクモエダシヤク	<i>Apocleora rimosa</i>	シヤクガ科	チョウ目			ヒノキ科：ヒノキ、ビヤクシン
144	クロズウスエダシヤク	<i>Lomographa simplicior simplicior</i>	シヤクガ科	チョウ目			ブナ科コナラ属：ミズナラ、クスギ、バラ科：ズミ、マメザクラ、 ナナカマド、ウロミズザクラ
145	クロミスジシロエダシヤク	<i>Myrteta angelica</i>	シヤクガ科	チョウ目			エゴノキ科：エゴノキ、ハクウンボク
146	コウスアオシヤク	<i>Chlorissa obliterata</i>	シヤクガ科	チョウ目			キク科：アキノキリンソウの花、マメ科：クサフジ
147	コガタツバメエダシヤク	<i>Ourapteryx obtusicauda</i>	シヤクガ科	チョウ目			ヤナギ科、カバノキ科、ブナ科、クスノキ科、アロバキ科、マタ タビ科、ツバキ科、ツツジ科、エゴノキ科、スイカズラ科、カエデ 科
148	コガタヒメアオシヤク	<i>Jodis orientalis</i>	シヤクガ科	チョウ目			バラ (バラ科)
149	コスジシロエダシヤク	<i>Cabera purus</i>	シヤクガ科	チョウ目			カバノキ科：ヤシヤブシ、ヒメヤシヤブシ、ヤマハンノキ、ミヤマ カワハンノキ、シラカンバ
150	ゴマフエダシヤク	<i>Angerona nigriparsa</i>	シヤクガ科	チョウ目			カバノキ科、ブナ科、ニレ科、マメ科、トチノキ科、アロバキ科、 ツツジ科、スイカズラ科、ミカン科
151	コヨツメエダシヤク	<i>Ophthalmitis irrorataria</i>	シヤクガ科	チョウ目			バラ科：ズミ、オオズミ、リンゴ、カイドウ、カマツカ、アズキナ シ

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
152	サビイロナミシヤク	<i>Pseudocollix hyperythrus</i>	シヤクガ科	チョウ目			サクラソウ科：イズセンリョウ、シマイズセンリョウ
153	シダエダシヤク	<i>Petrophora chlorosata</i>	シヤクガ科	チョウ目			ワラビ科：ワラビ
154	シラフシロオビナミシヤク	<i>Trichodezia kindermanni leechi</i>	シヤクガ科	チョウ目			アジサイ科：ヤマアジサイ
155	シロジマエダシヤク	<i>Eurybeidia languidata languidata</i>	シヤクガ科	チョウ目			モチノキ科：モチノキ
156	シロツバメエダシヤク	<i>Ourapteryx maculicaudaria</i>	シヤクガ科	チョウ目			イチイ科：イチイ、キヤラボク、チャボガヤ、イズガヤ科：イズガヤ、マツ科：トウヒ
157	シロヒメシヤク	<i>Scopula nivearia</i>	シヤクガ科	チョウ目			未知
158	シロモンクロエダシヤク	<i>Proteostrenia leda</i>	シヤクガ科	チョウ目			ツルウメモドキ、マユミ、コマユミ、ツリバナ、ヒロバツリバナ、クロツル、ツルマサキ
159	スギノキエダシヤク	<i>Ectropis sp.</i>	シヤクガ科	チョウ目			ヒノキ科：スギ
160	セスジナミシヤク	<i>Evecliptopera illitata illitata</i>	シヤクガ科	チョウ目			アケビ科：アケビ、ミツバアケビ
161	ソトキウロエダシヤク	<i>Scionomia mendica mendica</i>	シヤクガ科	チョウ目			ホウライシダ科：クジャクシダ、オシダ科：リョウメメンシダ、ジュウモンシダ、クサソテツ、ミノシダ
162	チャマダラエダシヤク	<i>Amblychia insueta</i>	シヤクガ科	チョウ目			クスノキ科：アブラチヤン、クロモジ、シキミ
163	ツマトビキエダシヤク	<i>Bizia aexaria</i>	シヤクガ科	チョウ目			クワ科：クワ
164	トビモンオオエダシヤク	<i>Biston robustus</i>	シヤクガ科	チョウ目			ブナ科、ニレ科、バラ科、マメ科、ニシキギ科、カエデ科、ツバキ科、ミズキ科、モクセイ科、スイカズラ科など各科
165	ナカウエエダシヤク	<i>Alecis angulifera</i>	シヤクガ科	チョウ目			マツ(マツ科)、ブナ(ブナ科)、バラ科、ツバキ科、ツツジ科など広食性
166	ナカキエダシヤク	<i>Plagodis dolabraria</i>	シヤクガ科	チョウ目			未知
167	ナカグロチビナミシヤク	<i>Eupithecia daemionata</i>	シヤクガ科	チョウ目			
168	ナミシヤク亜科の一種	<i>Larentiinae sp.</i>	シヤクガ科	チョウ目			
169	ハガタナミシヤク	<i>Eustroma melancholicum melancholicum</i>	シヤクガ科	チョウ目			ツタ・ヤマブドウ(飼育記録)
170	ハグルマエダシヤク	<i>Synegia hadassa hadassa</i>	シヤクガ科	チョウ目			モチノキ科：イズツグ、アオハダ、ソヨゴ、スイカズラ科：ウゴツクバネウツギ、ツクバネウツギ
171	ヒトツメオオヒメシヤク	<i>Problepsis superans superans</i>	シヤクガ科	チョウ目			モクセイ科：イボタノキ
172	ヒメシヤク亜科の一種	<i>Sterrhinae sp.</i>	シヤクガ科	チョウ目			
173	ヒヨウモンエダシヤク	<i>Arichanna gaschkevitchii gaschkevitchii</i>	シヤクガ科	チョウ目			ツツジ科：アセビ、ハナヒリノキ、レンゲツツジ、クロマメノキ
174	ピロートナミシヤク	<i>Sibatania mactata</i>	シヤクガ科	チョウ目			アジサイ科：ヤマアジサイ
175	ヒロバウスアオエダシヤク	<i>Paradarisa chloauges kurosawai</i>	シヤクガ科	チョウ目			ブナ科：ウバメガシ、モクレン科：シデコブシ
176	ヒロバツバメアオシヤク	<i>Maxates illitirata</i>	シヤクガ科	チョウ目			バラ科：モモ、ソメイヨシノ
177	フタスジオエダシヤク	<i>Rhynchobapta cervinaria bilineata</i>	シヤクガ科	チョウ目			モチノキ科：アオハダ、ミヤマウメモドキ、オトギリソウ科：タンナサワフクギ
178	フタバシロエダシヤク	<i>Lomographa bimaculata subnotata</i>	シヤクガ科	チョウ目			バラ科：ソメイヨシノ、カスミザクラ、マメザクラ、ウワミズザクラ、ナナカマド、モモ
179	フトジマナミシヤク	<i>Xanthorhoe saturata</i>	シヤクガ科	チョウ目			セリ科：ニンジン、ミツバ、アブラナ科：野菜類、キク科：センダングサ
180	フトフタオビエダシヤク	<i>Ectropis crepuscularia</i>	シヤクガ科	チョウ目			ヤナギ科、クスノキ科、マメ科：ダイズ、クサフジ、ミカン科、トウダイグサ科、ツバキ科、ツツジ科、ミズキ科、ダイズ、センマイ科：センマイ、オシダ科：パニシダ、クルミ科：クルミ
181	フトベニスジヒメシヤク	<i>Timandra apicirosea</i>	シヤクガ科	チョウ目			タデ科：ミズヒキ、ミゾソバ、イヌタデ
182	ヘリグロマダラエダシヤク	<i>Abraxas satoi</i>	シヤクガ科	チョウ目			ニレ科：ハルニレ

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
183	ホシスジシロエダシヤク	<i>Myrteta punctata</i>	シヤクガ科	チョウ目			カエデ科：ヤマモミジ
184	ホソバトガリナミシヤク	<i>Carige scutillimbata</i>	シヤクガ科	チョウ目			未知
185	ホソバナミシヤク	<i>Tyloptera bella bella</i>	シヤクガ科	チョウ目			ウコギ科：タラノキ
186	ホソバハラアオシヤク	<i>Chlorissa anadema</i>	シヤクガ科	チョウ目			ブナ科：クリ、クワ科：コウゾ、バラ科：ノメイヨシノ、モモ、マメ科：ヤマハ
187	マエキシロエダシヤク	<i>Lomographa inamata</i>	シヤクガ科	チョウ目			未知
188	マエキトビエダシヤク	<i>Nothomiza formosa</i>	シヤクガ科	チョウ目			イヌツグ、ソヨゴ、アオハダ、ミヤマウメモトキなどモチノキ科
189	マエキヒメシヤク	<i>Scopula nigropunctata imbellis</i>	シヤクガ科	チョウ目			スイカズラ科：スイカズラ、ヤナギ科：ヤナギ、バラ科：バラ、リンゴ、ノイバラ
190	マツオオエダシヤク	<i>Deileptenia ribeata</i>	シヤクガ科	チョウ目			マツ科：カラマツ、アカトドマツ、モミ、ウルシ科：ツタウルシ、バラ科：キイチゴ、ニシキギ科：ツルマサキ、ブナ科：コナラ、ツツジ科：ミヤマキリシマ
191	マルハグルマエダシヤク	<i>Synegia ichinosawana</i>	シヤクガ科	チョウ目			モチノキ科：イヌツグ、アオハダ
192	マルバトビスエダシヤク	<i>Anaboaemia aechmeassa</i>	シヤクガ科	チョウ目			未知（ハルニレ（ニレ科）飼育記録）
193	ミスジツマキリエダシヤク	<i>Xerodes rufescentarius rufescentarius</i>	シヤクガ科	チョウ目			マツ科：マツ、アカマツ、カラマツ、アカトドマツ、スギ科：スギ、ヒノキ科：ハイネズ
194	ミヤマツバメエダシヤク	<i>Thinopteryx delectans</i>	シヤクガ科	チョウ目			アカバサ科：ミズタマソウ
195	ユウマダラエダシヤク	<i>Abraxas miranda miranda</i>	シヤクガ科	チョウ目			マサキ、コマユミ、ツルマサキなどニシシギ科
196	リンゴツノエダシヤク	<i>Phthonosema tendinosarium</i>	シヤクガ科	チョウ目			ヤナギ科、ブナ科：コナラ、クリ、ニレ科、バラ科：リンゴ、ナシ、カエデ科、ツツジ科、キク科
197	タケカレハ	<i>Euthrix albomaculata directa</i>	カレハガ科	チョウ目			イネ科タケ亜科：タケ、イネ科：ササ、クマガサ、ススキ、ヨシ
198	マツカレハ	<i>Dendrolimus spectabilis</i>	カレハガ科	チョウ目			
199	オオクワコモドキ	<i>Oberthueria falcigera</i>	カイコガ科	チョウ目			
200	オオミズアオ	<i>Actias artemis aliena</i>	ヤマムユガ科	チョウ目			バラ科：サククラ、モミジ、ウメ、リンゴ、ナシ、ブナ科：クスギ、コナラ、クリ、カバノキ科：ハンノキ、カバノキ、ツツジ科：アセビ、ミズキ科：ミズキ、ムクロジ科：モミジ類、ミソハギ科：サクロ
201	オナガミズアオ	<i>ctias gnoma gnoma</i>	ヤマムユガ科	チョウ目	NT		一
202	ヒメヤマムユ	<i>Saturnia jonasii jonasii</i>	ヤマムユガ科	チョウ目			ryoukaisimasita
203	ヤマムユ	<i>Antheraea yamamai</i>	ヤマムユガ科	チョウ目			ブナ科：クスギ、コナラ、カシワ、カシ、マデバシイ、クリ、バラ科：ケカマツカ
204	ウンモンズズメ	<i>Callambulyx tatarinovi</i>	スズメガ科	チョウ目			ニレ科：ケヤキ、ハルニレ、アキニレ
205	クルマズズメ	<i>Ampelophaga rubiginosa</i>	スズメガ科	チョウ目			ブドウ科：ツタ、ノブドウ、エビヅル、ユキノシタ科：ノリウツギ、マタタビ科：キウイ
206	セスズズメ	<i>Theretra oldenlandiae</i>	スズメガ科	チョウ目			ブドウ科：ヤブカラシ、ノブドウ、ツリフネソウ科：ホウセンカ、サトイモ科：サトイモ、テンナンショウ、コンニャク、カラスビシヤク、ムサシアブミ、ヒルガオ科：サツマイモ、ミノハギ科：タバコ、コウニベニチヨウジ、アカネ科：フタバムグラ、クササゲ、ツリフネソウ科：ニューギニアインバチエンズ、アカバナ科：ミズタマソウ
207	ピロウドズズメ	<i>Rhagastis mongoliana</i>	スズメガ科	チョウ目			アカネ科：カラマツバ、メギ科：ヘビノボラス、ブドウ科：ツタ、ノブドウ、ヤブカラシ、アカバナ科：オオマツヨイグサ、フクシヤ、ツリフネソウ科：ホウセンカ
208	ホシヒメホウジャク	<i>Neogurelca sangaica himachala</i>	スズメガ科	チョウ目			アカネ科：ヘクソカズラ
209	ホシホウジャク	<i>Macroglossum pyrrothicta</i>	スズメガ科	チョウ目			ヘクソカズラ・アカネ
210	モモスズメ	<i>Marumba gashkewitschii echephron</i>	スズメガ科	チョウ目			バラ科：ウメ、モモ、サククラ、アンズ、スモモ、リンゴ、ナシ、ニワウメ、ヤマブキ、マルメロ、ビワ、カイドウ、ウロミズクラ、

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
							ニシキギ科：ニシキギ、ツグ科：ツグ、スイカスラ科：ハコネウツギ
211	オオエグリシャヤチホコ	<i>Pterostoma gigantinum</i>	シャヤチホコガ科	チヨウ目			マメ科：イヌエンジュ、フジ、ハリエンジュ、ニセアカシア
212	カエデシャヤチホコ	<i>Semidonta biloba</i>	シャヤチホコガ科	チヨウ目			トチノギ科：トチノギ、カエデ科：カジカエデ、ヤマシバカエデ、ウリカエデ、イロハカエデ
213	クビワシヤチホコ	<i>Shaka atrovittatus</i>	シャヤチホコガ科	チヨウ目			カエデ科：カエデ、ツタモミジ、モミジ
214	スエグリシャヤチホコ	<i>Ptilodon hoegi</i>	シャヤチホコガ科	チヨウ目			カエデ科：カエデ類、ムクロジ科：ムクロジ
215	ハイイロシヤチホコ	<i>Microphalera grisea</i>	シャヤチホコガ科	チヨウ目			ミネカエデ、カジカエデ、イロハモミジ（カエデ科）
216	パイバラシロシヤチホコ	<i>Gnethodonta grisescens</i>	シャヤチホコガ科	チヨウ目			
217	モンクシロシヤチホコ	<i>Phalera flarescens</i>	シャヤチホコガ科	チヨウ目			サクラ
218	カシワマイマイ	<i>Lymantria mathura aurora</i>	ドクガ科	チヨウ目			ブナ科：カシワ、コナラ、クスギ、アベマキ、アラカシ、クリ、イタドリ、バラ科：サクラ、リンゴ、カエデ科：イロハモミジ
219	キドクガ	<i>Euproctis piperita</i>	ドクガ科	チヨウ目			ブナ科、カバノキ科、ニレ科、マンサク科、リョウウツ科、エゴノキ科、ツツジ科、カエデ科、マメ科、トウダイグサ科など多食性
220	シロオビドクガ	<i>Numenes albofascia</i>	ドクガ科	チヨウ目			未知
221	スゲオオドクガ	<i>Laelia gigantea</i>	ドクガ科	チヨウ目			イネ科：ササ
222	ドクガ	<i>Artaxa subflava</i>	ドクガ科	チヨウ目			バラ科：サクラ属、バラ属、キイチゴ属、ブナ科コナラ属：アベマキ、カキノキ科：カキノキ、タデ科：イタドリ
223	ニワトコドクガ	<i>Topomesoides jonassii</i>	ドクガ科	チヨウ目			カマツカ、ズミ（バラ科）、ブナ（ブナ科）、ニワトコ（スイカズラ科）
224	ヒメシロモンドクガ	<i>Orgyia thyellina</i>	ドクガ科	チヨウ目			バラ科：リンゴ、ウメ、サクラ、スモモ、クワ科：クワ、ブナ科コナラ属：クスギ、ヤナギ科：ボブ、バラ科、ハンノキ科、マメ科：ダイズ、インゲンマメ、アサ科：ホップ、アオイ科：ハマボウ
225	マイマイガ	<i>Lymantria dispar japonica</i>	ドクガ科	チヨウ目			バラ科：サクラ、リンゴ、ブナ科コナラ属：クスギ、ブナ科コナラ属：アラカシ、アベマキ、クリ、バラ科：ウメ、バラ、ヤナギ科：ヤナギ、ニレ科：ケヤキ、カバノキ科：ハンノキ
226	マメドクガ	<i>Cifuna locuples confusa</i>	ドクガ科	チヨウ目			マメ科：ダイズ、フジ、バラ科：カイドウ、バラ、ニレ科：ケヤキ、ユキノシタ科：ウツギ、ブナ科コナラ属：コナラ、クスギ、アサ科：エノキ
227	アカスジシロコケガ	<i>Cyana hamata hamata</i>	ヒトリガ科	チヨウ目			地衣類・蘚類
228	カノコガ	<i>Amata fortunei</i>	ヒトリガ科	チヨウ目			キク科：タンポポ、ギンギシ、トキサ科：スギナ、マメ科：ツメクサ類、枯葉？
229	キハラゴマダラヒトリ	<i>Spilosoma lubricipedium sangaiicum</i>	ヒトリガ科	チヨウ目			クワ科：クワ、バラ科：サクラ、アブラナ科：野菜、マメ科：マメ類、ダイズ
230	キベリネズミホソバ	<i>Ghonia gigantea gigantea</i>	ヒトリガ科	チヨウ目			地衣類
231	キマエクロホソバ	<i>Ghonia collitoides</i>	ヒトリガ科	チヨウ目			地衣類
232	クビワウスグロホソバ	<i>Macrobrotis staudingeri staudingeri</i>	ヒトリガ科	チヨウ目			地衣類
233	クワゴマラヒトリ	<i>Lemyra imparilis</i>	ヒトリガ科	チヨウ目			ブナ科：クリ、コナラ、ヤナギ科：ヤナギ、ユキノシタ科：ウツギ、スイカスラ科：サンゴジュ、ガマズミ、クワ科：クワ、マメ科：エノドウ
234	ゴマダラベニコケガ	<i>Barsine pulchra leacrita</i>	ヒトリガ科	チヨウ目			蘚類
235	シロヒトリ	<i>Chionarctia nivea</i>	ヒトリガ科	チヨウ目			タデ科：スイバ、イタドリ、ギンギシ、キク科：タンポポ、オオバコ科：オオバコ
236	スジベニコケガ	<i>Barsine striata striata</i>	ヒトリガ科	チヨウ目			地衣類
237	スジモンヒトリ	<i>Spilarctia seriatopunctata seriatopunctata</i>	ヒトリガ科	チヨウ目			クワ科：クワ、ニレ科：ケヤキ、バラ科：サクラ

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
238	ハガタベニコケガ	<i>Barsine aberrans aberrans</i>	ヒトリガ科	チョウ目			地衣類
239	ヒメキノソバ	<i>Eilema cribrata</i>	ヒトリガ科	チョウ目			
240	フタスジヒトリ	<i>Spilarctia bifasciata</i>	ヒトリガ科	チョウ目			クワ
241	ベニシタヒトリ	<i>Rhyparioides nebulosa</i>	ヒトリガ科	チョウ目			オオバコ科：オオバコ、キク科：タンポポ
242	ベニハニコケガ	<i>Miltochrista miniata rosaria</i>	ヒトリガ科	チョウ目			地衣類
243	ホシベニシタヒトリ	<i>Rhyparioides amurensis nipponensis</i>	ヒトリガ科	チョウ目			タデ科：スイバ、ギシギシ
244	ヨツボシソノバ	<i>Lithosia quadra</i>	ヒトリガ科	チョウ目			地衣類・腐植物
245	アゲハモドキ	<i>Epicopeia hainesii</i>	アゲハモドキガ科	チョウ目			
246	クロスジコブガ	<i>Meganola fumosa</i>	コブガ科	チョウ目			クスギ、コナラ、カシワ、クリなどブナ科
247	サラサリンガ	<i>Camptoloma interioratum</i>	コブガ科	チョウ目			クスギ、コナラ、カシワ、クリなどブナ科
248	アカバキリガ	<i>Orthosia carnipennis</i>	ヤガ科	チョウ目			バラ科：サクハラ、ブナ科クスギ、アベマキ、コナラ、カシワ、ニレ科：エノキ
249	アケビコノハ	<i>Eudocima tyrannus</i>	ヤガ科	チョウ目			アケビ科：ムベ、アケビ、ツツラフジ科：アオツツラフジ、メギ科：ヒイラギナテン、メギ、ヘビノボラス、アケビ科：ミツバアケビ、カキノキ科：カキノキ
250	アトジロキリガ	<i>Dioszeghyana mirabilis</i>	ヤガ科	チョウ目			ブナ科：カシワ
251	アミケンモン	<i>Lophonicta confusa</i>	ヤガ科	チョウ目			未知
252	イネトウ	<i>Sesamia inferens</i>	ヤガ科	チョウ目			イネ、トウモロコシなどイネ科
253	ウスアオモンコヤガ	<i>Bryophilina mollicula</i>	ヤガ科	チョウ目			ブナ科：アラカン
254	ウスアイロアツバ	<i>Zanclognatha lilacina</i>	ヤガ科	チョウ目			針葉樹の生葉
255	ウスエグリバ	<i>Calyptra thalictri</i>	ヤガ科	チョウ目			キンボウゲ科：カラマツソウ、ツツラフジ科：アオツツラフジ
256	ウンモンクチバ	<i>Mocis annetta</i>	ヤガ科	チョウ目			マメ科：フジ、ハギ、ニセアカシア、ツツラフジ科：アオツツラフジ、ルマメ、キツネササガ、ダイズ
257	ウンモンツマキリアツバ	<i>Pangrapta perturbans</i>	ヤガ科	チョウ目			モクセイ科：イボタノキ、イボタノキ
258	エゾギクウワバ	<i>Ctenoplusia albostrigata</i>	ヤガ科	チョウ目			エゾギク、ヒメジョオン、アレチノギク、キンセンカなどキク科
259	オオアカキリバ	<i>Rusicada privata</i>	ヤガ科	チョウ目			アオイ科：ムクゲ、フヨウ
260	オオアカマエアツバ	<i>Simplificia nippona</i>	ヤガ科	チョウ目			枯葉
261	オオウスツマカラスヨトウ	<i>Amphipyra erebina</i>	ヤガ科	チョウ目			ブナ科：アラカシ、ニレ科：ケヤキ、バラ科：リンゴ、モモ、スモモ、マメサクラ、ブドウ科：ブドウ、グミ科：アキグミ、モクセイ科：ネズミモチ
262	オオシラホシアツバ	<i>Edessena hamada</i>	ヤガ科	チョウ目			ブナ科：クスギ
263	オオタバコガ	<i>Helicoverpa armigera armigera</i>	ヤガ科	チョウ目			イネ科、ナス科、マメ科、アオイ科、アブラナ科、キク科、ナデシコ科など多科
264	オスグロトモエ	<i>Spiranoma retorta</i>	ヤガ科	チョウ目			マメ科：ネムノキ、アカシア、モリシマアカシア
265	キクキンウワバ	<i>Thysanoplusia intermixta</i>	ヤガ科	チョウ目			
266	キクビゴマケンモン	<i>Moma kolthoffi</i>	ヤガ科	チョウ目			カバノキ科：クマシデ、サロシバ
267	キクビヘメヨトウ	<i>Prometopus flavicollis</i>	ヤガ科	チョウ目			マツ科：カラマツ
268	キシタミドリヤガ	<i>Xestia efflorescens</i>	ヤガ科	チョウ目			未知
269	キトガリキリガ	<i>Telorta edentata</i>	ヤガ科	チョウ目			イロハカエデ
270	キマダラアツバ	<i>Lophomilia polybapta</i>	ヤガ科	チョウ目			ブナ科：クスギ、クリ
271	クロキシヤツバ	<i>Hypena amica</i>	ヤガ科	チョウ目			イラクサ科：ヤブマオ、カラムシ
272	クロクモヤガ	<i>Hermonassa cecilia</i>	ヤガ科	チョウ目			キク科：ハルジオン、タデ科：ギシギシ
273	クロフケンモン	<i>Craniophora jankowskii</i>	ヤガ科	チョウ目			モクセイ科：トネリコ

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
274	コガタキシタバ	<i>Catocala praegnax praegnax</i>	ヤガ科	チョウ目			ブナ科コナラ属；ミズナラ、ナラガシワ、マメ科；ハギ属、フジ属
275	コフサヤガ	<i>Eutelia adalatricoides</i>	ヤガ科	チョウ目			ブナ科；ウバメガシ、クスギ、コナラ、ウルシ科；ヤマウルシ、ハゼ、マシカ科；フウノキ、ウルシ科；ヌルデ、ハゼノキ
276	コブヒガアツバ	<i>Zanclognatha lunalis</i>	ヤガ科	チョウ目			広葉樹の枯葉
277	ゴマケンモン	<i>Moma alpium</i>	ヤガ科	チョウ目			ブナ科；ミズナラ、クスギ、カシワクリ、カバノキ科；シラカンバ
278	シマカラスヨトウ	<i>Amphipyra pyramidea yama</i>	ヤガ科	チョウ目			バラ科；サクラ、ブナ科；クスギ、コナラ、広葉樹
279	シマヨトウ	<i>Eucarta fasciata</i>	ヤガ科	チョウ目			未知
280	シロシタケンモン	<i>Hylonicta hercules</i>	ヤガ科	チョウ目			ニレ科；ハルニレ、ケヤキ、アキニレ
281	シロスジアツバ	<i>Bertula spacoalis</i>	ヤガ科	チョウ目			広葉樹の枯葉
282	シロスジトモエ	<i>Metopta rectifasciata</i>	ヤガ科	チョウ目			ユリ科；サルトリイバラ、シオデ
283	シロフコヤガ	<i>Protodeliote pygarga</i>	ヤガ科	チョウ目			イネ科（ヨローツバ）
284	シロフヒメケンモン	<i>Gerbathodes patipera</i>	ヤガ科	チョウ目			ブナ科；ミズナラ
285	シロマダラヒメヨトウ	<i>Iambia japonica</i>	ヤガ科	チョウ目			未知
286	シロモンオビヨトウ	<i>Athetis lineosa</i>	ヤガ科	チョウ目			キク科；エゾギク・タンポポ類・ヨモギ、タデ科；マムコノシリスグイ・スイバ、ヒルガオ科；ヒルガオの生葉または枯葉
287	シロモンオビヨトウ	<i>Athetis lineosa</i>	ヤガ科	チョウ目			キク科；エゾギク、ヨモギ、タンポポ、ヒルガオ科；ヒルガオ、タデ科
288	シロモンヤガ	<i>Xestia c-nigrum</i>	ヤガ科	チョウ目			オオバコ（オオバコ科）、キク科、ムギ（イネ科）、ジャガイモ（ナス科）、マメ科牧草、ダイズ（マメ科）など多科
289	タイウンキシタバアツバ	<i>Hypena trigonalis</i>	ヤガ科	チョウ目			ヤブマオ・カラムシ・アカツ・ラミー・タイワントリアシ
290	ツマオビアツバ	<i>Zanclognatha griselda</i>	ヤガ科	チョウ目			マツ科；コメツガ、アカマツ、スギ科；スギ
291	トビロトラガ	<i>Sarbanissa subflava</i>	ヤガ科	チョウ目			ブドウ科；ツタ、ヤブカラシ、ブドウ
292	トビフタスジアツバ	<i>Leiosola mollis</i>	ヤガ科	チョウ目			エゴノキ科；エゴノキ
293	ナカオビキリガ	<i>Dryobotodes intermissa</i>	ヤガ科	チョウ目			ブナ科；アバマキ、コナラ、ナラガシワ
294	ネジロコヤガ	<i>Maliattha chalcogramma</i>	ヤガ科	チョウ目			未知
295	ハズルマトモエ（トモエガ）	<i>Spirama helicina</i>	ヤガ科	チョウ目			マメ科；ネムノキ
296	ヒトスジアツバ	<i>Hypena tatorhina</i>	ヤガ科	チョウ目			未知
297	ヒメコブヒガアツバ	<i>Zanclognatha tarsipennalis</i>	ヤガ科	チョウ目			広葉樹の枯葉
298	ヒメトラガ	<i>Asteropetes noctuina</i>	ヤガ科	チョウ目			ブドウ科；ヤマブドウ、サンカクヅル
299	ヒメハナマガリアツバ	<i>Hadennia nakatanii</i>	ヤガ科	チョウ目			未知
300	フクラスズメ	<i>Arcte coerula</i>	ヤガ科	チョウ目			イラクサ科；コアカソ、カラムシ、ヤブマオ、ラセイタソウ、アジサイ科；マルバウツギ、クワ科；カナムグラ、クワ、イラクサ科；ラミー、イラクサ
301	フタオビキヨトウ	<i>Mythimna turca</i>	ヤガ科	チョウ目			イネ科；ヌマガヤ、オギ、ヨシ
302	フタオビユヤガ	<i>Naranga aeneascens</i>	ヤガ科	チョウ目			イネ科；イネ
303	フタスジアツバ	<i>Bertula bistrigata</i>	ヤガ科	チョウ目			コバノイシカグマ科；コバノイシカグマ
304	フタスジヨトウ	<i>Protomiselia bilinea</i>	ヤガ科	チョウ目			ヒノキ科；ヒノキ
305	フニトガリアツバ	<i>Naganoella timandra</i>	ヤガ科	チョウ目			未知
306	ホンドコブヒガアツバ	<i>Zanclognatha curvilinea</i>	ヤガ科	チョウ目			未知
307	マエモンツマキリアツバ	<i>Pangraptia costinotata</i>	ヤガ科	チョウ目			バラ科；サクラ
308	マダラエグリバ	<i>Plusiodonta casta</i>	ヤガ科	チョウ目			ツツラフジ科；アオツツラフジ
309	マルシラホシアツバ	<i>Edessa gentiusalis</i>	ヤガ科	チョウ目			未知
310	モクメクチバ	<i>Perinaenia accipiter</i>	ヤガ科	チョウ目			エノキ（ニレ科）
311	モモイロツマキリコヤガ	<i>Lophoriza pulcherrima</i>	ヤガ科	チョウ目			ユリ科；サルトリイバラ、シオデ

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
312	モンムラサキクチバ	<i>Ercheia umbrosa</i>	ヤガ科	チョウ目			マメ科：フジ、ネムノキ
313	ヤガ科の一種 sp.1	<i>Noctuidae spl.</i>	ヤガ科	チョウ目			
314	ヤマガタアツバ	<i>Bomolocha stygiana</i>	ヤガ科	チョウ目			ユキノシタ科：ウツギ、アジサイ科：マルバウツギ、イラクサ科：アカソ
315	ルリモンクチバ	<i>Lacera procelliosa</i>	ヤガ科	チョウ目			ジャケツイバラ科：ジャケツイバラ
316	アオバセセリ	<i>Choespes benjamini</i>	セセリチョウ科	チョウ目			
317	イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata guttata</i>	セセリチョウ科	チョウ目			イネ科：イネ、イヌムギ、チガヤ、エノコログサ、メヒシバ、ススキ、アズマネガサ、クサヨシ
318	オオチャバネセセリ	<i>Polytremis pellucida</i>	セセリチョウ科	チョウ目			イネ科：ススキ、イネ、アズマネガサ、オカメガサ、ミヤコガサ、クマササ、メダケ、カンチク
319	キマダラセセリ	<i>Potanthus flavus</i>	セセリチョウ科	チョウ目			
320	コチャバネセセリ	<i>Thoressa varia</i>	セセリチョウ科	チョウ目			イネ科：メダケ、ミヤコガサ、アツマザサなど
321	ダイミヨウセセリ	<i>Daimio tethys</i>	セセリチョウ科	チョウ目			ヤマノイモ科：ヤマノイモ、オニドコロ、ツクネイモ、ニガカシユウ
322	チャバネセセリ	<i>Pelopidas mathias</i>	セセリチョウ科	チョウ目			
323	ヒメキマダラセセリ	<i>Ochlodes ochraceus</i>	セセリチョウ科	チョウ目			イネ科：ススキ、チヂミザサ、アシボソ、マカモジグサ、カヤヅリグサ科：ミヤマシラスゲ
324	ホノバセセリ	<i>Isoteinon lamprospilus</i>	セセリチョウ科	チョウ目			
325	ミヤマセセリ	<i>Erymnis montanus</i>	セセリチョウ科	チョウ目			
326	ミヤマチャバネセセリ	<i>Pelopidas jansonis</i>	セセリチョウ科	チョウ目			
327	アゲハ	<i>Papilio xuthus</i>	アゲハチョウ科	チョウ目			ケシ科：ムラサキケマン、エゾエンゴサク、ヤマエンゴサクなど
328	ウスバシロチョウ	<i>Parnassius citrinarius</i>	アゲハチョウ科	チョウ目			ミカン科：コクサギ、サシシヨウ、カラスザンシヨウ、イヌザンシヨウ、ミヤマシキミ、コクサギ
329	オナガアゲハ	<i>Papilio maclentus</i>	アゲハチョウ科	チョウ目			ミカン科：コクサギ、カラスザンシヨウ、キハダ、サシシヨウ、栽培ミカン類
330	カラスアゲハ	<i>Papilio dehaanii</i>	アゲハチョウ科	チョウ目			セリ科：ニンジン、セリ、シシウド、パセリ、ミツバ
331	キアゲハ	<i>Papilio machaon</i>	アゲハチョウ科	チョウ目		絶滅危惧種	
332	ギフチョウ	<i>Luehdorfia japonica</i>	アゲハチョウ科	チョウ目	VU		
333	クロアゲハ	<i>Papilio protenor</i>	アゲハチョウ科	チョウ目			ミカン科：サシシヨウ、カラスザンシヨウ、イヌザンシヨウ、ハマセンダン、栽培ミカン類
334	ジャコウアゲハ	<i>Byasa alcinous</i>	アゲハチョウ科	チョウ目			ウマノスズクサ科
335	ナガサキアゲハ	<i>Papilio memnon</i>	アゲハチョウ科	チョウ目			
336	ナミアゲハ	<i>Papilio xuthus</i>	アゲハチョウ科	チョウ目			ミカン科：ミカン、カラタチ、サシシヨウ、イヌザンシヨウ、カラセンシヨウ、ハマセンダン
337	ミヤマカラアゲハ	<i>Papilio maackii</i>	アゲハチョウ科	チョウ目			ミカン科：キハダ、カラスザンシヨウ、ハマセンダン、コクサギ
338	モンキアゲハ	<i>Papilio nicconicolens helenus</i>	アゲハチョウ科	チョウ目			ミカン科：カラスザンシヨウ、ハマセンダン、カラタチ、ユズ、栽培ミカン類
339	キタキチョウ	<i>Eurema mandarina mandarina</i>	シロチョウ科	チョウ目			メメトキ・クロウメモトキ科：クロウメモトキ・クロウツハラ
340	スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete</i>	シロチョウ科	チョウ目			アブラナ科：タネツケバナやハタザオ、イヌガラシ、ダイコン
341	ツマキチョウ	<i>Anthocharis scolymus</i>	シロチョウ科	チョウ目			
342	モンキチョウ	<i>Colias erate poliographys</i>	シロチョウ科	チョウ目			マメ科：アカツメクサ、シロツメクサ、レンガ、ダイズ、ニセアカシメ
343	モンシロチョウ	<i>Artogeia rapae crucivora</i>	シロチョウ科	チョウ目			アブラナ・キヤバツ・ブロッコリー・ダイコン・カブ
344	ヤマトスジグロシロチョウ	<i>Pieris nesis</i>	シロチョウ科	チョウ目			

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
345	アカタテハ	<i>Vanessa indica</i>	タテハチョウ科	チョウ目			幼虫はイラクサ科：カラムシ・ヤブマオ・クサマオ・イラクサ (草本)、ニレ科：ケヤキ・ハルニレ・オヒヨウ (草本)、成虫は成虫はアザミ・サザンなどの数々の花、カキノキなどの腐果、獣糞や樹液。
346	アサギマダラ	<i>Parantica sita</i>	タテハチョウ科	チョウ目			—
347	アサマイチモンジ	<i>Ladoga glorifica glorifica</i>	タテハチョウ科	チョウ目			スイカズラ科：スイカズラ、タニウズキ、ニシキウツギ、ハコネウツギ、キンギンボク
348	イシガケチョウ	<i>Cyrestis thyodamas</i>	タテハチョウ科	チョウ目			—
349	イチモンジチョウ	<i>Limenitis camilla japonica</i>	タテハチョウ科	チョウ目			スイカズラ科：スイカズラ、タニウツギ、ヤブウツギ、ヒヨウタンボク、ハコネウツギ
350	ウラギンスジヒヨウモン	<i>Argyronome laodice</i>	タテハチョウ科	チョウ目	VU	絶滅危惧 増大種	
351	ウラギンヒヨウモン	<i>Fabriciana adippe pallascens</i>	タテハチョウ科	チョウ目			
352	ウラナミジヤノメ	<i>Ypthima motschulskyi</i>	タテハチョウ科	チョウ目			
353	オオウラギンズジヒヨウモン	<i>Argyronome rursana lysippe</i>	タテハチョウ科	チョウ目			
354	オオウラギンヒヨウモン	<i>Fabriciana nerippe nerippe</i>	タテハチョウ科	チョウ目	CR	絶滅種	スミレ科：スミレ、ノジスミレ、ツボスミレ
355	オオヒカゲ	<i>Ninguta schrenckii</i>	タテハチョウ科	チョウ目			スミレ科：スミレ、ニヨイスミレ、ノジスミレ、ツボスミレ
356	オオムラサキ	<i>Sasakia charonda</i>	タテハチョウ科	チョウ目	NT	絶滅危惧 増大種	
357	キタテハ	<i>Polytonia c-aureum</i>	タテハチョウ科	チョウ目			幼虫：クワ科：カナムグラ
358	キマダラヒカゲの一種	<i>Neope sp.</i>	タテハチョウ科	チョウ目			イネ科：ササ類など
359	クモガタヒヨウモン	<i>Nepargynnus anadromene</i>	タテハチョウ科	チョウ目			
360	クロノマチョウ	<i>Melanitis phedima</i>	タテハチョウ科	チョウ目			
361	クロヒカゲ	<i>Lethe diana</i>	タテハチョウ科	チョウ目			イネ科：メダケ、アズマダケ、ヤダケ、ミヤコザサ、チシマザサ、ネササ、クマザサ
362	クロヒカゲモドキ	<i>Lethe marginalis</i>	タテハチョウ科	チョウ目	EN	絶滅危惧 種	
363	コジャノメ	<i>Mycalasis francisca perdiccas</i>	タテハチョウ科	チョウ目			イネ科：アシボソ、チヂミザサ、ススキ、カヤツリグサ科：カヤツリグサ
364	ゴマダラチョウ	<i>Hestina persimilis japonica</i>	タテハチョウ科	チョウ目			アサ科：エノキ
365	コムシジ	<i>Neptis sappho intermedia</i>	タテハチョウ科	チョウ目			マメ科：クズ、フジ、ニセアカシアハギ、アズキ、タンキリマメ
366	コムラサキ	<i>CalliCARPA dichotoma</i>	タテハチョウ科	チョウ目			ヤナギ科：ネコヤナギ、シダレヤナギ
367	サカハチチョウ	<i>Araschnia burejana strigosa</i>	タテハチョウ科	チョウ目			イラクサ科：アカツ、コアカツ、イラクサ
368	サトキマダラヒカゲ	<i>Neope goschkevitschii</i>	タテハチョウ科	チョウ目			
369	シータテハ	<i>Polytonia c-album</i>	タテハチョウ科	チョウ目			
370	ジャノメチョウ	<i>Minois dryas</i>	タテハチョウ科	チョウ目			ススキ、スズメノカタビラ、ノガリヤスやカヤツリグサ科のヒカゲスグ、シヨウジヨウズグなどイネ科
371	スジボソヤマキチョウ	<i>Gonepteryx aspasia</i>	シロチョウ科	チョウ目			—
372	スミナガシ	<i>Dichorragia nesimachus</i>	タテハチョウ科	チョウ目			アワブキ科：アワブキ、ミヤマハハソ、ヤマビロ
373	ツマゾロヒヨウモン	<i>Argyreus hyperbius</i>	タテハチョウ科	チョウ目			スミレ・パンジー・ピオラ
374	テングチョウ	<i>Libythea celtis</i>	タテハチョウ科	チョウ目			エノキなどニレ科
375	ヒオドシチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas japonica</i>	タテハチョウ科	チョウ目			アサ科：エノキ、エゾエノキ、ハルニレ、アキニレ、ヤナギ科：エゾヤナギ、シロヤナギ、イラレヤナギ
376	ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>	タテハチョウ科	チョウ目			イネ科：メダケ、アズマダケ、ヤダケ、クマザサ、ミヤコザサ

番号	種名	学名	科名	目名	RDB	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
377	ヒメアカタテハ	<i>Vanessa cardui</i>	タテハチョウ科	チョウ目				キク科：ハハコグサ、エゾノキツネアザミ、オオヨモギ、シロヨモギ、ゴボウ、エゾイラクサ ヒメチチコグサ
378	ヒメウラナミジャノメ	<i>Ypthima argus</i>	タテハチョウ科	チョウ目				イネ科：ススキ、チヂミザサ、チガヤ、メヒシバ、カヤツリグサ科：シヨウジョウスゲ
379	ヒメキマダラヒカゲ	<i>Zophoessa callipteris</i>	タテハチョウ科	チョウ目				イネ科：イネ、メヒシバ、チガヤ、ススキ、チヂミザサ、アズマネザサ、カヤツリグサ科：カサスガ、ヒメスガ
380	ヒメジャノメ	<i>Mycalasis gotama fulginia</i>	タテハチョウ科	チョウ目				スミレ科：エゾノタチスボスミレ、タチツボスミレ
381	ミスジチョウ	<i>Neptis philura</i>	タテハチョウ科	チョウ目				スミレ科：タチツボスミレ
382	ミドリヒヨウモン	<i>Argynnis paphia tsushimana</i>	タテハチョウ科	チョウ目				ユリ科：サルトリイバラ、ホトトギス
383	メスグロヒヨウモン	<i>Damora sagana liane</i>	タテハチョウ科	チョウ目				マメ科：フジ、ヤマフジ、クズ、クララ、ミヤギノハギ、ヤマハギなどの蕾、実、新芽
384	ヤマキマダラヒカゲ	<i>Neope nipponica</i>	タテハチョウ科	チョウ目				エンドウ、ソラマメ・アズキ・クズ・ハギ類などの芽・花・蕾・子実
385	ルリタテハ	<i>Kaniska canace</i>	タテハチョウ科	チョウ目				
386	アイノミドリシジミ	<i>Chrysocephyrus brilliantinus</i>	シジミチョウ科	チョウ目				
387	ウラキンシジミ	<i>Ussuriana stygiana</i>	シジミチョウ科	チョウ目				
388	ウラギンシジミ	<i>Curetis acuta paracuta</i>	シジミチョウ科	チョウ目				
389	ウラクロシジミ	<i>Iratsume orsedice orsedice</i>	シジミチョウ科	チョウ目				
390	ウラナミアカシジミ	<i>Japonica saepestriata</i>	シジミチョウ科	チョウ目				
391	ウラナミシジミ	<i>Lampides boeticus</i>	シジミチョウ科	チョウ目				
392	ウラムシシジミ	<i>Wagimo signatus</i>	シジミチョウ科	チョウ目				
393	エゾミドリシジミ	<i>Favonius jezoensis</i>	シジミチョウ科	チョウ目				
394	オオミドリシジミ	<i>Favonius orientalis</i>	シジミチョウ科	チョウ目				
395	キマダラルリツバメ	<i>Spindasis takanonis</i>	シジミチョウ科	チョウ目	NT		絶滅危機増大種	幼虫は主にマツ類、サクラ、キリなどの古木に発生する。卵から孵化すると幼虫は古木にあるハリブトシリアゲアリの巣に入る。この共生アリによって口移しに動物質の餌を与えられるとともに外敵から守られる幼虫越冬をへて蛹化まで育ててもらふ。代わりにこの幼虫は背中の蜜腺から共生アリに蜜を与える。
396	キリシマミドリシジミ	<i>Thermocephyrus ataxus</i>	シジミチョウ科	チョウ目				
397	クロシジミ	<i>Niphanda fusca</i>	シジミチョウ科	チョウ目	EN		絶滅危機増大種	
398	ゴイシシジミ	<i>Taraka hamada</i>	シジミチョウ科	チョウ目				
399	コツバメ	<i>Callophrys ferrea</i>	シジミチョウ科	チョウ目				幼虫：ツツジ科：アセビ、ヤマツツジ、スイカズラ科：ガマズミ、バラ科：ボケ、ユキヤナギ、ユキノシタ科：アカシヨウマ
400	スギタニルリシジミ	<i>Celastrina sugitanii</i>	シジミチョウ科	チョウ目				トチノキ科：トチノキ(花)
401	ツバメシジミ	<i>Everes argiades argiades</i>	シジミチョウ科	チョウ目				マメ科：シロツメクサ、カラスノエンドウ、レンガソウ、ナンテンハギ、ヤマハギ、コマツナギ
402	トラフシジミ	<i>Rapala arata arata</i>	シジミチョウ科	チョウ目				マメ科：フジ、ニセアカシア、クズ、アジサイ科：ウツギ、バラ科：ノイバラ、ツツジ科：ナツハゼ、ミズキ科：ミズキ、その他種々の植物の花、つぼみ、若い果実
403	ヒサマツミドリシジミ	<i>Chrysocephyrus hisamatsusanus</i>	シジミチョウ科	チョウ目				
404	フジミドリシジミ	<i>Sibatanocephyrus fujiisanus</i>	シジミチョウ科	チョウ目				
405	ベニシジミ	<i>Lycæna phlaeas daimio</i>	シジミチョウ科	チョウ目				スイバ・ヒメスイバ・キシギシ・エゾノキシギシ・ノダイオウなど
406	ベニシジミ	<i>Lycæna phlaeas</i>	シジミチョウ科	チョウ目				スイバ・ヒメスイバ・キシギシ・エゾノキシギシ・ノダイオウなど
407	ミズイロオナガシジミ	<i>Antigius atilia</i>	シジミチョウ科	チョウ目				
408	ミドリシジミ	<i>Neozephyrus japonicus</i>	シジミチョウ科	チョウ目				

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
409	ミヤマカラスジジミ	<i>Strymonidia mera</i>	シジミチョウ科	チョウ目		希少種	
410	ムラサキツバメ	<i>Narathura bazalus</i>	シジミチョウ科	チョウ目			
411	ヤマトシジミ	<i>Pseudozizeeria maha</i>	シジミチョウ科	チョウ目			カタバミ
412	ルーマシミドリシジミ	<i>Panchala ganesa</i>	シジミチョウ科	チョウ目			マメ科：フジ、ヤマハギ、クララ、クズ、ミズキ科：ミズキ、タデ科：イタドリ、オオイタドリ、バラ科、シソ科などの花蕾 幼虫：腐葉土、木の腐腐物
413	ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus</i>	シジミチョウ科	チョウ目			幼虫：朽木、成虫：花粉
414	クロツヤハダコメツキ	<i>Hemicrepidius secessus</i>	コメツキムシ科	コウチュウ目			幼虫：朽木、成虫：花粉
415	アオカミキリモドキ	<i>Xanthochroa waterhousei</i>	カミキリモドキ科	コウチュウ目			チョウ目：多科の幼虫、ウンカ・ヨコバイなどの草上性昆虫類
416	アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i>	オサムシ科	コウチュウ目			小型昆虫など
417	アオジョウカイ	<i>Themus cyanipennis</i>	ジョウカイボン科	コウチュウ目			幼虫：朽木・落葉など腐植物、成虫：花蜜
418	アオハナムグリ	<i>Eucetoma roelofsi</i>	コガネムシ科	コウチュウ目			
419	アオアシオオクシコメツキ	<i>Ampedus japonicus japonicus</i>	コメツキムシ科	コウチュウ目			
420	アオアシオオコメツキ	<i>Ampedus japonicus japonicus</i>	コメツキムシ科	コウチュウ目			
421	アカガネアオハムシダマシ	<i>Arthromacra decora</i>	ゴミムシダマシ科	コウチュウ目			
422	アカクビヒメゴモクムシ	<i>Bradycellus laeticolor</i>	オサムシ科	コウチュウ目			地上を歩き回って小昆虫やカタツムリなどの小動物を捕食する。また新鮮な死肉も摂食。
423	アカホシテントウ	<i>Chilocorus rubidus</i>	テントウムシ科	コウチュウ目			幼虫・成虫：カイガラムシ類の幼虫
424	アキタクロナガオサムシ	<i>Apotomopterus porrecticollis porrecticollis</i>	オサムシ科	コウチュウ目			昆虫類などの死骸
425	アトボシアオゴミムシ	<i>Chlaenius naeviger</i>	オサムシ科	コウチュウ目			タデ科：イタドリ、スイバ、ギシギシ
426	イタドリハムシ	<i>Gallerucida bifasciata</i>	ハムシ科	コウチュウ目			
427	ウスバカミキリ	<i>Megopis sinica</i>	カミキリムシ科	コウチュウ目			
428	ウバマタムシ	<i>Chalcophora japonica</i>	タマムシ科	コウチュウ目			幼虫：マツ科の朽木の材部、成虫：花・花粉・花蜜
429	ウリハムシ	<i>Aulacophora femoralis</i>	ハムシ科	コウチュウ目			幼虫は根部、成虫はウリ科：キユウウリ・カボチャ・スイカ・ウリの葉など
430	エグリバナヒゲナガゾウムシ (エグリヒゲナガゾウムシ?)	<i>Autotropis basipennis</i>	ゾウムシ科	コウチュウ目			枯木：ニレ科：ケヤキなど
431	オオオサムシ	<i>Carabus dehaanii</i>	オサムシ科	コウチュウ目			ミミズ、ケバエ、ガの幼虫、カタツムリ、落ち葉
432	オオオボタル	<i>Lucidina accensa</i>	ホタル科	コウチュウ目			幼虫は肉食性で、朽ち木、放置木にいる小昆虫などを捕食
433	オオスジコガネ	<i>Mimela costata</i>	コガネムシ科	コウチュウ目			
434	オオセンチコガネ	<i>Geotrupes auratus</i>	コガネムシ科	コウチュウ目		分布上重要種	動物の糞
435	オオゾウムシ	<i>Sipalinus gigas</i>	オサゾウムシ科	コウチュウ目			針葉樹：マツ、スギ、ヒノキ、広葉樹などの枯木、切り株、伐倒丸太
436	オオツヤハダコメツキ	<i>Stenagostus umbratilis</i>	コメツキムシ科	コウチュウ目			幼虫：カミキリムシの幼虫、成虫：草木の葉や花
437	オオニジュウヤホシテントウ	<i>Epilachna vigintioctomaculata</i>	テントウムシ科	コウチュウ目			幼虫・成虫：ナス科：ジャガイモ、ナス
438	オオメキバナハムシダマシ (ハムシダマシ)	<i>Lagria rufipennis</i>	ハムシダマシ科	コウチュウ目			幼虫：朽木、落ち葉などの腐植物
439	オジョアミナガゾウムシ	<i>Mesalcidodes trifidus</i>	ゾウムシ科	コウチュウ目			マメ科：クズ(幼虫：虫こぶ状内)
440	オトシバ(ナミオトシバミ)	<i>Apoderus jekeli</i>	オトシバミ科	コウチュウ目			ブナ科：クスギ、クリ、コナラ、カバノキ科：ハンノキ、シラカバ
441	オボタル	<i>Lucidina biplagiata</i>	ホタル科	コウチュウ目			幼虫：ミミズ(飼育)
442	カクムネベニボタル	<i>Lyponia quadricollis</i>	ベニボタル科	コウチュウ目			幼虫：朽木、成虫：草木の葉、花、花蜜
443	カタクリハムシ	<i>Sangariola punctatostriata</i>	ハムシ科	コウチュウ目			ユリ科：ヤマユリ、ウバユリ、オニユリ、カタクリ
444	カツオゾウムシ	<i>Lixus impressiventris</i>	ゾウムシ科	コウチュウ目			タデ科：ミゾソバ、イタドリなど茎内部を食害

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
445	カミキリモドキ科の一種	<i>Oedemeridae sp.</i>	カミキリモドキ科	コウチュウ目			
446	カメノコテントウ	<i>Aiolocaria hexaspilota</i>	テントウムシ科	コウチュウ目			幼虫・成虫：クルミハムシ、ヤナギハムシ、ドロノキノハムシなどの幼虫
447	キイロカミキリモドキ	<i>Naerdes hilleri hilleri</i>	カミキリモドキ科	コウチュウ目			幼虫：針葉樹の朽木、成虫：花蜜
448	キイロゲンセイ	<i>Zonitis japonica</i>	ツチハンミンヨウ科	コウチュウ目			幼虫：ハナバチ科；オオハキバチの巣に寄生、成虫：ミカン科；イヌザンショウの花
449	キイロタマノミハムシ	<i>Sphaeroderma unicolor</i>	ハムシ科	コウチュウ目			アケビ科；アケビ、ミツバアケビ、ボタンズル
450	キクピアオハムシ	<i>Agelasa nigriceps</i>	ハムシ科	コウチュウ目			マタタビ科；サルナシ、アジサイ科；ノリウツギ
451	キバネカミキリモドキ	<i>Xanthochroa luteipennis</i>	カミキリモドキ科	コウチュウ目			成虫：花蜜、花粉
452	キシカミキリ	<i>Psacotha hilaris hilaris</i>	カミキリムシ科	コウチュウ目			幼虫：クワ科；クワ、イチジク、ミカン科；柑橘類、成虫：クワ科；クワ、イチジク
453	キマダカラミキリ	<i>Aeolesthes chrysothrix</i>	カミキリムシ科	コウチュウ目			
454	キマワリ	<i>Plesiophthalmus nigrocyaneus</i>	ゴミムシダマシ科	コウチュウ目			幼虫：朽皮が進んだ柔らかい朽木。
455	キョウトアオハナムグリ	<i>Protaetia (Nipponprotaetia) lenzi</i>	コガネムシ科	コウチュウ目	要注目種		幼虫：朽木・落葉など腐植物、成虫：花蜜
456	キンイロジョウカイ	<i>Themus episcopalus</i>	ジョウカイボン科	コウチュウ目			幼虫：昆虫など小動物、成虫：小型昆虫
457	クルミハムシ	<i>Gastrolina depressa</i>	ハムシ科	コウチュウ目			クルミ科；オニグルミ、サワグルミ
458	クロウリハムシ	<i>Aulacophora nigripennis</i>	ハムシ科	コウチュウ目			ウリ科；カラスウリ、ウリ、マメ科；ダイズ
459	クロカミキリ	<i>Spondylis buprestoides</i>	カミキリムシ科	コウチュウ目			マツ科；マツ、ヒノキ科；スギ、ヒノキなどの材部
460	クロコガネ	<i>Holotrichia kiatonensis</i>	コガネムシ科	コウチュウ目			幼虫：草木・樹木の根、成虫：ブナ科；クスギなど広葉樹の葉
461	クロツヤハダコメツキ	<i>Hemicrepidius secessus</i>	コメツキムシ科	コウチュウ目			幼虫：腐葉土、木の腐腐物
462	クロツヤヒゲナガハナムミ	<i>Anchytetis monticola</i>	ナガハナムミ科	コウチュウ目			未知
463	クロナガオサムシ	<i>Carabus procerulus</i>	オサムシ科	コウチュウ目			ミミズ、ケバエ、ガの幼虫、カタツムリ、落ち葉
464	クロハナコメツキ	<i>Cardiophorus pinguis</i>	コメツキムシ科	コウチュウ目			成虫：柑橘類・アザミの花粉・新芽の分泌液、アカメガシワの葉の蜜腺、アブラムシの甘露
465	ケブカトゲアシヒゲボンゾウムシ	<i>Phyllobius (Odontophyllobius) armatus</i>	ゾウムシ科	コウチュウ目			コナラ
466	ゲンジボタル	<i>Luciola cruciata</i>	ホタル科	コウチュウ目			幼虫：カワニナ科；巻貝のカワニナ
467	コアオハナムグリ	<i>Oxyctonia jucunda</i>	コガネムシ科	コウチュウ目			幼虫：腐植物、成虫：マツ科
468	コウヤボンハナカミキリ	<i>Strangalia koreansis</i>	カミキリムシ科	コウチュウ目			
469	コクロナガオサムシ	<i>Carabus arboreus</i>	オサムシ科	コウチュウ目			
470	コクロガタ	<i>Dorcus rectus</i>	クロガタムシ科	コウチュウ目			ミミズ、ケバエ、ガの幼虫、カタツムリ、落ち葉
471	コニロハンミンヨウ	<i>Cicindela transbaicalica</i>	ハンミンヨウ科	コウチュウ目			成虫：昆虫類、昆虫の死骸、幼虫：地面に穴を作り、近づいたアリなどを穴から捕食
472	コフキコガネ	<i>Melolontha japonica</i>	コガネムシ科	コウチュウ目			幼虫：ブナ科；クスギ、コナラ、ミズナラ、カシ類、シイ類、バラ科；サクラ類、アサ科；エノキ、ニレ科；ケヤキなどの広葉樹の根、成虫：ブナ科；コナラ属；クスギ、コナラ、ミズナラ、カシ類、クリなどの広葉樹の葉
473	コブヒゲボンゾウムシ	<i>Phyllobius (Nipponophyllobius) picipes</i>	ゾウムシ科	コウチュウ目			幼虫：食植性/根、各種広葉樹の髭根を食べる。
474	ゴミムシダマシ科の一種 sp.1	<i>Tenebrionidae sp.1</i>	ゴミムシダマシ科	コウチュウ目			成虫：食植性/葉、広食性。各種広葉樹。
475	コメツキダマシ科の一種	<i>Eucnemidae sp.</i>	コメツキダマシ科	コウチュウ目			腐植物、菌類または地衣類やコケなどを食するものが多い。
476	ジョウカイボン	<i>Lycocerus suturellus</i>	ジョウカイボン科	コウチュウ目			
477	シラホシカミキリ	<i>Glenea relicta relicta</i>	カミキリムシ科	コウチュウ目			幼虫：広葉樹の材部；クルミミミ科；サワグルミ、オニグルミなど、成虫：植物の葉・蜜、アジサイ類（タマアジサイ）、ガマズミ類（スイカ

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
							ズラ科)、ブドウ科(ノブドウ)、マタタビ科(サルナシ)などの 広葉樹の葉脈とその近くを繭状に食べる
478	シロナガカミキリモドキ (シロナガカミキリモドキ?)	<i>Xanthochroa caudata</i>	カミキリモドキ科	コウチュウ目			幼虫：針葉樹の朽木、成虫：花蜜
479	シロコブゾウムシ	<i>Episomus turritus turritus</i>	ゾウムシ科	コウチュウ目			マメ科：クズ、ハギ、ニセアカシア、フジ
480	スジコガネ	<i>Anomala testaceipes</i>	コガネムシ科	コウチュウ目			幼虫：草木の根、成虫：イネ科；シバ類、タデ科；イタドリなどの 葉
481	セマダラコガネ	<i>Anomala orientalis</i>	コガネムシ科	コウチュウ目			幼虫：イネ科；タケ類(マダケ、モウソウダケ)の材部、成虫：池 か；タケ類
482	センチコガネ	<i>Phelotrupes laevistriatus</i>	センチコガネ科	コウチュウ目			キク科；アザミ
483	タケトラカミキリ	<i>Chlorophorus annularis</i>	カミキリムシ科	コウチュウ目			幼虫：草木の根、成虫：ブドウ科；ブドウ、バラ科；ウメ、イチゴ、 マメ科；エダマメ、サヤインゲン、ヒルガオ科；サツマイモなどの 葉・花弁
484	タマゴゾウムシ	<i>Dyscerus orientalis</i>	ゾウムシ科	コウチュウ目			幼虫・成虫：ウリ科；アマチャズル、カラスウリ
485	ツヤコガネ	<i>Anomala lucens</i>	コガネムシ科	コウチュウ目			幼虫；イチイ科；イチイなど針葉樹、ツツジ科；ツツジなど落葉樹 のなど草木の根、成虫：広葉樹の葉
486	ドウガネブイブイ	<i>Anomala cuprea</i>	コガネムシ科	コウチュウ目			アブラムシ類やハダニ類など小動物
487	トゲヒゲトラカミキリ	<i>Demonax transilis</i>	カミキリムシ科	コウチュウ目			幼虫・成虫；ウリ科；アブラムシ類
488	トホシテントウ	<i>Epilachna admirabilis</i>	テントウムシ科	コウチュウ目			幼虫；イチイ科；イチイなど針葉樹、ツツジ科；ツツジなど落葉樹 のなど草木の根、成虫：広葉樹の葉
489	ナガチャコガネ	<i>Heptophylla picea</i>	コガネムシ科	コウチュウ目			アブラムシ類やハダニ類など小動物
490	ナナホシテントウ	<i>Coccinella septempunctata</i>	テントウムシ科	コウチュウ目			幼虫・成虫；アブラムシ類
491	ナミテントウ	<i>Harmonia axyridis</i>	テントウムシ科	コウチュウ目			クズギ、コナラ、カシワ
492	ナラルリオトシブミ	<i>Euops konoii</i>	オトシブミ科	コウチュウ目			幼虫・成虫；ナス科；ジャガイモ、ナス、ウリ科；ニガウリ
493	ニジュウヤホシテントウ	<i>Henosepilachna vigintioctopunctata</i>	テントウムシ科	コウチュウ目			
494	ヌノビキオサムシ	<i>Carabus iwawakianus narukawai</i>	オサムシ科	コウチュウ目			
495	ノコギリカミキリ	<i>Prionus insularis insularis</i>	カミキリムシ科	コウチュウ目			幼虫；マツ類・スギなど針葉樹の切株・根、成虫：樹皮や樹液
496	ハスジカブゾウムシ	<i>Lixus acutipennis</i>	ゾウムシ科	コウチュウ目			キク科；キク類、ヨモギ、アザミ
497	ハンミョウ	<i>Cicindela japonica</i>	オサムシ科	コウチュウ目			昆虫類
498	ヒガシマラムネジョウカイ	<i>Prothemus reini</i>	ジョウカイボソ科	コウチュウ目			小型昆虫など
499	ヒメオサムシ	<i>Carabus japonicus</i>	オサムシ科	コウチュウ目			ミミズ、ケバエ、ガの幼虫、カタツムリ、落ち葉
500	ヒメクロオトシブミ	<i>Apoderus erythrogaster</i>	オトシブミ科	コウチュウ目			ブナ科；クズギ、コナラ、バラ科；バラ・フジ
501	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i>	コガネムシ科	コウチュウ目			幼虫；地中で植物(芝や農作物)の根、成虫：マメ類、ブドウ、ク リなどの葉
502	ヒメコブオトシブミ	<i>Phymatopoderus parens</i>	オトシブミ科	コウチュウ目			イラクサ科；カラムシ、コアカソ
503	ヒメスジコガネ	<i>Mimela flavilabris</i>	コガネムシ科	コウチュウ目			幼虫；草木の根、成虫；タデ科；イタドリ、ブドウ科；ノブドウ、 ハンノキ科；ヤマハンノキなどの広葉樹の葉
504	ヒメトラハナムグリ	<i>Lasioleptis succinctus</i>	コガネムシ科	コウチュウ目			成虫；蜜・花粉、幼虫；朽ち木
505	ヒメヒゲナガカミキリ	<i>Monoctonus subfasciatus</i>	カミキリムシ科	コウチュウ目			幼虫；草木の根、成虫；キク科；タンポポ科、ハルジオン、ヒメジョ オン、マメ科；カラスノエンドウ多科の花粉・葉
506	ヒメビロウドコガネ	<i>Maladera orientalis</i>	コガネムシ科	コウチュウ目			クラコ科；アコウ、ガジュエマル・シマクワ、トウダイグサ科；アカメ ガシワ
507	フタモンサビカミキリ	<i>Ropica caenosa</i>	カミキリムシ科	コウチュウ目			ブドウ科；ブドウ、エビヅル
508	ブトウハマキチョウキリ	<i>Aspidobyciscus lacunipennis</i>	オトシブミ科	コウチュウ目			モノアラガイ科；モノアラガイ
509	ヘイケボタル	<i>Aquatica lateralis</i>	ホタル科	コウチュウ目			要注目種

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
510	ヘリグロリンゴカミキリ	<i>Nupserha marginella</i>	カミキリムシ科	コウチュウ目			幼虫：キク科などの茎；ヨモギ類、アザミ類、ヒヨドリバナ成虫；キク科の葉；アザミ類
511	ホソカクコウムシ	<i>Propylea japonica</i>	カッコウムシ科	コウチュウ目			幼虫：朽ち木内に穿孔して住み、朽木の中にある他の甲虫の幼虫を捕食すると考えられる。成虫：朽木、花、キノコなどにいる小昆虫を捕食すると考えられる。
512	ホタルモドキ亜科の一種	<i>Drilonius sp. I</i>	ホタルモドキ科	コウチュウ目			未知
513	マイマイカブリ	<i>Damastr blaptoides</i>	オサムシ科	コウチュウ目			
514	マメコガネ	<i>Popillia japonica</i>	コガネムシ科	コウチュウ目			マメ科；クス・ダイズ、ブナ科；クスギ・アベマキ・コナラ、ヤナギ科；シダレヤナギ
515	マルガタビロウドコガネ	<i>Maladera secreta</i>	コガネムシ科	コウチュウ目			成虫：草木の葉、幼虫：芝生の根
516	マルムネジヨウカイ	<i>Prothemus ciustanus</i>	ジヨウカイボン科	コウチュウ目			幼虫：昆虫など小動物、成虫：小型昆虫
517	ミヤマカミキリ	<i>Mallambyx raddai</i>	カミキリムシ科	コウチュウ目			幼虫：ブナ科・クワ科；コナラ、クスギ、イチジクなどの生木、成虫：ブナ科；クスギ、コナラなどの樹液
518	ミヤマクワガタ	<i>Lucanus maculifemoratus</i>	クワガタムシ科	コウチュウ目			幼虫：広葉樹の朽木、成虫：ブナ科；クスギ、コナラ、ミズナラ、ヤナギ科；ヤナギ、ニレ科；ハルニレ、ムクロジ科；イタヤカエデ、カバノキ科；シラカバなどの樹液
519	ムネアカクワジョウカイ	<i>Cantharis adusticollis</i>	ジョウカイボン科	コウチュウ目			小昆虫
520	ムネクリイロボタル	<i>Cyphonocerus ruficollis</i>	ボタル科	コウチュウ目			
521	ヤコンオサムシ	<i>Carabus yaconinus yaconinus</i>	オサムシ科	コウチュウ目			
522	ヤマイモハムシ	<i>Lema honorata</i>	ハムシ科	コウチュウ目			ヤマノイモ科；ヤマノイモ、オニドコロ
523	ヤマサシオサムシ	<i>Carabus maiyasanus</i>	オサムシ科	コウチュウ目			
524	ヤマトアザミテントウ (コブオオニジウヤホシテントウ)	<i>Epilachna niponica</i>	テントウムシ科	コウチュウ目			幼虫・成虫：キク科；アザミ類
525	ヤマトオサムシ	<i>Carabus yamato</i>	オサムシ科	コウチュウ目			
526	ヤマトオサムシダマシ	<i>Blaps japonensis</i>	ゴミムシダマシ科	コウチュウ目	NT		米糠・野菜
527	ヨツズジハナカミキリ	<i>Leptura ochraceofasciata ochraceofasciata</i>	カミキリムシ科	コウチュウ目			成虫は樹液・花粉、幼虫は針葉樹の倒木（朽木）
528	ヨツボシハムシ	<i>Paridae quadripilgata</i>	ハムシ科	コウチュウ目			ウリ科；カラスウリ
529	リンゴカミキリ	<i>Oberia japonica</i>	カミキリムシ科	コウチュウ目			バラ科；ソメイヨシノ、ヤマザクラ、ナシ
530	ルリカミキリ	<i>Bacchisa (Bacchisa) fortunei japonica</i>	カミキリムシ科	コウチュウ目			バラ科各種の生木；ナシ、カマツカ、ボケ、ヒメリンゴ
531	ルリツヤヒメヤマワリモドキ	<i>Simalura coerulea</i>	ゴミムシダマシ科	コウチュウ目			
532	オオスズメバチ	<i>Vespa mandarinia japonica</i>	スズメバチ科	ハチ目			幼虫：動物食（成虫から与えられる噛み砕いた昆虫類、クモ類、カエル・ヘビなど死体） 成虫：クスギ、コナラ、アベマキなどの樹液、カキ、ブドウなどの熟果など。
533	キイロスズメバチ	<i>Vespa similima xanthoptera</i>	スズメバチ科	ハチ目			幼虫：動物食（成虫から与えられる噛み砕いた昆虫類、クモ類、カエル・ヘビなど死体） 成虫：クスギ、コナラ、アベマキなどの樹液、カキ、ブドウなどの熟果など。
534	クロスズメバチ	<i>Vespula flaviceps</i>	スズメバチ科	ハチ目			幼虫：成虫が鱗翅目の幼虫、ハエ、アブなどの小型の昆虫やクモなどを狩り与える。
535	コガタスズメバチ	<i>Vespa analis</i>	スズメバチ科	ハチ目			ハエ目；ハエ、アブ、ハチ目；アシナガバチ類、コガネムシ類の小型甲虫、チョウ目；幼虫、クモ類
536	ヒメスズメバチ	<i>Vespa ducalis</i>	スズメバチ科	ハチ目			アシナガバチ類の幼虫・蛹
537	キボシアシナガバチ	<i>Polistes nipponensis</i>	スズメバチ科	ハチ目			幼虫：チョウ目、コウチュウ目；ハムシの幼虫
538	コアシナガバチ	<i>Polistes snelleni</i>	スズメバチ科	ハチ目			幼虫：チョウ目、コウチュウ目；ハムシの幼虫

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
539	ムモンホニアシナガバチ	<i>Parapolybia indica</i>	スズメバチ科	ハチ目			幼虫：チョウ目目, コウチュウ目目：ハムシの幼虫
540	ヤマトアシナガバチ	<i>Polistes japonicus</i>	スズメバチ科	ハチ目	DD		幼虫：チョウ目目, コウチュウ目目：ハムシの幼虫
541	オオフタオビドロバチ	<i>Anterhynchium flavomarginatum</i>	スズメバチ科	ハチ目			幼虫：チョウ目目：ハマキガ科, ツトガ科, コウチュウ目目：ハムシの幼虫
542	スズバチ	<i>Eumenes decorata</i>	スズメバチ科	ハチ目			昆虫類
543	ミカドトククバチ	<i>Eumenes micado</i>	スズメバチ科	ハチ目			幼虫：チョウ目目, コウチュウ目目：ハムシの幼虫
544	ヤマトハムシドロバチ	<i>Symmorphus apiciornatus</i>	スズメバチ科	ハチ目			幼虫：ハムシ科：フジハムシの幼虫
545	ニホンミツバチ	<i>Apis cerana japonica</i>	ミツバチ科	ハチ目			各種の花蜜と花粉
546	オオマルハナバチ	<i>Bombus hypocrita</i>	ミツバチ科	ハチ目			各種の花蜜・蜜
547	クロマルハナバチ	<i>Bombus ignitus</i>	ミツバチ科	ハチ目	NT	希少種	成虫：各種花蜜
548	トラマルハナバチ	<i>Bombus diversus</i>	ミツバチ科	ハチ目			各種の花蜜・花粉
549	ヤヨイヒメハナバチ	<i>Andrena hebes</i>	ミツバチ科	ハチ目			成虫：アブラナ科：ハコバベ、オオバコ科：オオイヌノフグリ（花）
550	クマバチ	<i>Xylocopa latreille</i>	ミツバチ科	ハチ目			
551	アメバチ亜科の一種 sp.1	<i>Ophioninae sp.1</i>	ヒメバチ科	ハチ目			メス成虫が膜翅目、甲虫目、鱗翅目、双翅目などの幼虫・蛹、クモの成体や卵囊などに産卵し、幼虫はそれらに捕食寄生。
552	コンボウアメバチ	<i>Habronyx insidiator</i>	ヒメバチ科	ハチ目			ヤマメユガ科：ヤヤヤユ、クスサンなどの幼虫に寄生
553	ヒメバチ科の一種 sp.1	<i>Ichneumonidae sp.1</i>	ヒメバチ科	ハチ目			鱗翅目幼虫・蛹など
554	ヒメバチ科の一種 sp.2	<i>Ichneumonidae sp.2</i>	ヒメバチ科	ハチ目			鱗翅目幼虫・蛹など
555	ベッコウアメバチモドキ	<i>Habronyx insidiator</i>	ヒメバチ科	ハチ目			ヤマメユガ科：ヤヤヤユなどの幼虫に寄生
556	ムラサキメンガタヒメバチ	<i>Metopius citratus (Ceratiopus)</i>	ヒメバチ科	ハチ目			成虫：花蜜、花粉
557	ハラナガツツバチ	<i>Megacampsomeris schulthessi</i>	ツツバチ科	ハチ目			幼虫：コガネムシ類の幼虫, 成虫：花粉, 花蜜
558	オオハキリバチ	<i>Megachile sculpturalis</i>	ハキリバチ科	ハチ目			マメ科：クズ, キク科：アザミ, アオイ科：アオギリ, ミカン科：カラスザンショウ, モクセイ科：トウネズミモチなどの花粉・花蜜など
559	ツルガハキリバチ (バラハキリバチモドキ)	<i>Megachile tsurugensis</i>	ハキリバチ科	ハチ目			マメ科：ハギ
560	オオモンクロクモバチ	<i>Anoplius samariensis</i>	クモバチ科	ハチ目			成虫：各種の花蜜。幼虫：成虫がアシダカグモなどの大型のクモ類を狩って産卵し、幼虫の餌にする。穴を掘って餌を埋める。
561	クリタマバチ	<i>Dryocosmus kuriphilus</i>	タマバチ科	ハチ目			
562	ナラハウラシロタマバチ	<i>Cynipidae sp.</i>	タマバチ科	ハチ目			ブナ科：コナラ, カシワ
563	ナラハウラシロタマフシ	—	タマバチ科	ハチ目			
564	イワガラミハバチ	<i>Perineura pictipennis</i>	ハバチ科	ハチ目			アジサイ科：イワガラミ
565	ゼクラヒラタハバチ	<i>Neurotoma iridescens</i>	ハバチ科	ハチ目			バラ科：サクラ
566	ゼンマイハバチ	<i>Strongylogaster osmundae</i>	ハバチ科	ハチ目			ゼンマイ科：ゼンマイ
567	ニホンカブラバチ(カブラハバチ)	<i>Athalia japonica</i>	ハバチ科	ハチ目			アブラナ科：ダイコン, ハクサイ, カブ, キャベツなど
568	ハバチ亜科の一種 <i>Perineura sp.1</i>	<i>Perineura sp.1</i>	ハバチ科	ハチ目			
569	ハバチ科 sp.1	<i>Tenthredinidae sp.1</i>	ハバチ科	ハチ目			
570	ハバチ科 sp.2	<i>Tenthredinidae sp.2</i>	ハバチ科	ハチ目			
571	ハバチ科 sp.3	<i>Tenthredinidae sp.3</i>	ハバチ科	ハチ目			
572	マルハバチ	<i>Bombus ignitus</i>	ハバチ科	ハチ目			
573	ルリチュウウレング	<i>Arge similis</i>	ミフシハバチ科	ハチ目			ツツジ科：サツキ・ヤマツツジ・キリシマツツジ・オオムラサキ・リュウキユウツツジ・ヨドガワツツジ

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
574	クロオオアアリ	<i>Camponotus japonicus</i>	アリ科	ハチ目			昆虫の死骸、チヨウ目：幼虫を捕食、アブラムシ類の蜜、パン・菓 子類
575	クロヤマアリ	<i>Formica japonica</i>	アリ科	ハチ目			アブラムシの甘露や花の蜜、昆虫の死骸、花びらやツクシの穂。
576	ハヤシケアリ	<i>Lasius hayashi</i>	アリ科	ハチ目			アブラムシの甘露・昆虫類
577	ハリブトシリアゲアリ	<i>Crematogaster matsumurai</i>	アリ科	ハチ目			キマダラルリツツバメ、ムラサキツツバメなどシジミチョウ科、アブラ ムシ類、カイガラ類の甘露、植物の花外蜜腺 樹皮の層間の間隙や、枝や幹の枯死腐朽した部分に巣をつくる。
578	ヒゲナガケアリ	<i>Lasius productus</i>	アリ科	ハチ目			アブラムシの甘露や花の蜜、昆虫の死骸、花びらやツクシの穂。
579	ムネアカオオアリ	<i>Camponotus obscuripes</i>	アリ科	ハチ目			アブラムシの甘露、 朽木や枯れ木に営巣
580	アケビコンボウハバチ	<i>Zeraea akebii</i>	コンボウハバチ科	ハチ目			アケビ科：アケビ、ミツバアケビ
581	ウマノオバチ	<i>Eurobracon yokahamae</i>	コマユバチ科	ハチ目	NT		ミヤマカミキリの蛹などに寄生
582	カタコハナバチ属の一種 p.1	<i>LasioGLOSSUM sp.1</i>	コハナバチ科	ハチ目			
583	キアシブトコバチ	<i>Brachymeria lasus</i>	アシブトコバチ科	ハチ目			チヨウ目：シロチヨウ科；モンシロチヨウ、セセリチヨウ科；イチ モンジセセリ、ドクガ科；マイマイガなどの蛹に寄生
584	コガタウツギノヒメハナバチ	<i>Andrena (Calomelissa) tsukubana</i>	ヒメハナバチ科	ハチ目			アジダイ科：ウツギの花粉
585	シリアゲコバチ	<i>Leucospis japonica</i>	シリアゲコバチ科	ハチ目			ハバチ類、アナバチ類、ハナバチ類、ハキリバチ類の幼虫
586	ハエヤドリクロバチ科の一種	<i>Diapriidae sp.1</i>	ハエヤドリクロバチ科	ハチ目			本科の幼虫は双翅目幼虫（蛹）に内部寄生する個体が多い。
587	マツムラベッコウコマユバチ	<i>Braunsia matsumurai</i>	コマユバチ科	ハチ目			チヨウ目：幼虫に寄生
588	ミカドアリバチ	<i>Mutilla mikado</i>	アリバチ科	ハチ目			幼虫：ハナバチ科；トラマルハナバチの幼虫に寄生
589	Andrena 属の一種	<i>Andrena sp.1</i>	ヒメハナバチ科	ハチ目			
590	キンケハラナガツチバチ	<i>Campsomeris prismatica</i>	ツチバチ科	ハチ目			
591	ナラハウラサカズキマバチ	一	タマバチ科	ハチ目			コナラ
592	ベッコウクモバチ	<i>Cyphononyx fulvognathus</i>	クモバチ科	ハチ目			
593	モンクモバチ	<i>Botozonellus maculifrons</i>	クモバチ科	ハチ目			
594	オオクロバチ	<i>Calliphora nigribarbis</i>	クロバチ科	ハエ目			動物の死骸
595	クロバネキノコバチ科の一種	<i>Sciaridae sp.1</i>	クロバネキノコバチ科	ハエ目			幼虫は朽木や樹皮の内部などで植物の死骸や朽木、菌類などを食 う。
596	コガネオオハリバチ	<i>Servilla luteola</i>	ヤドリバチ科	ハエ目			スズメガ科；エビガラスズメなどに寄生
597	シラキメタマバチ	<i>Asphondylia sp.</i>	タマバチ科	ハエ目			トウダイグサ科；シラキ
598	セスジハリバチ	<i>Tachina nupta</i>	ヤドリバチ科	ハエ目			成虫：動物の糞や死骸、花、果実など 幼虫：鱗翅目などの幼虫に寄生。
599	ツマグロキンバチ	<i>Stomorphina obsoleta</i>	クロバチ科	ハエ目			幼虫：動物死骸、成虫：花の蜜
600	ツヤホソバチ科の一種 sp.1	<i>Sepsidae sp.1</i>	ツヤホソバチ科	ハエ目			動物の糞や腐敗によく発生
601	ハナバチ科の一種 sp.1	<i>Anthomyiidae sp.1</i>	ハナバチ科	ハエ目			成虫：花蜜の他、アブラムシの甘露、樹液、動物の糞や死骸。幼虫： 植物の腐敗物、生植物。
602	ヒゲナガヤチバチ	<i>Sepedon aenescens</i>	ヤチバチ科	ハエ目			幼虫：ヒメモノアラガイを捕えて食べる。 小型昆虫
603	マダラホソアシナガバチ	<i>Condylostylus nebulosus</i>	アシナガバチ科	ハエ目			幼虫：トビイロケアリ、ハヤシケアリと共生
604	アリノスア	<i>Microdon japonicus</i>	ハナアブ科	ハエ目			幼虫：土中で他の昆虫の幼虫、成虫：オスは花粉や蜜、メスは哺乳 類や鳥の血液
605	ウシアブ	<i>Tabanus trigonus</i>	アブ科	ハエ目			幼虫：水中の腐植物、成虫：花蜜・花粉
606	オオハナアブ	<i>Phytomia zonata</i>	ハナアブ科	ハエ目			アブラムシ科；アブラムシ類
607	キイロオミホシヒラタアブ	<i>Syrphus vitripennis</i>	ハナアブ科	ハエ目			成虫：花蜜・花粉
608	キゴシハナアブ	<i>Eristalinus quinquestratus</i>	ハナアブ科	ハエ目			

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
609	クロハナアブ	<i>Eristalis japonica</i> (<i>Eoseristalis</i>)	ハナアブ科	ハエ目			多科：花蜜、花粉
610	コウカアブ	<i>Ptecticus tenebrifer</i>	ミズアブ科	ハエ目			動物の糞、トイレに寄生する衛生害虫。
611	ゴマフアブ属の一種	<i>Haematopota sp.</i>	アブ科	ハエ目			昆虫類
612	シオヤアブ	<i>Promachus yesonicus</i>	ムシヒキアブ科	ハエ目			
613	シマハナアブ	<i>Eristalis cerealis</i>	ハナアブ科	ハエ目			
614	シマハナアブ	<i>Eristalis cerealis</i>	ハナアブ科	ハエ目			多科：花蜜、花粉
615	シロスジナガハナアブ	<i>Milesia undulata</i>	ハナアブ科	ハエ目			多科：花蜜、花粉
616	シロズヒメムシヒキ	<i>Philonicus albiceps</i>	ムシヒキアブ科	ハエ目			幼虫：土中や朽木中に棲み、コウチュウ目の幼虫などほかの昆虫を捕食、成虫：ハエ科；ホソヒラタアブ、ヒトスジシママカなどの昆虫の体液を吸う
617	シロフアブ	<i>Tabanus trigeminus</i>	アブ科	ハエ目			幼虫：土中でミミズや土壌性小昆虫、貝類などから捕食吸汁。成虫：食種性/樹液(♂♀)・吸血性(♀)。コナラやクスギ、ヤナギ類など各種広葉樹を利用するほか、♀はウシやウマ、ヒトなどの哺乳類から吸血
618	スキバツアブ	<i>Villa limbata</i>	ツリアブ科	ハエ目			幼虫：ハチの幼虫などに寄生
619	タカサゴモボトハナアブ	<i>Mallotha takasagensis</i>	ハナアブ科	ハエ目			多科：花蜜、花粉
620	ツマキオホヒラタアブ	<i>Dideoides coquilletti</i>	ハナアブ科	ハエ目			アブラムシ科；アブラムシ類
621	ナガヒメヒラタアブ	<i>Sphaerophoria cylindrica</i>	ハナアブ科	ハエ目			アブラムシ科；アブラムシ類
622	ナミハナアブ	<i>Eristalis tenax</i>	ハナアブ科	ハエ目			多科：花蜜、花粉
623	ニトベハラボソツリアブ	<i>Systropus nitobei</i>	ツリアブ科	ハエ目			多科：花蜜、花粉
624	ヒメキンイシアブ	<i>Choerades japonica</i>	ムシヒキアブ科	ハエ目			幼虫：土中や朽木中に棲み、コウチュウ目の幼虫などほかの昆虫を捕食、成虫：昆虫の体液を吸う
625	ピロウドツリアブ	<i>Bombylius major</i>	ツリアブ科	ハエ目			幼虫：ヒメハナバチ類の幼虫に寄生、成虫：各種花蜜
626	ホソヒメヒラタアブ	<i>Sphaerophoria macrogaster</i>	ハナアブ科	ハエ目			多科多種の花蜜・蜜
627	ホソヒラタアブ	<i>Episyrphus balteatus</i>	ハナアブ科	ハエ目			アブラムシ科；アブラムシ類
628	マカリケムシヒキ	<i>Neotamias angusticornis</i>	ムシヒキアブ科	ハエ目			幼虫は土中や朽木中に棲み、甲虫の幼虫など昆虫を捕食、成虫は小型のハエ、ガガンボなど昆虫の体液
629	マダラコシボソハナアブ	<i>Baccha maculata</i>	ハナアブ科	ハエ目			多科：花蜜、花粉
630	マメヒラタアブ	<i>Paragus haemorrhous</i>	ヒラタアブ科	ハエ目			アブラムシを捕食
631	ムシヒキアブ科の一種 sp.1	<i>Asilidae sp.1</i>	ムシヒキアブ科	ハエ目			幼虫：土壌中、樹皮下のゴガネムシなどの昆虫類の卵、幼虫、蛹を食う、成虫：他昆虫を捕らえて体液を吸う。
632	ルリミズアブ	<i>Sargus nipponensis</i>	ミズアブ科	ハエ目			幼虫：雑食性/腐植質。水中の腐植質や藻類、成虫：食種性/花蜜。多くの花で吸蜜
633	Tipula 属の一種	<i>Tipula sp.</i>	ガガンボ科	ハエ目			成虫：花蜜、幼虫：土中で植物根
634	キイロボソガガンボ	<i>Nephrotoma virgata</i>	ガガンボ科	ハエ目			幼虫：腐敗した植物
635	キリウジガガンボ	<i>Tipula aino</i>	ガガンボ科	ハエ目			イネ科；イネ、ムギの腐植物、根や新芽を食害
636	クロキリウジガガンボ	<i>Tipula (Yamatotipula) patagiata</i>	ガガンボ科	ハエ目			植物の根
637	ミカドガガンボ	<i>Ctenacrosceles mikado</i>	ガガンボ科	ハエ目			幼虫：腐植物。山地に生息。
638	エゴタマバエ	<i>Rhopalomyia? styracophira</i>	タマバエ科	ハエ目			エゴノキ
639	ヤマトガガンボ属の一種	<i>Nephrotoma sp.</i>	ガガンボ科	ハエ目			植物の根
640	ホソアアブ	<i>Tabanus rufidens</i>	アブ科	ハエ目			
641	Homoeocerus の一種	<i>Homoeocerus sp.</i>	ヘリカメムシ科	ハエ目			葉や茎、若果の汁
642	アオモソツノカメムシ	<i>Elasmostethus nubilus</i>	ツノカメムシ科	カメムシ目			ウコギ科；ヤツデ、キツタ、ウド、タラノキ、ヤマウコギ、コシアブ、ムクロジ科；モミジ、ミズキ科；ミズキの花や汁

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
643	アカアシカスミカメ	<i>Onomaus lautus</i>	カスミカメムシ科	カメムシ目			イラクサ科：イラクサ、アジサイ科：ウツギ類、キク科：アザミ類、オオバコ科：オオバコ、シダ類などの花や果実の汁
644	アカヒメヘリカメムシ	<i>Rhopalus maculatus</i>	ヒメヘリカメムシ科	カメムシ目			イネ科：イネ、エノコログサ、タデ科、キク科などの汁
645	アカマキバサシガメ	<i>Corpis brevilineatus</i>	マキバサシガメ科	カメムシ目			少昆虫類。樹上の葉上に生息。
646	アムールシロヘリナガカメムシ	<i>Panaorus csikii</i>	ナガカメムシ科	カメムシ目			トウモロコシ。種々の花に集まる。
647	エサキモンキンツノカメムシ	<i>Sastragala esakii</i>	ツノカメムシ科	カメムシ目			ミズキ科：ミズキ、ウルシ科：ハゼノキ、ミカン科：カラスザンショウ、サンショウなどの植物液
648	オオツマキヘリカメムシ	<i>Hygia lativentris</i>	ヘリカメムシ科	カメムシ目			キク科：アザミ、バラ科：キイチゴ、ミツバウツギ科：ゴンズイなどの茎の汁
649	オオトビサシガメ	<i>Isyndus obscurus</i>	サシガメ科	カメムシ目			キク科：アザミ類、フキ、バラ科：モミジイチゴ、クマイチゴ、キジムシロの汁
650	オオヘリカメムシ	<i>Molipteryx fuliginosa</i>	ヘリカメムシ科	カメムシ目			昆虫類：カイガラムシ類、アブラムシ類など
651	オオメカメムシ	<i>Picocoris varius</i>	ナガカメムシ科	カメムシ目			クサギ（シソ科）、マツ（マツ科）、イチイ（イチイ科）、スギ（スギ科）、サクラ（バラ科）、キリ（キリ科）、クワ（クワ科）など多科
652	クサギカメムシ	<i>Halymorpha halys</i>	カメムシ科	カメムシ目			キク科：ヨモギ、ナス科：シシトウ（植物液）
653	クロマダラナガカメムシ科の一種 sp.1	<i>Heterogastridae sp.1</i>	クロマダラナガカメムシ科	カメムシ目			ハムシ類など甲虫類・鱗翅類などの幼虫の体液を吸う。
654	ケブカヒメヘリカメムシ	<i>Rhopalus sapporensis</i>	ヒメヘリカメムシ科	カメムシ目			イネ科：イネ・エノコログサ・チガヤ・ハイキビ・ネズミノオ
655	コガシラアワフキ	<i>Eoscarta assimilis</i>	コガシラアワフキムシ科	カメムシ目			各科の植物液
656	シマサシガメ	<i>Sphedanolestes impressicollis</i>	サシガメ科	カメムシ目			イネ科：チカラシバ、ススキの穂
657	シラホシカメムシ	<i>Eysarcoris ventralis</i>	カメムシ科	カメムシ目			ブナ科：クスギ、コナラ、キリ科：キリ、マメ科：フジの汁
658	シラホシカメムシの一種	<i>Eysarcoris sp.1</i>	カメムシ科	カメムシ目			イネ科・マメ科など子実
659	シロヘリナガカメムシ	<i>Panaorus japonicus</i>	ナガカメムシ科	カメムシ目			キク科：ヨモギ、フキ、アザミ類など、バラ科：クマイチゴ、モミジイチゴなど、ウコギ科：ウド、タラの汁。山地に生息。
660	チヤイロカメムシ	<i>Eurygaster testudinaria</i>	キンカメムシ科	カメムシ目			イネ科：イネ、メヒシバ、ノビエ、エノコログサ、スズメノテッポウの穂などの汁
661	チヤバネアオカメムシ	<i>Plautia crossoa stali</i>	カメムシ科	カメムシ目			イネ科：イネ
662	ツマジロカメムシ	<i>Menida violacea</i>	カメムシ科	カメムシ目			イネ科：ミソナオシ、ヌスビトハギ
663	ツヤアオカメムシ	<i>Glaucias subpunctatus</i>	カメムシ科	カメムシ目			マメ科：メヒシバの汁
664	トゲカメムシ	<i>Carbula humerigera</i>	カメムシ科	カメムシ目			針葉樹、広葉樹、柑橘類など果樹
665	トゲシラホシカメムシ	<i>Eysarcoris aeneus</i>	カメムシ科	カメムシ目			第一世代：クワ科：クワ、ヤマグワ、コウゾなどの汁
666	ナガゾロカスミカメ	<i>Adelphocoris suturalis</i>	カスミカメムシ科	カメムシ目			第二世代：アジサイ科：ノリウツギ、バラ科：フサザクラ、カバノキ科：ヤシキヤバシ、ヒノキ科：ヒノキ（子実）などの汁
667	ハラビロヘリカメムシ	<i>Homoeocerus dilatatus</i>	ヘリカメムシ科	カメムシ目			幼虫はマメ科：ダイズ、キク科：ヨボウ、アブラナ科：ダイコン、ゴマ科：ゴマ、セリ科：ニンジン、アオイ科：ワタ、ヒガンバナ科：ネギ、イネ科：イネなど
668	ハリカメムシ	<i>Cletus rusticus</i>	ヘリカメムシ科	カメムシ目			マメ科、キク科：ヨモギ、イネ科などの汁
669	ヒメチヤバネアオカメムシ	<i>Plautia himachobane</i>	カメムシ科	カメムシ目			
670	ヒメツノカメムシ	<i>Elasmucha putoni</i>	ツノカメムシ科	カメムシ目			
671	フチヒゲカメムシ	<i>Dolycoris baccarum</i>	カメムシ科	カメムシ目			
672	フチヒゲクロカスミカメ	<i>Adelphocoris triannulatus</i>	カスミカメムシ科	カメムシ目			

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
673	ヘラクソギカメムシ	<i>Urostylis annulicornis</i>	クソギカメムシ科	カメムシ目			ブナ科：クソギ、コナラ、カシワ
674	ホシハラビロヘリカメムシ	<i>Homoeocerus unipunctatus</i> (Tliphonius)	ヘリカメムシ科	カメムシ目			マメ科：クス、フジ、メドハギなどの汁
675	ホソヘリカメムシ	<i>Riptortus pedestris</i>	ホソヘリカメムシ科	カメムシ目			マメ科：ダイズ・インゲン・ササガ・エンドウ・レンゲ、バラ科：ナシ・イチゴ、カキノキ科：カキ、イネ科：イネ、ヒルガオ科：サツマイモ、ゴマ科：ゴマ、ウコギ科：ヤツデ、柑橘類の子実・植物液や花蜜など イネ科：カヤツリグサ科（植物液）
676	マダラカスミカメ	<i>Cyphodemia saundersi</i>	カスミカメムシ科	カメムシ目			キク科：タンポポ、ハルジオン、アレチノギク、イネ科：マメ科、マメ科の穂などの汁・山地に生息。
677	ムラサキシシラホシカメムシ	<i>Eysarcoris annamita</i>	カメムシ科	カメムシ目			マメ科：ダイズ、シソ科：トウバナ、イネ科：イネなどの植物液
678	モンシロナガカメムシ	<i>Pahaorus albomaculatus</i>	ナガカメムシ科	カメムシ目			昆虫類。サクラ、エノキ、ケヤキ、クワ、ヤナギ、クスなどの大木の樹上で生活
679	ヨコツナサシガメ	<i>Agriosphodrus dohrni</i>	サシガメ科	カメムシ目			幼虫：根樹液、成虫：幹樹液。
680	アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>	セミ科	カメムシ目			幼虫：根樹液、成虫：幹樹液。
681	ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i>	セミ科	カメムシ目			幼虫：根樹液、成虫：幹樹液。
682	ニオイゼミ	<i>Platyleura kaempferi</i>	セミ科	カメムシ目			幼虫：根樹液、成虫：幹樹液。
683	ヒグラシ	<i>Tanna japonensis</i>	セミ科	カメムシ目			幼虫：根樹液、成虫：幹樹液。
684	ミンミンゼミ	<i>Oncotympana maculaticollis</i>	セミ科	カメムシ目			幼虫：根樹液、成虫：幹樹液。
685	アオバハゴロモ	<i>Geisha distinctissima</i>	ハゴロモ科	カメムシ目			ミカン科、クワ科：クワ、チャノキ科：チャノキなど樹木
686	アミガサハゴロモ	<i>Pochazia albomaculata</i>	ハゴロモ科	カメムシ目			ミカン科、クワ科など樹木
687	ベッコウハゴロモ	<i>Orosanga japonica</i>	ハゴロモ科	カメムシ目			アジサイ科：ウツギ、クワ科：クワ、ツバキ科：チャノキ、ウコギ科：ウド、バラ科：リンゴ、ミカン科、マメ科、イネ科の汁
688	イボタヒシウンカ	<i>Kuvera ligustri</i>	ヒシウンカ科	カメムシ目			モクセイ科：イボタノキ、山地に生息。
689	オオヨコバイ	<i>Cicadella viridis</i>	ヨコバイ科	カメムシ目			イネ科：イネ・ムギ、バラ科：ダイズ・バラ、クワ科：クワ、アヤメ科：アヤメ（植物液）
690	クロスジアワフキ	<i>Aphrophora vittata</i>	アワフキムシ科	カメムシ目			多年生植物
691	シロオビアワフキ	<i>Aphrophora intermedia</i>	アワフキムシ科	カメムシ目			ヤナギ科：ヤナギ類の汁
692	ツマグロオオヨコバイ	<i>Bothrogonia ferruginea</i>	ヨコバイ科	カメムシ目			マメ科：ダイズ、ラッカセイ、クワ科：クワ、イチジク、ツバキ科：チャノキ、ブドウ科：ブドウ、ミカン科：柑橘類、カキノキ科：カキノキなど多科の汁
693	レンダアワフキ	<i>Philagra albinotata</i>	アワフキムシ科	カメムシ目			キク科：アザミ、ヨモギ
694	トビイロツノゼミ	<i>Machaerotypus sibiricus</i>	ツノゼミ科	カメムシ目			マメ科：フジ、ハギなどの汁
695	マダラアワフキ	<i>Awafukia nawae</i>	アワフキムシ科	カメムシ目			スギの根（植物液）
696	マツモムシ	<i>Notonecta triguttata</i>	マツモムシ科	カメムシ目			小さな昆虫や小魚、オタマジャクシなどの体液
697	オオホシカメムシ	<i>Physopelta gutta</i>	オオホシカメムシ科	カメムシ目			
698	ハサミツノカメムシ	<i>Acanthosoma forficula</i>	ツノカメムシ科	カメムシ目			イロハカエデ
699	モミジニタケアイブラムシ	<i>Periphyllus californiensis</i>	アブラムシ科	カメムシ目			
700	アオモンイトトンボ	<i>Ischnura senegalensis</i>	イトトンボ科	トンボ目			
701	アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>	トンボ科	トンボ目			幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食
702	アサヒナカワトンボ	<i>Mnais pruinosa</i>	カワトンボ科	トンボ目			幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食
703	アジアイトトンボ	<i>Ischnura asiatica</i>	イトトンボ科	トンボ目			
704	ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>	トンボ科	トンボ目			
705	オオアオイイトトンボ	<i>Lestes temporalis</i>	アオイイトトンボ科	トンボ目			幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
706	オオシオカラトンボ	<i>Orthetrum melania</i>	トンボ科	トンボ目			幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食
707	オオヤマトンボ	<i>Macromia amphigena</i>	ヤマトンボ科	トンボ目			
708	オオルルボシヤンマ	<i>Aeshna crenata</i>	ヤンマ科	トンボ目			
709	オジロサナエ	<i>Stylogomphus suzukii</i>	サナエトンボ科	トンボ目			幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食
710	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>	オニヤンマ科	トンボ目			幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食
711	ギンヤンマ	<i>Anax parthenope</i>	ヤンマ科	トンボ目			
712	クロイトトンボ	<i>Cercion calamarum</i>	イトトンボ科	トンボ目			
713	クロスジギンヤンマ	<i>Anax nigrofasciatus</i>	ヤンマ科	トンボ目			
714	コオニヤンマ	<i>Sieboldius albardae</i>	サナエトンボ科	トンボ目			
715	コシアキトンボ	<i>Pseudothemis zonata</i>	トンボ科	トンボ目			幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食
716	シオカラトンボ	<i>Orthetrum speciosum</i>	トンボ科	トンボ目			幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食
717	シオヤトンボ	<i>Orthetrum japonicum</i>	トンボ科	トンボ目			幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食
718	シヨウジヨウトンボ	<i>Crocothemis mariannae</i>	トンボ科	トンボ目			幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食
719	セスジイトトンボ	<i>Paracercion hieroglyphicum</i>	イトトンボ科	トンボ目			幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食
720	タイリクアキアカネ	<i>Sympetrum striolatum</i>	トンボ科	トンボ目			幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食
721	タカネトンボ	<i>Somatochlora uchidai</i>	エゾトンボ科	トンボ目			幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食
722	ダビドサナエ	<i>Davidius nanus</i>	サナエトンボ科	トンボ目			幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食
723	チョウトンボ	<i>Rhyothemis fuliginosa</i>	トンボ科	トンボ目			幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食
724	トラフトンボ	<i>Epitheca marginata</i>	エゾトンボ科	トンボ目			幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食
725	ナツアカネ	<i>Sympetrum darwinianum</i>	トンボ科	トンボ目			幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食
726	ニホンカワトンボ	<i>Mnais costalis</i>	カワトンボ科	トンボ目			幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食
727	ネキトンボ	<i>Sympetrum speciosum</i>	トンボ科	トンボ目			
728	ノシメトンボ	<i>Sympetrum infuscatum</i>	トンボ科	トンボ目			幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食
729	ハグロトンボ	<i>Calopteryx atrata</i>	カワトンボ科	トンボ目			幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食
730	ヒメアカネ	<i>Sympetrum parvulum</i>	トンボ科	トンボ目			
731	ヒメクロサナエ	<i>Lanthus fujiacus</i>	サナエトンボ科	トンボ目			その他重要種
732	フタスジサナエ	<i>Trigomphus interruptus</i>	サナエトンボ科	トンボ目	NT		
733	ホソミイトトンボ	<i>Aciastrion migratum</i>	イトトンボ科	トンボ目			
734	ホソミオツネントンボ	<i>Indolestes peregrinus</i>	アオイイトトンボ科	トンボ目			
735	マユテアカネ	<i>Sympetrum eroticum eroticum</i>	トンボ科	トンボ目			幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
736	ミヤマアカネ	<i>Sympetrum elatum pedemontanum</i>	トンボ科	トンボ目		希少種	幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食。初夏～晩秋まで水田で生息。
737	ミヤマカワトンボ	<i>Calopteryx cornelia</i>	カワトンボ科	トンボ目			幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食。深い渓流で30分程度も潜って木の根、朽木に産卵する。
738	ミルンヤンマ	<i>Planaeschna milnei</i>	ヤンマ科	トンボ目			
739	ムカシトンボ	<i>Epiophlebia superstes</i>	ムカシトンボ科	トンボ目			
740	ムカシヤンマ	<i>Tanypteryx priyeri</i>	ムカシヤンマ科	トンボ目			幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食。
741	モノサシトンボ	<i>Pseudocoptera annulata</i>	モノサシトンボ科	トンボ目			幼虫はミジンコ・小魚・オタマジャクシなど、成虫は昆虫類・小型動物など肉食。
742	リスアカネ	<i>Sympetrum risi risi</i>	トンボ科	トンボ目		要注目種	
743	ルリボシヤンマ	<i>Aeshna juncea juncea</i>	ヤンマ科	トンボ目			
744	ウスイロササキリ	<i>Conocephalus chinensis</i>	キリギリス科	バッタ目			イネ科草本の穂と小さな節足動物の死骸を食う。
745	エンママコオロギ	<i>Teleogryllus emma</i>	コオロギ科	バッタ目			植物の実や葉、小動物の死骸など雑食性。
746	オンブバッタ	<i>Atractomorpha lata</i>	オンブバッタ科	バッタ目			マメ科；クズ、アサ科；カナムグラ、イラクサ科；カララムシなど広葉植物
747	カンタン	<i>Oecanthus longicauda</i>	コオロギ科	バッタ目			アブラムシ類、ヨモギ、クズの葉、花粉、花弁
748	キリギリス	<i>Conocephalus melanurus</i>	キリギリス科	バッタ目			ササなどイネ科
749	キンキフキバッタ	<i>Parapodisma subastris</i>	バッタ科	バッタ目			マメ科；クズ、キク科；フキなど
750	クサキリ	<i>Homorocoryphus lineosus</i>	キリギリス科	バッタ目			イネ科；カヤツリグサ科など草本；実、葉、昆虫、草原に生息。
751	クダマキモドキの一種	<i>Holochlora sp.</i>	ツユムシ科	バッタ目			落葉広葉樹の葉、樹上で生息。
752	クワラムシ	<i>Mecopoda nipponensis</i>	キリギリス科	バッタ目			マメ科；クズ、ウリ科；カラスウリ、アマチヤソウル、アレチウリ、ブドウ科；ヤブカラシ、アカネ科；ヘクソクズラ、イネ科；ツユクサやメヒシバ
753	クラズミウマ	<i>Tachycines asynamorus</i>	カマドウマ科	バッタ目			昆虫の死骸
754	クルマバッタ	<i>Gastriamargus marmoratus</i>	バッタ科	バッタ目			イネ科，双子葉植物など多科
755	クルマバッタモドキ	<i>Oedaiaeus infernalis</i>	バッタ科	バッタ目			
756	ササキリ	<i>Conocephalus melanurus</i>	キリギリス科	バッタ目			ササなどイネ科，山地林間の多湿な草地に生息。
757	シヨウリヨウバッタ	<i>Acrida cinerea</i>	バッタ科	バッタ目			イネ科，双子葉植物など多科
758	セスジツユムシ	<i>Ducetia japonica</i>	キリギリス科	バッタ目			ヨモギ、セイタカアワダチソウなどキク科、ハギ、アカツメクサなどマメ科，イネ科など多科
759	ダイリフキバッタ	<i>Callopodisma dairisama</i>	バッタ科	バッタ目			マメ科；クズ、キク科；フキなど
760	タンボオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus amoriensis</i>	コオロギ科	バッタ目			
761	タンボコオロギ	<i>Modicogryllus siamensis</i>	コオロギ科	バッタ目			植物の実や葉、小動物の死骸など雑食性
762	ツツレサセコオロギ	<i>Velarifictorus micado</i>	コオロギ科	バッタ目			イネ科，マメ科；アルファルファなど草本多科（葉・茎）、水辺の草地に生息。
763	ツマグロイナゴ	<i>Stethophyma magister</i>	バッタ科	バッタ目			
764	ツマグロバッタ	<i>Stethophyma magister</i>	バッタ科	バッタ目			
765	ツユムシ	<i>Phaneroptera falcata</i>	キリギリス科	バッタ目			キク科；ヨモギ、セイタカアワダチソウ、マメ科；ハギ、アカツメクサの新芽・若葉や蕾、花、若い子実
766	ナナフシモドキ	<i>Baculum irregulariter dentatum</i>	ナナフシ科	バッタ目			広葉樹各科の葉
767	ハラヒシバッタ	<i>Tetrix japonica</i>	ヒシバッタ科	バッタ目			成虫；エノコログサ、オヒシバ、ススキ。
768	ヒシバッタ	<i>Tetrix japonica</i>	ヒシバッタ科	バッタ目			
769	ヒロバネヒナバッタ	<i>Stenobothrus fumatus</i>	バッタ科	バッタ目			各科の葉

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
770	フキバツタ亜科の一種 sp.1	<i>Melanoplinae sp.1</i>	バツタ科	バツタ目			フキバツタ類。マメ科；クズ、キク科；フキ・フジバカマなど
771	フキバツタ亜科の一種	<i>Melanoplinae sp.</i>	バツタ科	バツタ目			キク科；フキ、フジバカマ、マメ科；クズ
772	ホシササキ	<i>Conocephalus maculatus</i>	キリギリス科	バツタ目			落葉広葉樹の葉、山地の高い木でない樹上に生息。
773	ホソクビツユムシ	<i>Shirakisotima japonica</i>	キリギリス科	バツタ目			昆虫の死骸
774	マダラカマドウマ	<i>Diestramena japonica</i>	カマドウマ科	バツタ目			
775	マダラズ	<i>Dianemobius nigrofasciatus</i>	ヒバリモトキ科	バツタ目			
776	ミヤマフキオオロギ	<i>Loxoblemmus doenitzii</i>	コオロギ科	バツタ目			枯れ草・草の根・昆虫の死骸など
777	フキバツタ	<i>Parapodisma sp.</i>	バツタ科	バツタ目			植物の葉や葉、小動物の死骸など雑食性
778	モリオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus sylvestris</i>	コオロギ科	バツタ目			キク科；フキ、マメ科；クズ、山地に生息。
779	ヤブキ	<i>Tettigonia orientalis</i>	キリギリス科	バツタ目			植物の葉や葉、小動物の死骸など雑食性
780	ヤマトフキバツタ	<i>Parapodisma setouchiensis</i>	バツタ科	バツタ目			幼虫；植物；葉や花の花粉、成虫；昆虫；セミ・ガ
781	オオカマキ	<i>Tenodera aridifolia</i>	カマキリ科	カマキリ目			フキ・クズ
782	カマキリ科の一種 sp.1	<i>Mantidae sp.1</i>	カマキリ科	カマキリ目			幼虫・成虫ともに昆虫類を捕らえて食べる。
783	カマキリ科の一種 sp.2	<i>Mantidae sp.2</i>	カマキリ科	カマキリ目			幼虫・成虫ともに昆虫類を捕らえて食べる。
784	オオカラカケカワガ	<i>Paragnetina tinctipennis</i>	カワガ科	カワガ目			幼虫・成虫ともに昆虫類を捕らえて食べる。
785	オオヤマカワガ	<i>Oyamia lugubris</i>	カワガ科	カワガ目			水生昆虫の幼虫
786	クロヒガカワガ	<i>Kamimuria quadrata</i>	カワガ科	カワガ目			小昆虫や付着藻類
787	マルバネシリアゲ	<i>Panorpa nipponensis</i>	シリアゲムシ科	シリアゲムシ目			幼虫；肉食で他の水生昆虫
788	ミスジシリアゲ	<i>Panorpa trizonata</i>	シリアゲムシ科	シリアゲムシ目			幼虫；土中の昆虫，成虫；小動物・昆虫の死骸
789	ヤマトシリアゲ	<i>Panorpa japonica</i>	シリアゲムシ科	シリアゲムシ目			幼虫；土中の昆虫，成虫；小動物・昆虫の死骸
790	コブハサミムシ?	<i>Anechura harmandi?</i>	クシヌキハサミムシ科	ハサミムシ目			幼虫は土中で虫を食べる肉食性、成虫は小動物や昆虫の死骸
791	ハマベハサミムシ	<i>Anisolabis maritima</i>	ハサミムシ科	ハサミムシ目			小型昆虫・落葉など
792	Kisaura 属の一種 (sp.2)	<i>Kisaura sp.2</i>	カワトビケラ科	トビケラ目			植物の葉や果実、動物の死骸などを食う。鱗翅目の幼虫、ダンゴムシなどを餌を利用して捕食する。
793	アオヒゲナガトビケラ	<i>Mystacides azureus</i>	ヒゲナガトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
794	アシガラクダトビケラ	<i>Tinodes ashigaranis</i>	アミメシマトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
795	アミメシマトビケラ	<i>Actopsyche spinifera</i>	アミメシマトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
796	イロタニガワトビケラ	<i>Dolophilodes iroensis</i>	カワトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
797	ウルマクダトビケラ	<i>Psychomyia acutipennis</i>	カワトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
798	キノイワトビケラ	<i>Nyctiophylax kisoensis</i>	イワトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
799	キノタニガワトビケラ	<i>kisaura kisoensis</i>	イワトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
800	クモノカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma kumanoence</i>	カクツツトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
801	コウノナガレトビケラ	<i>Rhyacophila kohnae</i>	ナガレトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
802	コガタシマトビケラ	<i>Cheumatopsyche brevilineata</i>	シマトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
803	ゴマダラヒゲナガトビケラ	<i>Oecetis nigropunctata</i>	ヒゲナガトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
804	サトウカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma satoi</i>	カクツツトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
805	シロフマルバネトビケラ	<i>Phryganopsyche brunnea</i>	マルバネトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
806	シンボタニガワトビケラ	<i>Dolophilodes shinboensis</i>	カワトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
807	ツダコニガワトビケラ	<i>Chimarra tsudai</i>	カワトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
808	ツダニガワトビケラ	<i>Kisaura tsudai</i>	カワトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
809	トウヨウカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma orientale</i>	カクツツトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
810	ナガオカナガレトビケラ	<i>Rhyacophila nagaokaensis</i>	ナガレトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
811	ナガレトビケラ属の一種 (sp.11)	<i>Rhyacophila sp.11</i>	ナガレトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
812	ナガレトビケラ属の一種 (sp.2)	<i>Rhyacophila sp.2</i>	ナガレトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
813	ナガレトビケラ属の一種 (sp.9)	<i>Rhyacophila sp.9</i>	ナガレトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
814	ナラカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma naraense</i>	カクツツトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
815	スマヒメトビケラ	<i>Hydroptila itoi</i>	ヒメトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
816	ノザキタニガワトビケラ	<i>Kisaura nozakii</i>	カワトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
817	ハモチクサツミトビケラ	<i>Oecetis hamochiensis</i>	ヒガナガトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
818	ヒガナガワトビケラ	<i>Stenopsyche marmorata</i>	ヒガナガワトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
819	ヒメタニガワトビケラ属の一種 (sp.5)	<i>Normaldia sp.5</i>	カワトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
820	フジノタニガワトビケラ	<i>Normaldia fujinoensis</i>	カワトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
821	フタスジキソトビケラ	<i>Psilotreta kisoensis</i>	フトヒガトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
822	ヘイワナガレトビケラ	<i>Rhyacophila pacata</i>	ナガレトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
823	ホタルトビケラ	<i>Nothopsyche ruficollis</i>	エグリトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
824	マツイヒメトビケラ	<i>Hydroptila phenania</i>	ヒメトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
825	ミミタニガワトビケラ	<i>Dolophilodes auriculata</i>	カワトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
826	ミヤマイワトビケラ属の一種 (sp.2)	<i>Plectrocnemia sp.2</i>	イワトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
827	ミヤマシマトビケラ属の一種 (sp.)	<i>Diplectrona sp. (aiensis gr.)</i>	シマトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
828	ムネカクトビケラ	<i>Ecnomus tenellus</i>	シメンテイトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
829	ヤマモトナガレトビケラ	<i>Rhyacophila yamamotoi</i>	ナガレトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
830	ヨシイナガレトビケラ	<i>Rhyacophila yosiana</i>	ナガレトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
831	ヨツメトビケラ	<i>Perisoneura paradoxa</i>	フトヒガトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
832	レゼイナガレトビケラ	<i>Rhyacophila lezevi</i>	ナガレトビケラ科	トビケラ目			石の表面の藻・落ち葉・小動物
833	カガンボカガロウ	<i>Dipteromimus tipuliformis</i>	カガンボカガロウ科	カガロウ目			幼虫：分解が進んで柔らかくなった落葉や付着藻類
834	クロタニガワカガロウ	<i>Ecdyonurus tobiironis</i>	ヒラタカガロウ科	カガロウ目			藻（珪藻、藍藻）や植物の破片
835	フタモンユカガロウ	<i>Baetis taiwanensis</i>	ユカガロウ科	カガロウ目			幼虫：瀬の石や倒流木表面の付着藻類
836	エダナナフシ	<i>Micadina yasumatsui</i>	ナナフシ科	ナナフシ目			バラ科；サクラ、カシ、ブナ科；コナラ、ブナなどの樹液；バラ科；ノイバラ、ブナ科；クスノキ、タヌキ科；イタドリなど様々な植物の葉
837	ウスバカガロウ	<i>Baetis micans</i>	ウスバカガロウ科	アミカガロウ目			幼虫はアリジゴクをつくり、迷い落ちてきた地表張子行性節足動物の体液を吸う
838	スカシヒロバカガロウ	<i>Osmylus hyalinatus</i>	ヒロバカガロウ科	アミカガロウ目			未知、山地に生息。

番号	種名	学名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	既知植物種、備考
839	ヨツボシクサカガログウ	<i>Chrysopa septempunctata</i>	クサカガログウ科	アミカガログウ目			アブラムシ類
840	クロスジヘビトンボ	<i>Chrysopa septempunctata</i>	ヘビトンボ科	ヘビトンボ目			水生昆虫食
841	ヘビトンボ	<i>Protohermes grandis</i>	ヘビトンボ科	ヘビトンボ目			
842	ヤマトクロスジヘビトンボ	<i>Parachauliodes japonicus</i>	ヘビトンボ科	ヘビトンボ目			水生昆虫食

※学名、分類、既知植物種は寺本氏の文献調査結果から記載した。

付表3. 鈴鹿の森で見られる魚類（学名や分類は2024年河川水辺の国勢調査生物リストに準拠した。）

番号	種名	学名	属名	科名	目名	環境省 RDB	滋賀県 RDB	分布上流域	分布中流域
1	カワヨシノボリ	<i>Rhinogobius flumineus</i>	ヨシノボリ属	ハゼ科	スズキ目		要注目種	○	○
2	オウミヨシノボリ	<i>Rhinogobius sp. OM</i>	ヨシノボリ属	ハゼ科	スズキ目			○	○
3	カジカ	<i>Cottus pollux</i>	カジカ属	カジカ科	スズキ目			○	
4	ドンコ	<i>Odontobutis obscura</i>	ドンコ属	ドンコ科	スズキ目		その他重要種		○
5	タカハヤ	<i>Rhynchocypris oxycephala</i>	アブラハヤ属	コイ科	コイ目		要注目種	○	
6	アブラハヤ	<i>Rhynchocypris lagowskii steindachneri</i>	アブラハヤ属	コイ科	コイ目		要注目種		○
7	ムギツク	<i>Pungtungia herzi</i>	ムギツク属	コイ科	コイ目		希少種		○
8	モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>	モツゴ属	コイ科	コイ目		希少種		○
9	イトモロコ	<i>Squalidus gracilis gracilis</i>	スゴモロコ属	コイ科	コイ目		絶滅危機増大種		○
10	ギンブナ	<i>Carassius sp.</i>	フナ属	コイ科	コイ目		要注目種		○
11	カワムツ	<i>Candidia temminckii</i>	カワムツ属	コイ科	コイ目			○	
12	オイカワ	<i>Opsariichthys platypus</i>	ハス属	コイ科	コイ目				○
13	アブラボテ	<i>Tanakia limbata</i>	アブラボテ属	コイ科	コイ目		絶滅危機増大種		○
14	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	ドジョウ属	ドジョウ科	コイ目		要注目種		○
15	ニシシマドジョウ	<i>Cobitis sp. BIWA type B</i>	シマドジョウ属	ドジョウ科	コイ目		要注目種		○
16	アジメドジョウ	<i>Niraeella delicata</i>	アジメドジョウ属	ドジョウ科	コイ目		希少種		○
17	スナヤツメ	<i>Lethenteron spp.</i>	カワヤツメ属	ヤツメウナギ科	ヤツメウナギ目				○
18	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	アユ属	アユ科	サケ目		分布上重要種		○
19	アマゴ (サツキマス)	<i>Oncorhynchus masou ishikawae</i>	サケ属	サケ科	サケ目		要注目種	○	○
20	イワナ	<i>Salvelinus leucomaenis</i>	サケ属	サケ科	サケ目		絶滅危機増大種	○	
21	ギギ	<i>Tachysurus nudiceps</i>	ギバチ属	ギギ科	ナマズ目		絶滅危機種		○
22	アカザ	<i>Liobagrus reinii</i>	アカザ属	アカザ科	ナマズ目		絶滅危機種	○	
23	カマツカ	<i>Pourthiaea villosa var. laevis</i>	カマツカ属	バラ科	バラ目		希少種	○	○

※上流域は愛知川の源流側から永源寺ダムの上流まで、中流域は永源寺ダムの下部から春日橋付近までとした。

※中流域の分布は2002～2003年の文献調査時のものを参照した。

付表4. 鈴鹿の森で見られる両生類 (学名や分類は2024年河川水辺の国勢調査生物リストに準拠した。)

番号	種名	学名	属名	科名	目名	現地調査	環境省 RDB	滋賀県 RDB
1	ヒダサンシヨウウオ	<i>Hynobius kimurae</i>	サンシヨウウオ属	サンシヨウウオ科	有尾目	○	NT	希少種
2	マホロバサンシヨウウオ	<i>Hynobius guttatus</i>	サンシヨウウオ属	サンシヨウウオ科	有尾目	○	VU	希少種
3	ハコネサンシヨウウオ	<i>Onychodactylus japonicus</i>	ハコネサンシヨウウオ属	サンシヨウウオ科	有尾目			希少種
4	アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	イモリ属	イモリ科	有尾目	○	NT	要注目種
5	アズマヒキガエル	<i>Bufo formosus</i>	ヒキガエル属	ヒキガエル科	無尾目	○		希少種
6	ナガレヒキガエル	<i>Bufo torrenticola</i>	ヒキガエル属	ヒキガエル科	無尾目	○		希少種
7	ヒガシニホンアマガエル	<i>Dryophytes leopardus</i>	アマガエル属	アマガエル科	無尾目	○		
8	タゴガエル	<i>Rana tagoi</i>	アマガエル属	アマガエル科	無尾目	○		要注目種
9	ナガレタゴガエル	<i>Rana sakuraii</i>	アマガエル属	アマガエル科	無尾目	○		希少種
10	ヤマアマガエル	<i>Rana ornativentris</i>	アマガエル属	アマガエル科	無尾目	○		希少種
11	トノサマガエル	<i>Pelophylax nigromaculatus</i>	トノサマガエル属	アマガエル科	無尾目	○	NT	要注目種
12	ツチガエル	<i>Glandirana rugosa</i>	ツチガエル属	アマガエル科	無尾目	○		要注目種
13	シユレーゲルアマガエル	<i>Zhangixalus schlegelii</i>	アマガエル属	アマガエル科	無尾目	○		要注目種
14	モリアマガエル	<i>Zhangixalus arboreus</i>	アマガエル属	アマガエル科	無尾目	○		要注目種
15	カジカガエル	<i>Buergeria buergeri</i>	カジカガエル属	アマガエル科	無尾目	○		要注目種

付表5. 鈴鹿の森で見られる爬虫類 (学名や分類は2024年河川水辺の国勢調査生物リストに準拠した。)

番号	種名	学名	属名	科名	目名	現地調査	環境省 RDB	滋賀県 RDB
1	ニホンイシガメ	<i>Mauremys japonica</i>	イシガメ属	イシガメ科	カメ目	○	NT	希少種
2	ニホンヤモリ	<i>Gekko japonicus</i>	ヤモリ属	ヤモリ科	有鱗目	○		
3	ヒガシニホントカゲ	<i>Plestiodon finitimus</i>	トカゲ属	トカゲ科	有鱗目	○		要注目種
4	ニホンカナヘビ	<i>Takydromus tachydromoides</i>	カナヘビ属	カナヘビ科	有鱗目	○		
5	タカチホヘビ	<i>Achalinus spinalis</i>	タカチホヘビ属	タカチホヘビ科	有鱗目	○		要注目種
6	シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i>	ナメラ属	ナミヘビ科	有鱗目	○		
7	アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>	ナメラ属	ナミヘビ科	有鱗目	○		
8	ジムグリ	<i>Euprepiophis conspicillatus</i>	ジムグリ属	ナミヘビ科	有鱗目	○		要注目種
9	シロマダラ	<i>Lycodon orientalis</i>	オオカミヘビ属	ナミヘビ科	有鱗目	○		要注目種
10	ヒバカリ	<i>Hebius vibakari vibakari</i>	ヒバカリ属	ナミヘビ科	有鱗目	○		要注目種
11	ヤマカガシ	<i>Rhabdophis tigrinus</i>	ヤマカガシ属	ナミヘビ科	有鱗目	○		要注目種
12	ニホンマムシ	<i>Gloydus blomhoffii</i>	マムシ属	クサリヘビ科	有鱗目	○		要注目種

付表 6. 鈴鹿の森で見られる鳥類（学名や分類は 2024 年河川水辺の国勢調査生物リソースに準拠した。）

番号	種名	学名	生息区分	属名	科名	目名	確認頻度	文化財保護法	種の保存法	環境省 R12020	滋賀県 RDB
1	ヤマドリ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	留鳥	ヤマドリ属	キジ科	キジ目	◎				他
2	キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	留鳥	キジ属	キジ科	キジ目	△				
3	オシドリ	<i>Aix galericulata</i>	留鳥・冬鳥	オシドリ属	カモ科	カモ目	○			DD	希少
4	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	留鳥	キジバト属	ハト科	ハト目	◎				
5	アオバト	<i>Treron sieboldii</i>	留鳥	アオバト属	ハト科	ハト目	○				希少
6	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	留鳥	ウ属	ウ科	カツオドリ目	○				
7	ミゾゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>	夏鳥	ミゾゴイ属	サギ科	ペリカン目	△			VU	増大
8	ジュウイチ	<i>Hierococyx hyperythrus</i>	夏鳥	ジュウイチ属	カッコウ科	カッコウ目	△				希少
9	ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	夏鳥	カッコウ属	カッコウ科	カッコウ目	△				希少
10	ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>	夏鳥	カッコウ属	カッコウ科	カッコウ目	△				希少
11	カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>	夏鳥	カッコウ属	カッコウ科	カッコウ目	△				希少
12	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	夏鳥	ヨタカ属	ヨタカ科	ヨタカ目	△			NT	増大
13	ハリオアマツバメ	<i>Hirundapus caudacutus</i>	旅鳥	ハリオアマツバメ属	アマツバメ科	アマツバメ目	△				
14	アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	旅鳥	アマツバメ属	アマツバメ科	アマツバメ目	△				
15	ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>	冬鳥	ヤマシギ属	シギ科	チドリ目	△				希少
16	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	留鳥	ミサゴ属	ミサゴ科	タカ目	△			NT	希少
17	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	夏鳥	ハチクマ属	タカ科	タカ目	○			NT	増大
18	トビ	<i>Milvus migrans</i>	留鳥	トビ属	タカ科	タカ目	◎				
19	オジロワシ	<i>Haliaeetus albicilla</i>	冬鳥	オジロワシ属	タカ科	タカ目	△	国天	国内	VU	増大
20	ツミ	<i>Accipiter gularis</i>	留鳥	ハイタカ属	タカ科	タカ目	△				希少
21	ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	留鳥	ハイタカ属	タカ科	タカ目	△			NT	希少
22	オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	留鳥	ハイタカ属	タカ科	タカ目	△			NT	希少
23	サシバ	<i>Buteo buteo</i>	夏鳥	サシバ属	タカ科	タカ目	○			VU	希少
24	ノスリ	<i>Buteo japonicus</i>	留鳥・冬鳥	ノスリ属	タカ科	タカ目	△				希少
25	クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>	留鳥	クマタカ属	タカ科	タカ目	△		国内	EN	危惧
26	オオコノハズク	<i>Otus lempiji</i>	留鳥	コノハズク属	フクロウ科	フクロウ目	△				危惧
27	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	留鳥	フクロウ属	フクロウ科	フクロウ目	△				希少
28	アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>	夏鳥	アオバズク属	フクロウ科	フクロウ目	△				希少
29	アカシヨウビン	<i>Halcyon coromanda</i>	夏鳥	アカシヨウビン属	カワセミ科	ブッポウソウ目	○				希少
30	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	留鳥	カワセミ属	カワセミ科	ブッポウソウ目	○				希少
31	ヤマセミ	<i>Megaceryle lugubris</i>	留鳥	ヤマセミ属	カワセミ科	ブッポウソウ目	△				希少
32	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis</i>	夏鳥	ブッポウソウ属	ブッポウソウ科	ブッポウソウ目	△			EN	危惧
33	コガラ	<i>Dendrocoptes kizuki</i>	留鳥	アカガラ属	キツツキ科	キツツキ目	◎				
34	オオアカガラ	<i>Dendrocoptes leucotos</i>	留鳥	アカガラ属	キツツキ科	キツツキ目	◎				希少
35	アカガラ	<i>Dendrocoptes major</i>	留鳥	アカガラ属	キツツキ科	キツツキ目	○				

番号	種名	学名	生息区分	属名	科名	目名	確認 頻度	文化財 保護法	種の 保存法	環境省 RL2020	滋賀県 RDB
36	アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	留鳥	アオゲラ属	キツツキ科	キツツキ目	◎				
37	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	旅鳥・冬鳥	ハヤブサ属	ハヤブサ科	ハヤブサ目	△				希少
38	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	留鳥	ハヤブサ属	ハヤブサ科	ハヤブサ目	△		国内	VU	希少
39	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	夏鳥	ヤイロチョウ属	ヤイロチョウ科	スズメ目	△		国内	EN	注目
40	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	夏鳥	サンショウクイ属	サンショウクイ科	スズメ目	○			VU	希少
41	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	夏鳥	サンコウチョウ属	カササギヒタキ科	スズメ目	△				希少
42	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	留鳥	モズ属	モズ科	スズメ目	○				
43	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	留鳥	カケス属	カラス科	スズメ目	◎				
44	ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	留鳥	カラス属	カラス科	スズメ目	◎				
45	ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	留鳥	カラス属	カラス科	スズメ目	◎				
46	クイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	冬鳥	クイタダキ属	クイタダキ科	スズメ目	△				希少
47	コガラ	<i>Poecile montanus</i>	留鳥	コガラ属	シジュウカラ科	スズメ目	○				
48	ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	留鳥	コガラ属	シジュウカラ科	スズメ目	◎				
49	ヒガラ	<i>Periparus ater</i>	留鳥	ヒガラ属	シジュウカラ科	スズメ目	◎				
50	シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	留鳥	シジュウカラ属	シジュウカラ科	スズメ目	◎				
51	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	夏鳥	ツバメ属	ツバメ科	スズメ目	○				
52	イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>	夏鳥	イワツバメ属	ツバメ科	スズメ目	△				
53	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	留鳥	ヒヨドリ属	ヒヨドリ科	スズメ目	◎				
54	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	留鳥	ウグイス属	ウグイス科	スズメ目	◎				
55	ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	夏鳥	ヤブサメ属	ウグイス科	スズメ目	○				希少
56	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	留鳥	エナガ属	エナガ科	スズメ目	◎				
57	メボソムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodytes</i>	旅鳥	ムシクイ属	ムシクイ科	スズメ目	△				希少
58	センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	夏鳥	ムシクイ属	ムシクイ科	スズメ目	△				希少
59	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	留鳥	メジロ属	メジロ科	スズメ目	◎				
60	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	留鳥	ミソサザイ属	ミソサザイ科	スズメ目	◎				希少
61	カワガラス	<i>Cinclus pallasi</i>	留鳥	カワガラス属	カワガラス科	スズメ目	◎				希少
62	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>	留鳥	トラツグミ属	ヒタキ科	スズメ目	○				希少
63	クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	夏鳥	ツグミ属	ヒタキ科	スズメ目	◎				希少
64	シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	冬鳥	ツグミ属	ヒタキ科	スズメ目	◎				
65	アカハラ	<i>Turdus chrysolus</i>	冬鳥	ツグミ属	ヒタキ科	スズメ目	○				
66	ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	冬鳥	ツグミ属	ヒタキ科	スズメ目	◎				
67	コマドリ	<i>Luscinia akahige</i>	旅鳥	ノゴマ属	ヒタキ科	スズメ目	△				増大
68	コルリ	<i>Luscinia cyane</i>	夏鳥	ノゴマ属	ヒタキ科	スズメ目	△				増大
69	ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>	冬鳥	ルリビタキ属	ヒタキ科	スズメ目	○				希少
70	ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureoreus</i>	冬鳥	ジョウビタキ属	ヒタキ科	スズメ目	○				
71	コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	夏鳥	サメビタキ属	ヒタキ科	スズメ目	△				希少

番号	種名	学名	生息区分	属名	科名	目名	確認頻度	文化財保護法	種の保存法	環境省 RL2020	滋賀県 RDB
72	キビタキ	<i>Ficedula narsissina</i>	夏鳥	キビタキ属	ヒタキ科	スズメ目	◎				希少
73	オオレリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	夏鳥	オオレリ属	ヒタキ科	スズメ目	◎				希少
74	スズメ	<i>Passer montanus</i>	留鳥	スズメ属	スズメ科	スズメ目	○				
75	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	留鳥	セキレイ属	セキレイ科	スズメ目	◎				
76	ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	留鳥	セキレイ属	セキレイ科	スズメ目	○				
77	セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	留鳥	セキレイ属	セキレイ科	スズメ目	○				
78	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	冬鳥	アトリ属	アトリ科	スズメ目	◎				
79	カララヒワ	<i>Chloris sinica</i>	留鳥	カララヒワ属	アトリ科	スズメ目	◎				
80	マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	冬鳥	マヒワ属	アトリ科	スズメ目	◎				
81	ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	冬鳥	ベニマシコ属	アトリ科	スズメ目	△				希少
82	ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	旅鳥	ウソ属	アトリ科	スズメ目	△				希少
83	シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	冬鳥	シメ属	アトリ科	スズメ目	△				
84	イカル	<i>Eophona personata</i>	留鳥	イカル属	アトリ科	スズメ目	○				
85	ホオジロ	<i>Emberiza coides</i>	留鳥	ホオジロ属	ホオジロ科	スズメ目	◎				
86	カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>	冬鳥	ホオジロ属	ホオジロ科	スズメ目	△				
87	アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	冬鳥	ホオジロ属	ホオジロ科	スズメ目	△				
88	クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>	冬鳥	ホオジロ属	ホオジロ科	スズメ目	△				希少
-	イスワシ	<i>Aquila chrysaetos</i>	留鳥	イスワシ属	タカ科	タカ目	×	国天	国内	EN	危惧
-	コノハズク	<i>Otus sunia</i>	夏鳥	コノハズク属	フクロウ科	フクロウ目	×				危惧

※調査範囲は旧永源寺町内の鈴鹿の森

※調査期間は2002年～2023年

確認頻度	◎	よく見る
	○	普通
	△	あまり見ない
	×	現在は消失

外来種

番号	種名	学名	生息区分	属名	科名	目名	確認頻度
1	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>	留鳥	ガビチョウ属	チメドリ科	スズメ目	△
2	ソウシチヨウ	<i>Leiothrix lutea</i>	留鳥	<i>Leiothrix</i>	ソウシチヨウ科	スズメ目	△

* コジュケイも外来種ではあるが、すでに本州・四国・九州に広く分定着しているのので種リストに加えていない

付表 7. 鈴鹿の森で見られる哺乳類 (学名や分類は 2024 年河川水辺の国勢調査生物リストに準拠した。)

番号	種名	学名	属名	科名	目名	現地*1 確認種	文化財 保護法	種の 保存法	滋賀県 RDB 2020	彦根市 RDB 2005	特定 外来種	生態系 被害 外来種
1	ジネズミ	<i>Crocidura dsinezumi</i>	ジネズミ属	トガリネズミ科	モグラ目 (食虫目)				要注目種	要注目種 II		
2	ヒミズ	<i>Urotrichus talpoides</i>	ヒミズ属	モグラ科	モグラ目 (食虫目)					要注目種 II		
3	コウバモグラ	<i>Mogera wogura</i>	モグラ属	モグラ科	モグラ目 (食虫目)							
4	コキクガシラコウモリ	<i>Rhinohiphus cornutus</i>	キクガシラ コウモリ属	キクガシラ コウモリ科	コウモリ目 (翼手目)							
5	キクガシラコウモリ	<i>Rhinohiphus ferrumequinum</i>	キクガシラ コウモリ属	キクガシラ コウモリ科	コウモリ目 (翼手目)				絶滅危惧種	絶滅危惧種		
6	ニホンザル	<i>Macaca fuscata</i>	マカク属	オナガザル科	サル目 (霊長目)	○			要注目種	要注目種 I		
7	ノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>	ノウサギ属	ウサギ科	ウサギ目	○				要注目種 I		
8	ニホンリス	<i>Sciurus lis</i>	リス属	リス科	ネズミ目 (齧歯目)	○				危急種		
9	ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i>	ムササビ属	リス科	ネズミ目 (齧歯目)	○			希少種	危急種		
10	アカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>	アカネズミ属	ネズミ科	ネズミ目 (齧歯目)	○						
11	ヒメネズミ	<i>Apodemus argenteus</i>	アカネズミ属	ネズミ科	ネズミ目 (齧歯目)							
12	カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i>	カヤネズミ属	ネズミ科	ネズミ目 (齧歯目)				希少種	希少種		
13	ツキノワグマ	<i>Ursus thibetanus</i>	クマ属	クマ科	ネコ目 (食肉目)			国際	希少種	要注目種 II		
14	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>	アライグマ属	アライグマ科	ネコ目 (食肉目)						○	総-緊
15	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	タヌキ属	イヌ科	ネコ目 (食肉目)	○						
16	キツネ	<i>Vulpes vulpes</i>	キツネ属	イヌ科	ネコ目 (食肉目)	○						
17	ノイヌ (オオカミ)	<i>Canis lupus</i>	イヌ属	イヌ科	ネコ目 (食肉目)							総-重
18	テン (ホンドテン)	<i>Martes melampus (M. m. melampus)</i>	テン属	イタチ科	ネコ目 (食肉目)	○						
19	シベリアイタチ	<i>Mustela sibirica</i>	イタチ属	イタチ科	ネコ目 (食肉目)							
20	ニホンイタチ	<i>Mustela itatsi</i>	イタチ属	イタチ科	ネコ目 (食肉目)					要注目種 I		
21	アナグマ	<i>Meles anakuma</i>	アナグマ属	イタチ科	ネコ目 (食肉目)	○						
22	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>	ハクビシン属	ジャコウネコ科	ネコ目 (食肉目)	○				要注目種 II		
23	ノネコ	<i>Felis catus</i>	ネコ属	ネコ科	ネコ目 (食肉目)							総-重
24	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	イノシシ属	イノシシ科	ウシ目 (偶蹄目)	○						総-重
25	ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>	シカ属	シカ科	ウシ目 (偶蹄目)	○						
26	カモシカ	<i>Capricornis crispus</i>	カモシカ属	ウシ科	ウシ目 (偶蹄目)	○	特天		絶滅危惧種	希少種		

※旧永源寺町史の文献が含まれているため、鈴鹿の森外に生息する種も含まれていることに留意する必要がある。
*1: 自動撮影カメラ調査及び現地調査時に確認された種。なおイタチ属やネズミ科も確認されたが、種同定が困難なため除外した。

付表8. 鈴鹿の森で見られる森林と人との関わり一覽

番号	情報の名称	地区	人との関わり区分				情報の内容
			暮らし	信仰	生業	交流	
1	茨川・三筋の滝	茨川町	○		○		茶屋川の茨川廃村跡より奥にある滝で、惟喬親王が犬を連れてこの滝まで来たがあまりの険しさに引き返したため、犬返の滝の別名がある。
2	茨川の廃村	茨川町	○		○		茨川町はかつては茨茶屋村と呼ばれ、治田峠を越えての伊勢との交易の宿場として、また、蛇谷銀山の基地として栄えてきた。藤原岳と竜ヶ岳の中間にある治田峠は、天正11年に羽柴秀吉の伊勢亀山城攻めの際に、その軍勢の一部がここを通ったという記録がある。茨川は昭和40年に廃村になり、現在は茨川林道が茨川集落跡へ至る道として利用されているが、かつては君ヶ畑からノタノ坂を超えて茨川に至る古道が主要な交通路であった。
3	筒井利一さんの日記	茨川町	○	○	○	○	元茨川住民の筒井利一氏（故人）が村の日々の生活について詳細な日記を残しており、非常に貴重なものである。
4	新町との交流	茨川町	○		○		当時は炭産業者で、焼いた炭は治田峠を越えて新町（現在のいなべ市北勢町新町）の炭問屋に販売していた。
5	阿下喜での生活用品調達	茨川町	○		○		旧永源寺町政所や八日市市へ出るよりも、三重県側の新町へ出る方がはるかに便利であり、炭の販売のほか、生活用品の買い出しなどは新町へ出て行い、また、婚姻関係もあった。
6	萱尾・不動の滝	萱尾町	○	○	○		かつて萱尾には非常に大きな「萱尾瀧」があり、滝のそばにあった大瀧神社は、古来より神崎・愛知二郡の水田をすべて治めた社として、愛知川流域159村の農民の信仰が厚かった。
7	茶畑	君ヶ畑町			○	○	この地域は茶の生産に適しており、現在はスギ林になつて集落の周りも茶畑であった。茶畑の中に桑があり、適度な日陰によって、美味いお茶の生産できた。木地師のふるさと高松会の活動場所はかつての茶工場で、茶の生産に使用した用具などが残されている。
8	大火の発生	君ヶ畑町	○				昭和33年12月9日に君ヶ畑町で大火が発生し、多くの民家が焼けた。現在の民家を観察すると、それ以前から残る民家と立て直した民家の違いがわかる。
9	林業の歴史	君ヶ畑町			○		君ヶ畑町はスギの産地で、植林地のうち3分の2はスギであり、ヒノキは少なかつた。植林が盛んに行われ（君ヶ畑は県営林、造林公社が多い）、植栽のアルパイトに出ると収入があつた。昭和30年頃は直径1メートルの木を3本伐れば一年の生活ができたという。スギ、ヒノキを植林するために、広葉樹（シイタケ原木に利用）を盛んに伐採した。君ヶ畑には君ヶ畑製材所（従業員20名）と丸栄製材所（5名）があつた。また、政所には箕半（みのはん）チツプ工場もあつた。昭和39年頃から林業は衰退した。
10	木材の搬出	君ヶ畑町			○		伐採した木材の搬出方法には、木馬（キンマ）、架線（索道）、管流し（川の水で流す）があつた。川に流す方法としては、材を2メートルに玉切りし、川をせき止めて一気に流した。政所に木を拾う場所があつた。のた引きと言って、雪の中で引き出す方法もあつた。
11	ヒキヤマ	君ヶ畑町	○		○		ヒキヤマ（現在の地図に「ヒキノ」）と記載されている場所＝標高843.8mか）は公有林で、茅場であつた。刈った茅は茅葺屋根やお茶の肥料として利用していた。遊民に來たこともあつた。
12	薪炭林	君ヶ畑町			○		かつては薪炭生産が盛んで、炭や薪にして使っていた。炭にする木は種類が違う。炭は農協に販売し、八日市、三重まで販売し、その売りに上げて生活必需品を購入して帰つた。薪炭林の所が造林公社有林になつていく。
13	御池岳の草地化	君ヶ畑町			○	○	御池岳（日本庭園と呼ばれる場所付近）では平成8年か平成9年頃（タバコが原因）があり、草地になつた。草地化については二ホンシカの食害も関係していると思われている。
14	御池岳T字尾根のブナ林	君ヶ畑町			○		御池岳T字尾根のブナ林は東近江市の「100年後に残したい鈴鹿の森」に選定されており、すでにエコツアーなどにも活用されている。御池林道の利用区域であるこの周辺には県営林が非常に多くの面積を占めており、T字尾根の中腹もほとんどがスギ、ヒノキの人工林であるが、尾根の上層だけはブナ林が残されている。地元住民の話によると、県営林への貸し付けにあたり、尾根の部分は景観や環境保全への配慮から、人工林の対象から意図的に外したと、結果的に貴重なブナ林が残されることになつた。
15	御池岳の土地の境界争い	君ヶ畑町				○	御池岳の「御池平」と呼ばれる高地は多賀町大君ヶ畑が入会利用していたが、昭和38年にこの土地を近江鉄道に売却した。登記の手續中の昭和40年、同地は永源寺町大君ヶ畑の土地であるとして提訴され、その後、地形、地物の検討、地図の検討、古地図、古文書の検討、所有の検討が行われた結果、昭和47年に原告の主張を認め、君ヶ畑に含まれることとして境界が確定された。地図、古文書のこの話は、君ヶ畑町で開催された東近江市100年の森づくり地域ワークショップでも話題になり、これに興味を持った龍谷大学法学部の牛尾洋也教授が詳しく調べ、論文を書かれています。
16	君ヶ畑のアカガシ・ブナ林	君ヶ畑町	○				君ヶ畑町の背後の山には暖温帯を代表するアカガシ、冷温帯を代表するモミ、冷温帯を代表するブナが混在し、大木も見られるなど貴重である。また、この森は野生動物の生息場所としても重要な役割を果たしている。君ヶ畑町から宮坂峠を結ぶ古道沿いにはアカガシ、ブナ、イヌシダなどの大木が並木状に見られる。このように貴重な貴重な森が残されてきた背景は、大皇器地祖神社の神域として保護されてきたことや、彦根に通ずる古道の目印として残されてきたことなど、地域の人々々の信仰や暮らしと密接な関わりがあつたことが上げられる。

番号	情報の名称	地区	人との関わり区分					情報の内容
			暮らし	信仰	生業	交流	伝説	
17	長瀬の身代わり地蔵	君ヶ畑町	○	○		○		桑名から治田峠を越えて茨川へ降りてきた背董屋が、後ろをつけてきたものに気がついてきた心地がしなまいまに君ヶ畑の奥にある長瀬の橋までやってきた。そこでちらと振り返ると、橋のたもとのお地蔵さんが身代わりになっていた。それから誰となく「身替り地蔵」と呼ぶようになった。地蔵の祠は今も長瀬の橋の近くに残っている。
18	御池岳の名の由来	君ヶ畑町	○	○		○		御池岳は石灰岩の山で、山頂には石灰岩に特有の地形であるドリリーネに水が溜まってできた池がいくつもあり、これが山名の由来になっている。『日本山嶽誌』には「山上平坦ニシテ三十余池アリ」と記されており、雨乞神事の山として崇められてきた。大上郡甲長町北落のお花畑で知られる雨乞神事が御池岳を中心に行われてきた。下流の平野部でもこの山を信仰していた。
19	水利用	君ヶ畑町	○					谷から水を引いて、字ごと給水施設（水槽と蛇口）が設置されている。君ヶ畑町には8箇所の給水施設がある。
20	鈴鹿山脈の炭窯	黄和田町		○	○	○		鈴鹿山脈にはいたる所に炭窯跡があり、昭和30年代までは奥水原寺の山村地域の主産業であったことを示している。以下、『平成26年度大学地域連携課題解決支援事業成果報告』（東近江市・滋賀県立大学）より、黄和田の人は近くの山で焼いていた。遠い山は三重の人がやってくる焼いていた。1～3年で一つの山を焼いたら、移動してまた焼いていた。炭は三重県に持って行って売っていた。
21	黄和田のちん	黄和田町	○	○				黄和田町の日枝神社では、五穀豊穡の祈願をこめて「ちん」と呼ばれる14種の動植物を模した餅菓子（米、小麦、大豆、粟、黍、稷、蕨、芋、栗、柿、栗、栗、栗、栗、栗）をつくり、これを忌火で温めた油で唐揚げにする）を、村の若衆の名において氏子総代を通じて献上される。カニコのところが、イノシシの餅は子イヌを模して120個作られ、イノシシのちんは神主がもらい、オコゾは七日まで山の神に供えられる。その他、メインになる14種の「ちん」餅はいずれも二対のみに限られ、山の神、日枝のご祭神や神主に配られて供えられるもので、サル、ヒヨドリ、カメ、キツ、ビワの葉など多彩である。
22	水利用	黄和田町	○					茶屋川と神崎川の合流点付近の岩に穴をくり抜いて、本流の水を直接、黄和田集落へ水路で引いている。
23	岳詣り	黄和田町	○	○				毎年1回7月7日の岳詣りと言って、若い男の子が山の神に雨乞のお参りに行っていた。岩谷川の上の大杉まで行く。（略）当日は春に用意したセセリマンイの目印と目印やお神酒を持ち、鐘と太鼓を鳴らしながら登っていった。根元の周りが1丈5、6尺ある一本杉のところに着くと、周りを3周回って杉の前でゼンマイを当てる酒を飲んだり、杉には天狗の面が掛かっていた。杉には天狗の面が掛かっていた。杉には天狗の面が掛かっていた。杉には天狗の面が掛かっていた。
24	神崎川源流のトチノキ林	甲津畑町	○	○		○		神崎川の上流にあたる上水晶谷合合とコクイ谷合合の間、およびコクイ谷合合より上流の斜面にトチノキ林が分布している。千草街道沿いに幹回り3メートル級の大きな木が分布していることから、街道の目印として並木状に残された可能性はある。また、この周辺は三重県側からの方がアークセセスが良く、関わりも深いことから、三重県側の住民によるトチノキの実利用があった可能性があり、今後の調査が必要である。
25	千草街道の巨木並木	甲津畑町		○	○	○		千草街道には鉦山跡、蓮如上人遺跡、善住坊の隠れ岩、秘地蔵などの歴史遺産が残されており、また街道沿いには炭窯も多く、人とのかかわりが濃厚な古道である。
26	甲津畑の鉦山	甲津畑町	○	○				この街道沿いにミスナラ、オオモミジ、クマシジ、オオモミジ、ブナ、オオイタヤメダツ、トチノキなどの巨木が並木状に分布しており、街道の目印や日よけなどとして意図的に残されたものと思われる。
27	大峠の澤	甲津畑町	○	○		○		特に大シジと呼ばれるイヌシジの巨木は、蓮如上人が千草越えの際に敵の追撃があり、甲津畑の黒川銀右衛門が上人を炭窯に隠して難を逃れ、上人が傍らのシジの巨木を自分の忘れ形見に保存するよう託したという言い伝えがある。
28	秘地蔵	甲津畑町	○	○				甲津畑から藤切谷に沿って杉峠、さらに神崎川源流から根の平峠に至る千草街道沿いには御池鉦山、高昌鉦山などいくつかの鉦山があった。杉峠の東の御池鉦山では昭和30年代まで銅鉦石の採掘が行われ、学校跡や神社跡などの石垣も残されている。
29	姪が滝	佐目町	○	○		○		雨乞岳の山頂のすぐ横にある「大峠の澤」と呼ばれる池では昔から雨乞神事が行われており、雨乞岳の名の由来になった。
30	お金明神	佐目町	○	○		○		鈴鹿10座の雨乞岳とイブネへの登山道でもある千草街道でも、秘地蔵の祠が今も残されている。祠の近くに秘地蔵があったというこの地蔵は、街道を歩く人々の安全を守るためのものであったと思われるが、千草街道沿いで操業されていた鉦山（御池鉦山、高昌鉦山）などの隆盛とともに「あかがね地蔵」として鉦山関係者の信仰の対象となった。しかし、やがて鉦山は閉鎖され、鉦山関係者も去り、現在ももとの秘地蔵として地元住民に大事にされている。

番号	情報の名称	地区	人との関わり区分					情報の内容
			暮らし	信仰	生業	交流	伝説	
								箕川にはトチノキがたくさんある。山の神さんには子孫繁栄や豊作を願ってトチノキで男性と女性を分けて、山の神さんに参りをしている。こつちでは餅餅はしません。実は朽木の方から買ってくる人が売っていました。
49	筒井峠への古道	箕川町			○			箕川町の集落から筒井峠を経て彦根方面に抜ける古道が2万5千分の1地形図に破線で記されており、今後、エコツアーズ等を利用して利用する場合は再整備が必要。
50	十字禿	箕川町	○					箕川トネネルの東の山頂には「十字禿」と呼ばれる急斜面があり、山くずれがしやすく、また、木が育ちにくいことから、昔から伐採を戒められてきた。
51	薪炭林と林業	箕川町			○			明治から昭和初期までは炭焼が主産業で、天然のスギ、ヒノキは大きくなく残るまで残っていた。戦後の昭和20年代から薪炭林をスギ、ヒノキの造林地に変えていった。昭和45年頃まで、伐採したスギ、ヒノキは三重県の鈴鹿、四日市の木材市場に運搬して販売していた。当地は酸性土壌でスギの色つやが良い。現在の県道は戦前は馬車道(幅員2メートル程度)で、昭和37年頃に現在のようになつた。町内には5軒の材木屋(製材工場)があった。木材は電柱、舟板、樽木として利用。昭和20年～45年頃は女性も毎日山に入り、枝打ちや下刈りをしていった。
52	クサギ	箕川町	○					クサギは伐採後に生えてくる樹木で、葉は臭いが、湯がいて天日に干して冬の保存食にした。
53	天狗の滝	枉葉尾町	○					神崎川の上流にある自然度の高い滝で、周辺の渓谷はゴルジュ帯(廊下帯)となり、沢登り(ジャワークライミング)の対象になっている。
54	風越谷・不動の滝	枉葉尾町		○				神崎川の支流である風越谷にある滝で、滝の近くには不動尊が祀られているとのことである。『神崎郡誌稿』によると、この滝は比較的山の回峰修験の僧が不動尊を納めたということである。
55	銚子が口のカヤト	枉葉尾町	○					「山と高原地図」の銚子ヶケ口山頂付近には「カヤトの尾根」と記載されており、かつては枉葉尾町の民家の屋根材として利用するため茅場であったと思われる。現在の銚子ヶケ口東峰周辺はウリハダカエデの純林になっている。ウリハダカエデは先駆樹種(パイオニア)であり、茅場が利用されなくなると後に侵入して林になったものと思われる。
56	鹿垣(ししがき)	枉葉尾町			○			枉葉尾町の山の中に鹿垣(ししがき)と呼ばれる石垣が今も残されている。
57	水利用	枉葉尾町	○					枉葉尾集落の谷の上流の湯(井)から水路で水を引き、集落内では水路網によって田用水や生活用水に利用している。
58	カヤの実	枉葉尾町	○					枉葉尾町の集落内や河原にカヤの大木が今も残されている(フットパス資源調査で判明)。 以下、『平成26年度大学地域連携課題解決支援事業成果報告』(東近江市・滋賀県立大学)より。 かやの大きな木が近所にあつて偶然落ちていた実を拾ったのがきっかけ。孝子さんは煎つてそのまま食されたが、和子さんは油分が多い木の实のため、薪の灰をまぶして一週間おいておく。その後、とき汁で一昼夜漬けておく。そのあと殻をむいて、内皮がついたまま天日干しする。そのあととめくり時間をかけて煎ると極上の味になるとのこと。
59	渋川七滝	和南町				○		渋川の downstream にある7つの滝群で、『近江神崎郡誌稿 下巻』の第十一編地理誌に「瀧之浦の五瀑」として紹介されている。
60	八風峠					○		八風街道は、鎌倉、室町の頃から山越商人がここを越えて伊勢、東海方面と交易をおこなった古道であり、峠には鳥居と「八風大明神」の石碑がある。 『小椋の山里』に「八風峠の山あらし」という民話があり、この峠を越えるときに瀬戸物を割って破片を投げ捨てることと暴風雨が吹き荒れるとの話である。
61	竜ヶ岳西尾尾根(太尾)のアアカガシ林				○			竜ヶ岳西尾尾根(太尾)にはアアカガシが密度高く分布しており、比較的大きな個体も見られ、東近江市の「100年後に残したい鈴鹿の森」に選定されている。薪炭林として利用されたと思われ、株立ちや境界木として伐り残されたと思われ、人との関わりが見ることができている。
62	焼野				○			茶屋川の左岸にある焼野は政所から山ノ神峠を経て石榑峠に至る伊勢への交易路の中継点と考えられ、昔は草地であったことから焼畑としていた場所であるという説もある。
63	釈迦ヶ岳の名の由来			○				鈴鹿10座の1つである釈迦ヶ岳は、山の形が釈迦の寝姿に似ていることに由来するとの説があり、仙香谷など仏教との関係を想起させる地名も見られる。 「千本杉」という民話、釈迦ヶ岳に隠棲する聖人の弟子になろうと訪ねた山伏が、その思いを果せず、その塚の傍らに珍しい杉が生えてきたという話で、このあたりにが仏教の修業の場であったことをうかがわせる。
64	天狗の名の付く地名				○			鈴鹿には天狗堂、天狗の滝、天狗岩など天狗の名の付く地名がある。天狗はイヌワシ(狗鷹)のこととも言われ、イヌワシが険しい岩場に営巣したほか、岩山の上昇気流に乗って飛翔することから、こうした険しい地形に天狗の名が付いたものとされている。

※今回の調査等で収集した情報のみを記載しており、鈴鹿の森で見られる全ての森林と人との関わりを表したものではありません。留意する必要がある。

東近江市森の文化資源調査報告書 3
自然調査報告書

令和 8 年 3 月

編集・発行 東近江市企画部森の文化推進課
〒527-8527

滋賀県東近江市八日市緑町 10 番 5 号

印刷・製本 福田屋印刷